ニ　功績顯著ト認ムベキ事由ノ詳細

ホ　其ノ他參考トナルベキ事項

二　個人ニ關スル事項

イ　住所、職業、氏名及年齡

ロ　性行、經歷及賞罰

ハ　功績顯著ト認ムベキ事由ノ詳細

ニ　其ノ他參考トナルベキ事項

第三條　表彰ハ表彰狀ヲ授與シテ之ヲ行フ表彰ヲ行ヒタルトキハ之ヲ公示ス

第四條　功勞者表彰前ニ死亡シタルトキハ之ヲ追賞ス

●警察賞與規則

明治三十二年十月十日
勅令第四百二號

改正　明三四年三月勅令一二號、四三年三月二〇號、四四年四月一一八號、大一一年三月一二八號

朕警察賞與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內、大臣副署）

警察賞與規則

第一條　警察賞與ハ內務大臣ノ定ムル規程ニ從ヒ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテ行フモノトス

第二條　北海道地方費警察費又ハ府縣警察費ヨリ給與ヲ受クル警部補、巡查其ノ他ノ吏員ニ行フヘキ賞與ニ要スル費用ハ北海道地方費警察費又ハ府縣警察費ヲ以テ支辨シ其ノ他ノ賞與ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トシ賞與ヲ行フ廳府縣ニ屬スル經費ヲ以テ支辨スヘシ

第二條ノ二　本令中內務大臣ノ職務ハ領事館ノ管轄區域內ニ在リテハ外務大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第三條　本令ハ明治三十二年十月十五日ヨリ施行ス

附　則（大正十一年勅令第百二十八號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年勅令第百十三號及明治四十四年勅令第二十三號ハ之ヲ廢止ス

●警察賞與規則施行細則

明治四十四年四月二十三日
廳令第十三號

警察賞與施行細則

第一條　警察官吏其ノ他警察事務ニ從事スル者ニシテ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ之ヲ賞與ス

一　甲賞（金十五圓以上五十圓以下ノ金額授與）

二　乙賞（金十五圓未滿ノ金額授與）

三　賞詞

功勞拔群一般ノ龜鑑ト爲ルヘキ者ニ對シテハ金百圓迄ノ特別賞ヲ授與スルコトアルヘシ

〔樺法〕

第二條　消防組員又ハ私設消防組員ニシテ水火災警戒防禦ニ關シ功勞アル者ニ對シテハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三條　前二條ノ功勞者ニシテ賞與前刑事被告人ト爲リ又ハ懲戒處分ニ依リ其ノ職ヲ免セラレ又ハ文官分限令第十一條第一號第二號ニ依リ休職ヲ命セラレタルトキハ賞與ヲ行ハサルモノトス

第四條　職務ノ爲ニスルニ非スシテ左ノ事項ニ關シ特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテハ第一條ノ區別ニ依リ之ヲ賞與ス

一　犯罪人ノ逮捕又ハ搜查

二　人命救助

三　水火災、傳染病流行其ノ他災害事變ニ於ケル警戒、防禦又ハ救護

四　急迫ノ際警察官ニ對シテ爲シタル協力

前項第一號ニ依ル賞與ハ確定判決ニ至ラスト雖犯罪ノ事實明白ナリト認ムヘキトキハ之ヲ行フコトヲ得

第五條　第四條ノ功勞者ニシテ賞與前處刑セラレタルトキハ賞與ヲ行ハサルコトアルヘシ

第六條　功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ之ヲ給ス但同順位間ニ在テハ其ノ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニシ同親等間ニ在テハ男ハ女ニ同性間ニ在テハ長ハ幼ニ先ツ

一　配偶者

二　直系卑屬

三　直系尊屬

四　兄弟姉妹

附　則

〔樺法〕

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警察賞與具申心得

大正五年四月十七日
訓令第六十三號

內務部　警察部　各支廳

警察賞與具申心得

第一條　警察賞與規則施行細則第一條第二條第四條ニ該當スル者アルトキハ當該部長若ハ支廳長ハ別記第一號又ハ第二號樣式ニ依リ行賞ノ具申ヲ爲スヘシ

前項ノ該當者二人以上アリテ其ノ所屬ヲ異ニスルトキハ各所屬長連署ヲ以テ具申スヘシ

第一項ノ該當者ニシテ他ノ所屬ニ係ルトキハ其ノ功勞ノ顚末ニ關係書類ヲ添ヘ當該長ニ移牒スヘシ

第二條　前條ノ具申書ニ於テ事實ノ詳細ヲ悉ス能ハサルトキハ事件ニ應シ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　功勞者ノ始末書又ハ始末聽取書

二　功勞カ犯人ノ檢擧逮捕ニ係ルトキハ豫審決定又ハ裁判宣告ヲ證スル書面

第三條　功勞者二名以上ニシテ等差アリト認ムルトキハ具申書ニ差等ノ始末書又ハ始末聽取書ハ連署若ハ連名ト爲スコトヲ得

功勞者二人以上アリテ功勞ノ事實同一ノ狀態ナルトキハ前項第一號

實績ヲ明記シ仍其ノ人名ノ上ニ甲乙丙丁等ノ區別ヲ朱記スヘシ

第四條　功勞拔群ニシテ一般ノ龜鑑トナリ特別賞與又ハ功勞記章ヲ附與スヘシト認ムル者ニ在リテハ其ノ事實素行勤務ノ狀況及前賞等ヲ附記スヘシ

第五條　官吏以外ノ功勞者ニシテ具申後行賞迄ノ間ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ直ニ其旨報告スヘシ

附則

明治四十年六月訓第六十四號警察賞與具申手續ハ之ヲ廢止ス

第一號様式甲（犯人逮捕賞與具申ノ場合）

第　　　號

年　月　日　　　部、支廳長

樺太廳長官　　　殿

警察賞與具申

官職氏名及勤務ノ種別（一般人民ニアリテハ本籍住所職業氏名及年齢）							
犯人罪名及現行非現行ノ別		前科		檢擧犯罪件數		犯人本籍住所身分職業氏名年齢	
逮捕年月日及場所							
確定判決年月日及刑名刑期金額							
逮捕							
贓物發見價格				被害價格			
處理							

效果	

第一號様式乙（犯人逮捕賞與具申ノ場合）

犯罪事實	端緒ノ發見	搜查ノ狀況	備考

注意

一　功勞ニ差等ヲ附シタルトキハ其事由ヲ端緒ノ發見欄搜查ノ狀況欄又ハ備考欄ニ記載スヘシ

二　犯人罪名ハ確定判決後ニ於テ上申スヘキモノニ付テハ判決ニ依ル罪名ヲ記載スヘシ

三　前科ノ欄ニハ單ニ窃盜前科何犯横領前科何犯等ト記載スヘシ

四　檢擧犯罪件數ノ欄ニハ現ニ檢擧シタル件數ヲ強盜何件窃盜何件等ト記載スヘシ

五　記載スヘキ事項多クシテ各本欄ニ記載シ難キトキハ之ヲ別紙ニ記載シ其旨相當欄内ニ記載スヘシ

第二號様式甲（人命救助、水火災其他ノ災害事實ニ於ケル警戒防護ニ關シ賞與ヲ具申スル場合）

第　　　號

年　月　日　　　部、支廳長

樺太廳長官　　　殿

警察賞與具申

官氏名及勤務ノ種別（一般人民ニ在リテハ本籍、住所、職業氏名及年齢）	
被救助者ノ本籍住所氏名（人命救助ノ場合）	
處理效果	

第二號様式乙（人命救助、水火災其他ノ災害事實ニ於ケル警戒防護ニ關シ賞與ヲ具申スル場合）

警戒防護又ハ救護年月日場所	

危難災害又ハ事變ノ狀況	警戒防護又ハ救護ノ狀況	備考

第二章　恩給

●恩給法

大正十二年四月十四日
法律第四十八號

改正　昭八年四月法律第五〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（國務各大臣副署）

恩給法

第一章　總則

第一條　公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　恩給年額竝一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條　時效期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時效完成セス

時效期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時效完成セス

時效期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時效期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時效期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

〔樺法〕

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ
二　死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ
三　國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ因リ禁錮以上ノ刑（陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス）ニ處セラレタルトキハ其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス

第九條ノ二　裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ニ付其ノ權利ノ存否ヲ調査スヘシ

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外內閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條　行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ內閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

〔樺法〕

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ內閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ公務傷病ノ程度ニ付テハ出訴ヲ爲スコトヲ得ス

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條　內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審查會ニ諮問スヘシ

恩給審查會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一　文官及準文官竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
二　軍人及準軍人竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス
三　朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾唖學校及小學校ニ類スル各種學校ノ敎育職員及準敎育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス
四　前號ニ規定スル者以外ノ敎育職員及準敎育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
五　警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
六　待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル

者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條　前條第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄內ニ於テ在職シタル第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章　公務員

第一節　通則

第十九條　本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員並第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條　文官トハ武官又ハ宮內官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條　軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者
二　國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生
二　勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條　教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　公立ノ學校、幼稚園若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
二　道府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校又ハ幼稚園ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條　警察監獄職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　警部補、巡査、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛
二　看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守
三　判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條　待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職
二　判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ職員（前條第二號ニ掲クル者ヲ除ク）、感化院職員及矯正院職員
三　地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
四　前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條　本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職
二　現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト
三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條　本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職

二　現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス

三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

五　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條　第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ戰務、戒嚴地境内ノ勤務又ハ外國ノ鎭戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條　公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第八十二條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條　公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條　軍人又ハ警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ准士官以上ノ軍人ニ付テハ十三年ニ達スル迄、下士官以下ノ軍人及警察監獄職員ニ付テハ十二年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條　（削除）

第三十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一　戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二　戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　公務員戒嚴地境内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國鎭戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條　航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條　潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條　公務員其ノ職務ヲ以テ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條　海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三分ノ一ヲ加算ス一年以上引續キ編隊艦船ニ乘シテ上陸制限ノ下ニ準戰訓練ニ服シタルトキ亦同シ

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十條ノ二　休職、待命、歸休、停職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ亘ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減ス

第四十一條　左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二　第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三　在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四　公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數

五　公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

六　宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條　左ニ掲クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一　宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數

二　準軍人ノ在職年月數

三　高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四　準敎育職員引續キ敎育職員ト爲リタルトキハ敎育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ準軍人又ハ皇宮警手トシテノ在職年ハ夫々之ヲ軍人又ハ警察監獄職員トシテノ在職年ト看做ス

第四十三條　第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十條ノ二及第四十一條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條　本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條　公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條　公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官廳ニ於テ恩給審査會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審査會ニ於テ不具癈疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十六條ノ二　公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年內ニ退職シタルトキ又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後一年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件（傷病ノ程度ヲ除ク）ヲ具備スルモノニシテ退職當時ノ傷病ノ程度カ前項ノ勅令ニ定ムル程度ニ達セサリシモノノ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スヘキ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

第四十七條　前二條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準敎育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一　勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二　戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三　公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具癈疾ノ程度及傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度並敎育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準敎育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第五十一條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クル資格ヲ失フ

一　懲戒、懲罰又ハ敎員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第二號但書及第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ退職

シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癈疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病ガ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十五條ノ二　前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十六條　前三項ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條　前四條ノ規定ハ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一　公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

三　之ヲ受クル者三十五歲ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歲以上四十歲ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト倂給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス

四　恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法竝停止方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項第二號ノ規定ハ增加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

下士官以上ノ軍人ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

敎育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ敎育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

警察監獄職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第五十九條ノ二　本節ニ於テ退職前ノ俸給年額ト稱スルハ退職前一年內ノ俸給（軍人及準軍人ニ在リテハ各階等ニ付定メラレタル別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ其ノ階等ニ對スル俸給額トス）ノ總額ヲ謂フ但シ左ノ特例ニ從フ

一　公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡ノ際昇給アリタルトキハ其ノ爲サレタル昇給ノ中級俸ノ定アルモノ（軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ級俸トス）ニ付テハ一級、其ノ定ナキモノニ付テハ昇給前ノ俸給ノ百分ノ十五ヲ限度トシ退職一年前ヨリ昇給セラレタルモノトシテ計算ス

二　前號ニ規定スル場合以外ノ場合ニ於テ退職前一年內ニ昇給アリタルトキハ其ノ昇給カ前俸給二年以上据置ノ後爲サレタルモノナルトキニ限リ前號ノ規定ヲ準用ス

轉官職ニ依ル俸給ノ增額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル退職前一年內ノ俸給ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

實在職期間一年未滿ナルトキハ其ノ俸給額ヲ月數ノ割合ニ依リ一年分ニ換算ス

本節ニ於テ退職前ノ俸給月額ト稱スルハ退職前ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ

第二節　恩給金額

第六十條　文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額

ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國官勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年七年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號、第五十五條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十一條　准士官以上ノ軍人在職年十三年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第一號ノ準軍人在職年十三年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年以上十四年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十四年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前條第三項ノ規定ハ准士官以上ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ二年以上實在職シ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職十三年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條ノ二　下士官以下ノ軍人在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第二號ノ準軍人在職年十二年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ下士官ニ在リテハ七圓、兵ニアリテハ六圓ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項竝前條第五項、第七項及第八項ノ規定ハ下士官以下ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

第六十二條　教育職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校又ハ其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條　警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項及第四項竝第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條ノ二　一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年數一年ヲ二月ニ換算シタル月數内ニ召集其ノ他ノ強制ニ依ラスシテ再就職シタル者ニ普通恩給ヲ給スル場合ニ於テハ當該換算月數ト退職ノ翌月ヨリ再就職ノ月迄ノ月數トノ差月數ヲ一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ニ乘シタル金額ノ十五分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勅令ノ定ムル時期ニ於テ返還シタルトキハ此

ノ限ニ在ラス

第六十五條　公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ二　公務員ノ傷病年金ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ傷病年金ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條　下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ傷病年金ヲ給セラルルノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等竝傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條　文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條　准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿ニシテ又ハ下士官在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士官以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十九條　（削除）

第七十條　警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條　（削除）

第三章　遺族

第七十二條　本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戶籍內ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一　在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二　普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戶主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三　其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

前項第一號又ハ第二號ニ規定スル場合及增加恩給ヲ併給セラルル者ノ死亡シタル場合ニハ其ノ死亡ノ月ノ翌月ヨリ五年間ハ前項ノ規定ニ依ル扶助料ノ年額ニ各其ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ加給ス

第七十六條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ廢シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條　扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

第八十七條　第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條　從前ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條　府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年、警察監獄職員ニ在リテハ三年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡査ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條　朝鮮總督府巡査補ヨリ朝鮮總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡査補及朝鮮總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

〔樺法〕

第九十五條　臺灣總督府巡査補ヨリ臺灣總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條　大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條　第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條　第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具癈疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條　（削除）

第百條　本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

〔樺法〕

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ增額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ竢タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ增額セラレタルモノト看做ス

第百一條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ增給ス

第百二條　明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衞若ハ衆議院守衞又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ增額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル

一　其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

屆出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ入リタリト認メラルル遺族ニ付テハ裁定官廳ハ恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得

裁定官廳ハ前項ニ規定スル事情ヲ調査スル爲必要アルトキハ他ノ官廳又ハ公署ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條　文官、敎育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿、准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿、下士官タル軍人又ハ警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第五十九條ノ二第五項ノ規定ハ死亡前ノ俸給月額ニ付之ヲ準用ス

第七十三條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第七十四條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

附　則

第八十三條　本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一官吏恩給法
一官吏遺族扶助法
一軍人恩給法
一市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料法
一府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
一明治二十四年法律第四號
一明治二十九年法律第十三號
一官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
一明治二十九年法律第七十八號
一明治三十三年法律第七十五號
一明治三十三年法律第七十六號
一明治三十三年法律第七十七號
一巡査看守退隱料及遺族扶助料法
一明治三十五年法律第二十九號
一在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法

一明治四十年法律第四十八號
一明治四十年法律第四十九號
一明治四十一年法律第三十五號
一明治四十三年法律第三十號
一明治四十四年法律第六十一號
一明治四十四年法律第六十七號
一明治四十五年法律第十一號
一明治四十五年法律第十二號
一大正七年法律第三十號
一大正十年法律第三十五號
一大正十年法律第九十四號
一大正十一年法律第十八號
一大正十一年法律第十九號
一明治二十二年勅令第百三十三號
一明治二十三年勅令第九十八號
一明治二十五年勅令第十八號
一明治二十五年勅令第三十二號
一明治三十二年勅令第百九十六號
一明治三十八年勅令第二百二十九號
一明治四十年勅令第百八十八號
一明治四十年勅令第百八十九號
一明治四十一年勅令第七十一號
一明治四十五年勅令第七十號
一大正七年勅令第六十二號
一大正十年勅令第二百六十八號
一大正十一年勅令第八十七號
一大正十一年勅令第二百八十四號
一明治九年第九十九號達陸軍恩給令
一明治十五年第四十一號達巡査看守給助令
一明治十六年第三十八號達海軍恩給令
一明治十七年第一號官吏恩給令

第八十五條　本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條　第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條　從前ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條　府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校敎員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ敎育職員若ハ準敎育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ敎育職員若ハ準敎育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年、警察監獄職員ニ在リテハ三年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡査ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條　朝鮮總督府巡査補ヨリ朝鮮總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡査補及朝鮮總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

〔樺法〕

第九十五條　臺灣總督府巡査補ヨリ臺灣總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條　大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條　第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條　第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具癈疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス

仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條　（削除）

第百條　本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

〔樺法〕

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ增額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ竢タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ增額セラレタルモノト看做ス

第百一條　本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ增給ス

第百二條　明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衞若ハ衆議院守衞又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ增額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ敎育職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル

モノニ付之ヲ準用ス

第百三條　北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百四條　第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一號表

（甲）

階等		假定俸給年額
將官及相等官	親任	七、五〇〇圓
	高等官一等	六、五〇〇圓
	同上二等	五、六〇〇圓
佐尉官及相當官	同上三等	四、六〇〇圓
	同上四等	三、九五〇圓
	同上五等	三、二五〇圓
	同上六等	二、三五〇圓
	同上七等	一、七〇〇圓
	同上八等	一、四〇〇圓

（乙）

階等		假定俸給年額
准士官	判任官一等	一、二〇〇圓
下士官	同上二等	八五五圓
	同上三等	七六五圓
	同上四等	六七五圓
兵	海軍一等兵	六〇〇圓
	陸軍上等兵 海軍二等兵	五四〇圓
	陸軍一等兵 海軍三等兵	四九五圓
	陸軍二等兵 海軍四等兵	四五〇圓

第二號表

傷病原因 症狀等差 階等				甲號							乙號						
				戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務							普通公務						
				特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
親任 勅任		勅任待遇	將官	圓	二、四〇〇	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、二八〇	一、〇〇〇	八〇〇	圓	一、九二〇	一、六〇〇	一、二八〇	一、〇二四	八〇〇	六四〇
奏任	三等乃至五等	奏任待遇	佐官	圓	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	九六〇	七五〇	六〇〇	圓	一、四四〇	一、二〇〇	九六〇	七六八	六〇〇	四八〇
	六等乃至九等		尉官	圓	一、二〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	六四〇	五〇〇	四〇〇	圓	九六〇	八〇〇	六四〇	五一二	四〇〇	三二〇
判任	一等	判任待遇	准士官	圓	一、〇八〇	九〇〇	七二〇	五七六	四五〇	三六〇	圓	八六四	七二〇	五七六	四六一	三六〇	二八八
	二等 三等		下士	圓	九九〇	八二五	六六〇	五二八	四一三	三三〇	圓	七九二	六六〇	五二八	四二三	三三〇	二六四
	四等		兵卒	圓	九〇〇	七五〇	六〇〇	四八〇	三七五	三〇〇	圓	七二〇	六〇〇	四八〇	三八四	三〇〇	二四〇

備考　特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以內ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

階等		判任一等 判任待遇	判任二等三等 判任待遇	判任四等 判任待遇
傷病原因	症狀等差	准士官	下士官	兵
甲號　戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	第一款	三一二圓	二八六圓	二六〇圓
	第二款	二四〇	二二〇	二〇〇
	第三款	一九二	一七六	一六〇
	第四款	一五六	一四三	一三〇
乙號　普通公務	第一款	二五二圓	二三一圓	二一〇圓
	第二款	一九二	一七六	一六〇
	第三款	一五六	一四三	一三〇
	第四款	一三二	一二一	一一〇

高等官及同待遇者ニ給スヘキ金額ハ判任一等ノ者ニ給スヘキ金額ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四號表

傷病原因	症狀等差	下士官	兵
甲號　戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	第一目	九九〇圓	九〇〇圓
	第二目	八二五	七五〇
	第三目	六六〇	六〇〇
	第四目	四九五	四五〇
	第五目	三三〇	三〇〇
	第六目	一六五	一五〇
乙號　普通公務	第一目	七九二圓	七二〇圓
	第二目	六六〇	六〇〇
	第三目	五二八	四八〇
	第四目	三九六	三六〇
	第五目	二六四	二四〇
	第六目	一三二	一二〇

附　則（昭和八年法律第五〇號）

第一條　本法ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十六條ノ二、第五十八條第一項第四號及第五十九條ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ第五十八條第一項第四號ノ改正規定ハ本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第三條　第十三條第二項但書ノ改正規定ハ本法施行前ヨリ行政裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條　第十八條第一項ノ改正規定ニ依ル納付金額ハ同項ニ規定スル公務員ニ付テ附則第九條ノ規定ノ必要ナキニ至ル迄ハ第十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ同項ニ規定スル公務員ガ第五十九條（改正前又ハ改正後）及附則第九條ノ規定ニ依リ納付スル金額ノ合計額ト同額トス

第五條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ加算年又ハ休職等ノ減算ニ關スル改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條　第四十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職、待命、歸休、停職其ノ他同條ニ規定スル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本法施行後ト雖モ同條ノ規定ヲ適用セズ

第七條　傷病年金ハ本法施行後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ之ヲ給ス但シ本法施行前賑恤金（之ニ準ズルモノヲ含ム）又ハ傷病賜金ヲ受クベキ事由ヲ生ジタル者ニハ本法施行前其ノ事由ヲ生ジタルトキト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ッテ・

之ヲ給ス

第八條　第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズル者ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ規定スル者本法施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル增額分ニ付第五十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用ス

第九條　第五十九條ノ改正規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後就職シ又ハ俸給（又ハ給料）ガ昇給若ハ增額セラレタル月ノ翌月ヨリ之ヲ適用ス

第十條　第五十九條ノ二第一項但書ノ場合ニ於テ其ノ公務員ガ同一種類ノ公務員トシテ實在職年二十年以上勤續シタル者ニシテ特殊ノ事情アルモノニ付テハ當分ノ内同但書各號ニ於ケル制限ノ一級ヲ二級、百分ノ十五ヲ百分ノ三十トス

第十一條　本法施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ニハ其ノ者ガ本法施行後改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達セズシテ退職シタル場合ト雖モ退職前ノ俸給ニ依リ之ニ普通恩給ヲ給ス但シ其ノ年額ハ在職年ノ不足一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第十二條　前條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達スルモノニ付之ヲ準用ス

第十三條　第六十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前受ケタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十四條　第七十五條第二項ノ改正規定ハ公務員ガ本法施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本法施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十五條　恩給法施行前同法第二十三條ニ掲グル公務員トシテ普通恩給（退隱料）ヲ受ケ引續キ文官ニ任ジ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ普通恩給（退隱料）ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレザリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラズ特ニ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法施行前ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給（退隱料）ヲ文官ノ普通恩給ニ改定ス但シ恩給法施行後文官退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ增額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ恩給法施行後本法施行前ニ文官トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル者引續キ本法施行後迄在職スルトキハ恩給法第八十五條第一項ノ規定ニ拘ラズ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ同法第二十三條ニ掲グル公務員トシテノ普通恩給（退隱料）ヲ文官トシテノ普通恩給ニ改定ス

第十六條　第九十一條第二項ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ在職シ從前ノ同項ニ規定スル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十七條　本法施行ノ際現ニ在職シ恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ恩給ノ停止ニ付テハ其ノ者ガ引續キ其ノ官職ニ在職スル期間ニ限リ仍同法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

〔樺法〕

第十八條　本法施行前恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザリシ者又ハ前條ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ當該在職期間ト他ノ公務員ノ在職年トノ通算ハ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條　前條ニ規定スル者ヲ除クノ外恩給法第九十九條第一項ニ規定シタル者ノ大正十二年十月一日以後ノ他ノ公務員ノ在職年ト互ニ通算ス但シ本法施行前ニ給與事由ノ生ジタル場合ニ於テハ其ノ者ガ再就職シ本法施行後退職又ハ死亡シタル場合ニ限リ此ノ規定ニ依ル

前項ニ規定スル者ノ大正十二年九月三十日以前ノ在職年ノ同日以前ノ他ノ公務員ノ在職年トノ通算ニ付テハ同日以前ノ舊法ノ例ニ依ル

第一項ニ規定スル者ノ大正十二年十月一日前後ノ在職年ノ通算ニ關シテハ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用ス

●恩給法施行令

大正十二年八月十七日
勅令第三百六十七號

改正　大一二年一二月勅令五二〇號、一三年三月五一號、一二月四〇七號、一四年四月五三號、一五年七月二四四號、九月三〇四號、昭二年一二月三六二號、三年四月七三號、五年二月一九號、七年四月六〇號、八年九月二三六號、一一月三〇五號

〔樺法〕

朕恩給法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

恩給法施行令

第一條　恩給法第九條ノ二ノ規定ニ依ル恩給受給權存否ノ調査ハ受給者ノ身分關係ノ變動ノ有無ニ付之ヲ行フ

遺族タル夫又ハ成年ノ子カ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ條件トシテ扶助料ヲ給セラルルトキハ其ノ者ニ付テハ前項ニ規定スル事項ノ外特ニ右事情ノ繼續ノ有無ヲ調査ス

第一條ノ二　受給者ハ左ノ區別ニ從ヒ調査上必要ナル書類ヲ裁定官廳ニ提出スヘシ

一　前條第一項ノ事實ヲ證スル爲ニハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者及妻ニ在リテハ戸籍抄本、妻以外ノ扶助料權者ニ在リテハ戸籍謄本

二　前條第二項ノ事實ヲ證スル爲ニハ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ證スル居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

前項ノ書類ハ事實カ裁定官廳ニ顯著ナル場合又ハ他ノ相當官公署ノ證明アル場合ニ於テ裁定官廳カ明カニ之ヲ承認シタルトキハ其ノ承認ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一條ノ三ニ規定スル書類ヲ提出スヘキ月カ恩給ノ裁定ヲ受ケタル月（證書ノ日附ニ在ル月）ノ翌月ヨリ十二月内ニ在ルトキハ其ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セス

第一條ノ三　各受給者ハ前條ノ書類ヲ左ノ區別ニ從ヒ隔年提出スヘシ

一　公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテ恩給ヲ受クル者ハ一月

二　遺族トシテ恩給ヲ受クル者ハ七月

陸軍ノ軍人、之ニ準スヘキ者及警察監獄職員竝其ノ遺族ハ昭和ノ偶數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出シ他ノ公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ其ノ奇數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出スヘシ

第一條ノ四　第一條ノ二ニ規定スル書類ヲ提出セサル受給者ニ對シテハ之ヲ提出スヘキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ一時差止ムヘシ

第一條ノ五　恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在リタルコトヲ要ス

第二條　恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條　恩給法第十二條ノ規定ニ依リ內閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スベキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一　內地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ敎育職員及準敎育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

二　前號ニ掲クルモノヲ除クノ外內地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ敎育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

三　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ敎育職員及準敎育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス

四　朝鮮、臺灣、樺太、關東州（南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ）又ハ南洋群島ニ於ケル警察監獄職員（陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督（道ノ警部補、巡査及消防手竝其ノ遺族ノ恩給ハ道知事）、臺灣ニ在リテハ臺灣總督（州又ハ廳ノ警部補及巡査竝其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五　內地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）之ヲ裁定ス

六　恩給法第二十四條第三號ニ掲クル待遇職員（國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事、（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ裁定ス

〔樺法〕

第四條　恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ退職又ハ死亡前一年以內ノ俸給年額ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

但シ退職又ハ死亡ヲ以テ終ラサル在職ニ付テハ右ノ退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ニ代ヘ在職最終ノ俸給年額（軍人及準軍人ニ付テハ恩給法別表第一號表ノ金額）ニ依ル

前項ニ規定スル退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ハ恩給法第五十九條ノ二ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算出ス

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一　恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二　恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十一條ノ二第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付六月

前四項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

〔樺法〕

第五條　恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條　左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一　地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二　都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三　神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四　朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條　恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍戶山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補生、海軍豫備生徒竝海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條　恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

第九條　恩給法第二十二條第三項ノ準敎育職員トハ敎授心得、助敎授心得、敎諭心得、助敎諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任敎員タルモノヲ謂フ

第十條　恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　道路管理職員制ニ依ル職員

二　地方土木職員制ニ依ル職員

三　地方產業職員制ニ依ル職員（市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）

四　地方測候所職員制ニ依ル職員

五　地方學校衞生職員制ニ依ル職員
六　地方社會敎育職員制ニ依ル職員
七　地方社會事業職員制ニ依ル職員
八　地方建築職員制ニ依ル職員
八ノ二　地方警察職員制ニ依ル職員
八ノ三　地方體育運動職員制ニ依ル職員
九　防疫職員制ニ依ル職員
十　稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員
十一　臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員
十二　廳府縣衞生職員制ニ依ル職員
十三　癩療養所職員制ニ依ル職員
十四　家畜防疫職員制ニ依ル職員
十五　朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、產業、衞生、社會事業又ハ測候ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員（府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）
十六　臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、衞生、產業、物產檢查、社會事業又ハ社會敎育ノ事務又ハ技術ニ從事スル職員（市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）
十七　關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ產業、土木、衞生、敎育又ハ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員

第十一條　恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ
一　內閣印刷局醫及內閣印刷局藥劑師
二　造幣醫、專賣醫及專賣藥劑師
三　陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
四　靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
五　鐵道醫
六　朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師、鐵道醫及鐵道藥劑師竝臺灣ニ於ケル警察醫
七　臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員

第十二條　恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル
一　戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス
二　戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル
一　動員（之ニ準スルモノヲ含ム）部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員（之ニ準スルモノヲ含ム）下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス
二　戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付之ヲ準用ス

第十三條　恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎭戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外公務員鎭戍ノ爲內國ヲ出發シタルトキハ內國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎭戍ノ終了後直ニ內國ニ歸還シタルトキハ內國歸著ノ月迄加算ス

第十四條　恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル
一　同月內ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危險ト認ムル航空試驗ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半
二　同月內ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繋留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月
三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十五條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陬又ハ不健康ノ地域及其ノ加算程度ハ別表第二號表ニ依ル

第十六條　邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到著シタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス

第十七條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ
一　有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ內閣總理大臣ノ指定スルモノ
二　排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦、水雷艇若ハ掃海艇乘員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸氣機關車乘員トシテノ現業勤務
三　炭坑內切羽ニ於ケル連續的現業勤務
四　肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務

前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

第十八條　恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千浬ヲ超ユル航海ヲ謂フ

第十九條　航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到著シタル月迄加算ス

航海中引續キ三十日以上航行セサルトキハ全ク航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス

第十九條ノ二　恩給法第四十條ノ二ニ規定スル期間一月以上ニ亙ルトキ

ハ其ノ期間ガ在職年ノ計算ニ於テ一月以上ニ計算セラルル總テノ場合ヲ謂フ但シ現實ニ職務ヲ執ルヲ要スル日ノアリタル月ハ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減セス

第二十條　恩給法第四十四條ノ本俸ニ準スヘキモノトハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一　年功ニ因ル加俸
二　府縣知事ノ指定地加俸
三　官立又ハ公立ノ大學ノ敎授又ハ助敎授ノ職務俸
四　第一號ニ掲クルモノヲ除クノ外市町村立小學校敎員加俸令ニ依ル加俸
五　警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸

第二十一條　恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル

第二十二條　恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

一　マラリア（黑水熱ヲ含ム）
二　猩紅熱
二ノ二　痘瘡
三　コレラ
四　脚氣（戰地ニ限ル）
五　發疹チフス
六　腸チフス
七　パラチフス
八　ペスト
九　回歸熱
十　赤痢
十一　流行性腦脊髓膜炎
十二　流行性感冒
十三　肺ヂストマ病
十四　トリパノゾーム病
十五　ワイルス氏病
十六　カラアザール
十七　黄熱

第二十三條　恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一　戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
二　暴徒匪賊又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊蕃人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
三　外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ勤務中又ハ該地域内ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病
四　航空機ニ乘シ航空勤務中又ハ潛水艦ニ乘シ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
五　職務ヲ以テ兇賊又ハ脱獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲加ヘラレタル傷痍疾病
六　職務ヲ以テコレラ又ハペストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病
七　急流其ノ他生命ノ危險ヲ惑スヘキ事情ノ下ニ於ケル潛水勤務ニ因ル傷痍疾病

第二十四條　恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具癈疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七項トス

特別項症

一　常ニ就床ヲ要シ且複雜ナル介護ヲ要スルモノ
二　重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護ヲ要スルモノ
三　身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一　複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
二　精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ
三　咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ癈シタルモノ
四　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
五　肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
六　膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ
二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ癈シタルモノ
三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四　兩耳全ク聾シタルモノ
五　腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
六　足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一　咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
二　兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ
三　肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
四　膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ
五　兩耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第四項症

一　泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
二　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
三　腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
四　足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一　鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
二　頭部、顏面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ
三　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四　一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

一　頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力表ニ依ル

第二十四條ノ二　恩給法第四十九條第二項ニ規定スル傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四款トス

第一款症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二　一耳聾シタルモノ

三　一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

第二款症

一　一耳ノ聽力カ耳殻ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

二　一側拇指ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三款症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二　一耳ノ聽力カ十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ

三　一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

一　一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

二　一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ

三　一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第二十四條ノ三　恩給法第五十八條第一項第四號ニ規定スル恩給外ノ所得ハ恩給受給者カ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル場合ノ所得ニ限ル但シ左ニ掲クル所得ハ右地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルトキト雖之ヲ所得中ニ算入ス

一　恩給受給者カ右地域内ニ有スル資産又ハ營業ヨリ生スル所得

二　右地域内ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ恩給受給者ノ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ俸給、賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與

恩給受給者カ前項ノ地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スルトキハ右地域外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ト雖之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外セス

第二十四條ノ四　前條第一項第二號ニ掲クルモノ以外ノ恩給外ノ所得ハ所得税法ニ規定スル個人ノ第三種所得ト同範圍トス

所得税法第十八條第一號乃至第五號ニ掲クル所得ハ之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外ス

第二十四條ノ五　恩給外ノ所得ノ計算ニ關シテハ所得税法第十四條第一項及第二項竝所得税法施行規則第七條及第八條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條ノ六　恩給外ノ所得ハ毎年税務署長ノ調査ニ依リ裁定官廳之ヲ決定ス

裁定官廳ハ恩給外ノ所得ノ調査ヲ要スル恩給受給者ノ氏名、住所又ハ居所及恩給年額ヲ税務署長ニ通知スヘシ

税務署長恩給外ノ所得ノ調査ヲ結了シタルトキハ之ヲ裁定官廳ニ報告スヘシ

前三項中税務署長トアルハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ各其ノ地域ニ於ケル税務官署トス

第二十四條ノ七　恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ハ恩給外ノ所得ノ決定ニ基キ其ノ年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル期間分ノ恩給ニ付テ之ヲ爲ス但シ其ノ前年以前ノ分ノ恩給ニ付停止ヲ爲スヘキ場合ニ於テ恩給ノ請求又ハ裁定ノ遲延ニ依リ一般ノ手續ニ依リテ恩給外ノ所得ヲ調査決定スルコトヲ得サルトキハ前條ニ規定スル調査決定ノ機關ハ其ノ分ニ付テハ一般ノ場合ニ準シ臨時ニ恩給外ノ所得ヲ調査決定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ停止額ハ後ノ恩給支給額中ヨリモ之ヲ控除スルコトヲ得

恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年分ノ恩給ニ付テハ恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ノ手續ヲ行ハス

恩給外ノ所得額ノ追加又ハ更訂アリタルトキハ恩給ノ停止額モ之ヲ更正ス

恩給給與ノ止ムヘキ事由生シタル場合ニ於テハ恩給ノ停止ハ其ノ事由ノ生シタル月分迄ノ恩給ニ付之ヲ爲ス

第二十四條ノ八　年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ朝鮮、關東州若ハ南洋群島ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有シ又ハ同地域ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルモ同地域内ニ有スル資産若ハ營業ヨリ生スル所得ヲ得ルモノハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ裁定官廳カ内閣恩給局長ナルトキハ夫々朝鮮總督府、關東廳又ハ南洋廳ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ裁定官廳カ地方長官ナル場合ニ於テ恩給受給者カ裁定官廳ノ管轄内ニ住所又ハ居所ヲ有スルトキハ直接ニ裁定官廳ニ、然ラサルトキハ住所若ハ居所又ハ資産若ハ營業ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セスシテ第二十四條ノ三第一項但書第二號ニ規定スル所得ヲ得ルモノハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ直接ニ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ九　恩給法第五十九條ノ二ニ規定スル退職前一年内ノ俸給ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ例ニ依ル

一　初任ノ月ニ於テ日割計算ヲ以テ俸給ヲ給セラレタル場合ニ於テモ全月分ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

二　月ノ中途ニ於テ昇給アリタルトキハ昇給後ノ俸給額ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

三 休職、罰俸等ノ事情ニ依リ本來給與セラルヘキ俸給ニ比シ一時的ニ少額ヲ給セラレタル場合ニ於テモ本來給與セラルヘキ俸給額ニ依ル

第二十四條ノ十 恩給法第五十九條ノ二第一項但書ニ規定スル一級ノ昇給ニ付テハ左ノ例ニ依ル

一 級俸ノ定アル場合ニ於テ當分給トシテ給與級俸ヨリ少額ノ俸給ヲ給セラレタル者ニ付テハ給與級俸ノ直近上位ノ級俸ノ額ニ給與級俸ニ對シ當分俸給カ有スル割合ヲ乘シタルモノ（圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム）ヲ以テ當分俸給ニ對スル一級上位ノ俸給額トス級俸ノ定アル場合ニ於テ月俸七十五圓未滿ノモノニ付級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給與シタルトキ亦同シ

二 同一級俸ニ付上下ノ區分アル場合ニ於テハ其ノ上俸ハ之ヲ下俸ニ對スル一級上位ノ俸給ト看做ス

三 轉官職ニ依リ昇給ヲ來ス場合ニ於テハ新官職ニ付定メラレタル級俸中前ノ官職ニ付給セラレタル俸給ニ直近ニ多額ナルモノヲ以テ一級上位ノ俸給トス但シ其ノ額カ前官職ニ付給セラレタル俸給ニ其ノ百分ノ十五ヲ加ヘタル金額ニ達セサルトキハ之ニ達スル金額ヲ以テ一級上位ノ俸給ト看做ス

第二十五條 準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス

二 國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等等級ニ依ル

第二十六條 準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス

二 前號ニ掲ケサル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス

三 前二號ニ掲ケサル陸海軍諸生徒及海軍豫備練習生ノ階等ハ兵ニ準ス

第二十七條 敎育職員及準敎育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 敎育職員ノ階等ハ其ノ官等等級又ハ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

二 準敎育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等等級令別表第二表ノ例ニ準ス

第二十八條 警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

第二十九條 待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

第三十條 恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一 師範學校

二 高等女學校

三 專門學校令ニ依ラサル實業學校（實業補習學校ヲ除ク）

四 中學校又ハ前二號ニ掲クル學校ニ準スヘキ學校

五 實業補習學校敎員養成所

六 朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ掲クルモノニ準スヘキモノ

七 在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ掲クル學校ニ準スヘキモノ

第三十條ノ二 恩給法第六十四條ノ二但書ノ規定ニ依ル一時恩給ノ返還ハ之ヲ負擔シタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ再就職ノ月ノ翌月ヨリ一年內ニ一時ニ又ハ分割シテ之ヲ完了スヘシ

前項ノ規定ニ依リ一時恩給ノ全部又ハ一部ヲ返還シ失格原因ナクシテ再在職ヲ退職シタルニ拘ラス普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ一時恩給ノ返還ヲ受ケタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ返還者ニ還付スヘシ

第三十一條 恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病賜金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ六目トス

第一目症

一 一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ

二 一側中指ノ機能ヲ癈シタルモノ

三 一側第二趾ノ機能ヲ癈シタルモノ

第二目症

一 一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

第三目症

一 一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ

二 一耳ノ聽力カ四十センチメートル以上ニテハ耳語ヲ解シ得サルモノ

三 一側環指ノ機能ヲ癈シタルモノ

四 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四目症

一 一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ

二 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ癈シタルモノ

第五目症

一 一眼ノ視力カ〇・三ニ滿タサルモノ

二 一耳ノ聽力カ一メートル以上ニテハ耳語ヲ解シ得サルモノ

三 一側小指ノ機能ヲ癈シタルモノ

四 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第六目症

一 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ癈シタルモノ

二 前目ノ各症ニ次ク症ヲ殘シタルモノ

第二十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ查定ニ付之ヲ準用ス

第三十二條 第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ增加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル

第三十四條 （削除）

第三十五條　廢官、廢職、廢廳、廢校若ハ官廳名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在リタル者又ハ定員ノ減少ニ因リ退職シタル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤續ト看做ス

第三十六條　恩給法第百一條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル

一　軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

二　軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更生スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

三　增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等竝別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス但シ陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

四　執達吏ノ恩給ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依ラス六百圓ヲ俸給年額ト看做シ恩給法第六十條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス

前項ノ增額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勤續ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス

第三十七條　恩給法第百二條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シ之ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第百一條ノ規定ヲ適用ス

附　則

第三十八條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス

一明治二十四年勅令第二百四十八號
一明治二十七年勅令第五十二號
一明治二十七年勅令第八十一號
一明治二十七年勅令第百四十五號
一明治三十一年勅令第二百四十四號
一明治三十二年勅令第二百一號
一明治三十三年勅令第百七十三號
一明治三十三年勅令第四百四號
一巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令
一明治三十四年勅令第百五十號
一明治三十五年勅令第百五十七號
一明治四十一年勅令第百三十七號
一明治四十三年勅令第百二十七號
一明治四十四年勅令第七十號
一大正六年勅令第二百四十一號
一大正六年勅令第二百四十二號
一大正九年勅令第三百二十三號
一明治十八年第十五號達官吏恩給令附則
一明治十八年第十六號達文官傷痍疾病等差例
一明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則

第四十條　第十條各號ニ掲クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各號ニ掲クル官制ニ依ル職員ト看做ス

附　則（大正十二年勅令第五百二十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條ノ規定ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

附　則（大正十三年勅令第五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ水電艇乘員トシテノ勤務ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（大正十三年勅令第四百七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

港務部設置制ニ依ル待遇職員ハ仍之ヲ第十條第六號ニ掲クル待遇職員ト看做ス

附　則（大正十五年勅令第二百四十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

郡判任官ハ仍之ヲ第六條第一號ニ掲クル文官ト看做ス

附　則（昭和八年勅令第二百三十六號）

第一條　本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條ノ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分、第二十四條ノ二乃至第二十四條ノ八竝ニ附則第三條及第四條ノ規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　昭和八年九月三十日以前ニ給與事由ノ生ジタル普通恩給及扶助料ノ分擔ニ付テハ第四條第一項ノ規定ノ改正ニ拘ラズ其ノ分擔請求額ハ仍改正前ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三條　昭和八年法律第五十號附則（以下單ニ改正法律附則ト稱ス）第七條但書ノ規定ニ依リ給スベキ傷病年金ハ前ニ傷病賜金ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者ニ付テハ之ヲ生ジタル月ヨリ起算シ新ニ受クベキ恩給法別表第三號表ノ傷病年金額ヲ以テ其ノ者ノ受ケタル傷病賜金額ヲ除シテ得タル數ニ相當スル年數ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ給セズ

前項ノ年數ノ一年ニ滿タザル部分ハ之ヲ月ニ換算シ月ニ滿タザルモノハ之ヲ切捨ツ

第四條　改正法律附則第九條ニ規定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ル

一　轉官職ニ依リ新官職ニ付前俸給ヨリ多額ノ俸給ヲ給セラルルニ至ルトキハ之ヲ昇給ト看做ス

二　本俸ト之ニ準ズベキモノトヲ併セ受クル場合ニ於テ其ノ一ニ付昇給又ハ增額アリタルトキハ改正法律附則第九條ノ規定ニ依リ本俸及

之ニ準ズベキモノノ總テニ付同法第五十九條ノ改正規定ヲ適用セス

三　俸給ノ法令ニ依ル增額アル場合ニ於テ其ノ增額分ガ恩給法第五十九條ノ規定ノ改正ニ依リ增加シ又ハ新ニ納付スベキニ至リタル額以上ナルトキニ限リ俸給ハ增額セラレタルモノトシ之ニ及バザルトキハ其ノ增額ナカリシモノトシテ取扱フ

第五條　改正法律附則第十五條第一項但書ノ規定ニ依リ改定普通恩給ヨリ控除スル金額ノ年額ハ改定ニヨリ增額スル金額ノ一年分ト同額トス

控除ハ控除金額ノ總額ガ一時恩給金額ニ達シタルトキヲ以テ之ヲ止ム

第六條　改正法律附則第十七條以下ノ規定ニ依リ同法施行後仍削除セラレタル恩給法第九十九條ノ規定ニ依ルベキ場合ニ於テ同條ニ規定スル教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ揭グル者ヲ謂フ

一　官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員

二　文部省官吏

三　教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東廳又ハ南洋廳ノ官吏

四　臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ

五　教育事務從事ノ從前ノ區、統監府又ハ關東都督府ノ官吏

第七條　大正十三年勅令第四百七號附則第二項中「第六號」ヲ「第十號」ニ改ム

附　則（昭和八年勅令第三百五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依ル北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（別表）

第一號表（削除）

第二號表

（一）三分ノ二月ヲ加算スヘキモノ

內地	北海道 國後郡安渡移矢岬 松前郡小島 幌筵島 占守島 石川縣 鳳至郡舳倉島 長崎縣 南松浦郡女島 鹿兒島縣 川邊郡女島
朝鮮	京畿道 富川郡 木德島、德積島 忠淸南道 瑞山郡 鈴島、格烈飛島 全羅南道 務安郡 七發島、紅島、小黑山島 莞島郡 魚龍島、港門島 珍島郡 竹島、下島島 慶尙北道 鬱陵島 黃海道 長淵郡 小靑島 松禾郡 西島 平安南道 寧遠郡 平安北道 熙川郡 鐵山郡 大和島 朔州郡 昌城郡 碧潼郡 楚山郡 渭原郡 江界郡 慈城郡 厚昌郡 咸鏡南道 新興郡 長津郡 豐山郡 三水郡 甲山郡 咸鏡北道 茂山郡 會寧郡
臺灣	臺北州 基隆郡 基隆街ノ內彭佳嶼 羅東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中濟水、牛鬪及松羅溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 蘇澳庄ノ內大南澳 文山郡 街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ラハウ及阿玉駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 新竹州 大溪郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフイ、カウジヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合脗坪、ウライ、ヨウハブン、シツケイ、カウボウ、ラハウ及斷崖駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 竹東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中內灣、カラバイ、メカラン、內橫屛山、錦屛山、ラハウ、シラック、メホマン、シバジイ、マイバライ、シイガオ及大隘駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 大湖郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水、高熊峠及細道邦駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 臺中州 東勢郡 街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛及中坑坪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 新高郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 能高郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 臺南州 嘉義郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 高雄州 旗山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 屛東郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部
樺太	散江郡 敷香郡 名好郡名好村大字安別 留多加郡西能登呂岬
關東州	圓島
南洋群島	各群島（パラオ列島中コロール島、サイパン島及ヤップ島ヲ除ク）
其ノ他	北樺太 ペトロパウロフスク ニコライウスク 農安 龍井村 琿春 百草溝 局子街 間島頭道溝 通化 海龍 赤峰 宜昌 沙市 重慶 成都 外蒙古 新彊 河內 西貢 盤谷 新嘉坡 メダン マニラ ダヴアオ スラバヤ バタヴイア 蘭貢 カルカッタ コロンボ 孟買 テヘラン ボートサイド モンバサ ハヴアナ パナマ 里馬 リベロンプレート バウルー

鏡城郡 穩城郡 慶源郡 慶興郡 右ニ揭クル地方ニ屬スル地ト雖鐵道停車場ヨリ五里以內ニ在ル地ハ之ヲ除ク
街庄ヲ置カサル蕃地中カウ、サンテイモン、パクヒヨウ、マカザヤザヤ及カサギザン駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 潮州郡 街庄ヲ置カサル蕃地中カピヤン、アマワン、ボンガリイ、スボン、歸化門、崁頭、內獅頭、獅仔頭及四重溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 恒春郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 東港郡 琉球庄 臺東廳 臺東廳管內中臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部 花蓮港廳 花蓮港廳管內中花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部

(二)二分ノ一月ヲ加算スヘキモノ

內地	北海道 厚岸大黑島 根室諸島 千島列島（安渡移矢岬、幌筵島及占守島ヲ除ク） 東京府 小笠原島 長崎縣 南彼杵郡 大立島 北松浦郡 五島白瀬、二神島 上縣郡 三島 福岡縣 宗像郡 沖島 鹿兒島縣 大島郡 會津高埼、住用村大字西仲間、龜津村大字龜津字龜津天城村大字阿布木名字平土野、同村大字西阿木名字西阿木名、實久村大字實久字榮名原、東方村大字嘉鐵字皆津 沖繩縣 大東島 伊江島 宮古列島 八重山列島
朝鮮	京畿道 富川郡 八尾島、[illegible]島島 忠淸北道 丹陽郡 全羅北道 沃溝郡 末島 全羅南道 麗水郡 所里島 海南郡 時下島 慶尚北道 英陽郡 奉化郡 黃海道 遂安郡 谷山郡 松禾郡 姉妹島 平安南道 孟山郡 陽德郡 德川郡 平安北道 義州郡（義州面ヲ除ク） 龜城郡（龜城面ヲ除ク） 泰川郡 雲山郡 寧邊郡 博川郡 定州郡 宜川郡 鐵山郡（大和島ヲ除ク） 龍川郡 江原道 麟蹄郡 楊口郡 三陟郡 蔚珍郡 旌善郡 平昌郡 寧越郡
臺灣	臺北州 宜蘭郡 頭圍庄ノ內龜山島 羅東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中淸水、牛鬪、松羅溪駐在警察官管轄區域 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域、蘇澳庄中東澳 文山郡 坪林庄中大字大舌湖、柑腳坑、鬢髮蚰、大粗坑、㵎瀨、楣子寮、九芎林（字石槽、鶯子瀨、四堵ニ限ル）、街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ラハウ、阿玉駐在警察官管轄區域 海山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 新竹州 新竹郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 大溪郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイツイ、カウジヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合脗坪、ウライ、ヨウハブン、シツケイ、カウボウ、ララハウ、斷崖駐在警察官管轄區域 竹東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中內灣、カラパイ、メカラン、內橫屛山、鍋屛山、ララハウ、シラツク、メホマン、シパジイ、マイパライ、シイガオ、大隘駐在警察官管轄區域 竹南郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 大湖郡 獅潭庄中大字獅潭字三洽坑、水興、街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水、高熊峠、細道邦駐在警察官管轄區域 臺中州 東勢郡 街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛、中坑坪駐在警察官管轄區域 能高郡 國姓庄中大字龜子頭、柑子林、墘溝 臺南州 嘉義郡 大埔庄、小梅庄中大字生毛樹、科子林
樺太	名好郡（名好村大字安別ヲ除ク）
關東州	海洋島 獐子島 小長山島 鳳鳴島 西中島
南洋群島	パラオ列島中コロール島 サイパン島 ヤップ島
其ノ他	オムスク ノヴオシビルスク イルクーツク チタ ブラゴウエスチエンスク ハバロフスク 滿洲里 黑河 齊々哈爾 掏鹿 洮南 太原 鄭州 西安 南寧 蕪湖 大冶 九江 漢口 長沙 福州 廈門 汕頭 廣東 雲南 アレキサンドリヤ ケーブタウン 墨西哥市 マサトラン サンパウロ サントス リオデジヤネーロ

	伊川郡 咸鏡南道　北青郡 利原郡 端川郡 咸鏡北道　鏡城郡 明川郡 吉州郡 城津郡（城津面ヲ除ク） 富寧郡 右ニ掲クル地方ニ屬スル地ト雖鐵道停車場ヨリ五里以内ニ在ル地ハ之ヲ除ク	新化郡 高雄州　南化庄（大字北寮ヲ除ク） 旗山郡　甲仙庄 屏東郡　六龜庄（大字新威ヲ除ク） 潮州郡　枋山庄 恆春郡　街庄ヲ置キタル地域全部 澎湖郡 臺東廳　臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地域及其ノ以東ノ地域 花蓮港廳　花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地域及其ノ以東ノ地域				

第三號表

地域	流行病
八重山列島	マラリヤ（黑水熱ヲ含ム以下同シ）、赤痢
鹿兒島縣大島郡、沖繩縣	デング熱
朝鮮	猩紅熱、痘瘡、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、赤痢、肺ヂストマ病
臺灣	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、デング熱
南洋諸島	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱、デング熱
滿洲、關東州	ペスト、猩紅熱、痘瘡、腸チフス、パラチフス、赤痢
支那（滿洲ヲ除キ香港ヲ含ム）	マラリア、猩紅熱、痘瘡、コレラ、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、赤痢、カラアザール
露領西伯利亞（薩哈嗹州ヲ含ム）	發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、回歸熱、赤痢
比律賓諸島	マラリヤ、コレラ、腸チフス、パラチフス、赤痢
蘭領東印度諸島	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢
佛領印度、暹羅、緬甸、馬來半島	マラリア、コレラ、發疹チフス、ペスト、赤痢
英領印度	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢、カラアザール
ペルシア	マラリア、猩紅熱、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、回歸熱、赤痢
中央亞米利加、南亞米利加	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱
墨西哥	マラリア、發疹チフス、黃熱
亞弗利加	マラリア、ペスト、回歸熱、赤痢、トリパノゾーム病、黃熱

第四號表

在職最終俸給年額	増加スヘキ金額
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	五百圓但シ在職最終俸給年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額カ七千五百圓ヲ超ユルトキハ在職最終俸給年額ト七千五百圓トノ差額トス
五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ト七千圓トノ差額
三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ	千五百圓
千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額
三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ五割ニ相當スル金額ニ百二十圓ヲ加ヘタル額
三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ	三百圓
三百圓以下ノモノ	在職最終俸給年額十割ニ相當スル金額

第五號表

階等　前ノ法令 恩給法			軍人恩給法			陸軍恩給令	陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢並ニ其家族扶助概則	海軍恩給令	海軍退隱令
將官及相當官	高等官	親任	將官及相當官	高等官	親任	大將	大將	大將	大將
		一等			一等	中將	中將	中將	中將
		二等			二等	少將同相當官	少將同相當官	少將同相當官	少將同相當官
佐尉官及相當官		三等	佐尉官及相當官		三等	大佐同相當官	大佐同相當官	大佐同相當官	大佐同相當官
		四等			四等	中佐同相當官	中佐同相當官	中佐同相當官	中佐同相當官
		五等			五等	少佐同相當官	少佐同相當官	少佐同相當官	少佐同相當官
		六等			六等	大尉同相當官	大尉同相當官	大尉同相當官	大尉同相當官
		七等			七等	中尉同相當官	中尉同相當官	中尉同相當官	中尉同相當官
		八等			八等	少尉同相當官	少尉同相當官	少尉同相當官	少尉同相當官
准士官	判任官	一等	准士官	判任官	一等	准士官	准士官	准士官	准士官
下士官		二等	下士官		二等	曹長同相當官	曹長同相當官	一等兵曹同相當官	機關士副
		三等			三等	軍曹同相當官	軍曹同相當官	二等兵曹同相當官	水兵次長 樂手
		四等			四等	伍長同相當官	伍長同相當官	三等兵曹同相當官	大端舟長 機關長屬 火夫長屬 海軍九等屬
兵		海軍一等兵	兵		海軍一等兵			一等卒	一等水兵
		陸軍上等兵 海軍二等兵			陸軍上等兵 海軍二等兵	上等兵		二等卒	二等水兵
		陸軍一等兵 海軍三等兵			陸軍一等兵 海軍三等兵	一等兵二等兵 憲兵卒 會計卒 看護卒 看馬卒 樂生	兵卒	三等卒	三等水兵 三等鍛冶
		陸軍二等兵 海軍四等兵			陸軍二等兵 海軍四等兵			四等卒	四等水兵
					海軍五等兵			五等卒	一等若水兵 一等若火夫

備考

一　大正九年三月三十一日以前ニ海軍兵曹長同相當官タリシ者ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トシ其ノ他ノモノハ高等官七等トス

一　大正十年三月三十一日以前ニ退職シタル陸軍一等樂長ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トス

一　名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

一　本表ニ該當セサルモノハ陸海軍武官官階及兵等級ノ例ニ依ル

第六號表

傷病原因　症狀等差　從前ノ法令 恩給法		官吏恩給法	官吏恩給法施行規則	官吏恩給令附則	軍人恩給法			明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則	陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢並ニ其家族扶助概則	
		第十四條第二項	第十二條	第五條	第三號表甲號	第三號表乙號	第十條第二項		第一條	
甲號	特別項						症項ヲ査定ス			
	第一項				第一項				戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者	第一項
	第二項				第二項					
	第三項				第三項					第二項
	第四項				第四項					
	第五項				第五項					第三項
	第六項				第六項					
乙號	特別項						症項ヲ査定ス			
	第一項	症項ヲ査定ス	第一項	第一號		第一項		一等傷痍	戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者	第一項
	第二項		第二項	第二號		第二項				
	第三項		第三項	第三號		第三項		二等傷痍		第二項
	第四項		第四項	第四號		第四項				
	第五項		第五項	第五號		第五項				第三項
	第六項		第六項	第六號		第六項				

明治九年太政官達陸軍恩給令	第十一條	戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者		第一項		第二項		第三項		戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者		第一項		第二項		第三項	
明治十六年太政官達陸軍恩給令	第十九條	戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
海軍退隱令	第十八條			第一號	第二號	第四號	第五號						第三號		第六號		
海軍恩給令	第二十條	戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料支給規則	第十五條											第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則	大正十年閣令第八號第十五條									症項ヲ査定ス							
	明治二十八年文部省令第一號第十七條											第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
	明治四十五年朝鮮總督府令第八十二號第十七條											第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
臺灣ニ在勤スル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料支給規則	第十六條											第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
巡査看守退隱料及遺族扶助料施行令	第一條											第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
巡査看守給助例	第四條											第一號			第二號		

備考

明治三十五年勅令第四十一號ニ定メタル事件ノ爲受ケタル傷痍ハ之ヲ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ト看做ス

第七號表

高等官及同待遇		判任官及同待遇	
退職又ハ死亡當時ノ俸給年額	假定俸給年額	退職又ハ死亡當時ノ俸給年額	假定俸給年額
九、六〇〇	一二、〇〇〇	一、二〇〇	一、四四〇
六、〇〇〇	八、〇〇〇	九〇〇	一、一四〇
五、〇〇〇	六、〇〇〇	七二〇	九〇〇
四、五〇〇	五、五〇〇	六〇〇	七八〇
四、〇〇〇	五、〇〇〇	五四〇	六六〇
三、六〇〇	四、五〇〇	四八〇	六〇〇
三、五〇〇	四、二〇〇	四二〇	五一六
三、三〇〇	四、〇〇〇	三百六十圓以下	八十四圓ヲ加ヘタル額
三、〇〇〇	三、七〇〇	三百二十四圓以下	七十二圓ヲ加ヘタル額
二、八〇〇	三、五〇〇		
二、六〇〇	三、二〇〇	二百七十六圓以下	六十圓ヲ加ヘタル額
二、五〇〇	三、〇〇〇	二百二十八圓以下	四十八圓ヲ加ヘタル額
二、四〇〇			
二、二〇〇	二、七〇〇	百八十圓以下	三十六圓ヲ加ヘタル額
二、〇〇〇	二、五〇〇	百三十二圓以下	二十四圓ヲ加ヘタル額
一、八〇〇	二、二〇〇		
一、六〇〇	二、〇〇〇		
一、五〇〇	一、八〇〇		
一、四〇〇	一、七〇〇		
一、三〇〇	一、六〇〇		
一、二〇〇	一、五〇〇		
一、一〇〇	一、三五〇		
一、〇〇〇	一、二〇〇		
九〇〇	一、一〇〇		
八〇〇	一、〇〇〇		
七〇〇	八五〇		
六〇〇	七五〇		
五〇〇	六〇〇		
四五〇	五五〇		
四〇〇	五〇〇		
三〇〇	四〇〇		

備考

一 本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル加俸ハ其ノ實額ニ依ル

一 本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス但シ其ノ額カ實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

●恩給給與規則

大正十二年八月二十二日
勅令第三百六十九號

改正　昭八年九月勅令二三七號、一二月三一一號

朕恩給給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

恩給給與規則

第一章　恩給ノ請求

第一條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書、增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ヲ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在職中ノ履歴書
二　戸籍抄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ）

增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ニハ前項各號ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類（例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等）
二　症狀ノ經過ヲ記載シタル書類
三　請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條　恩給法第五十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第三號ニ掲クル書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ裁定官廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條　一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歴書ヲ添附シ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條　傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第二項各號ニ掲クル書類ヲ添附シ陸軍軍人ニ在リテハ陸軍大臣、海軍軍人ニ在リテハ海軍大臣ヲ經テ內閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條　扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第七條、第八條第一項第二號又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ扶助料請求書ニ公務員（公務員ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）ノ在職中ノ履歴書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第七條　恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書
二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第八條　恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ

請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）
二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ掲クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ掲クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ掲クル書類並死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條　恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類
二　前扶助料權者ノ扶助料證書
三　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ掲クル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十一條　恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條　恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一　扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書
二　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條　恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十四條　恩給法第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第十五條第二號又ハ第十六條ノ規定ニ依リ一時扶助料請求書ニ公務員ノ在職中ノ履歴書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差

出スヘシ

第十五條　恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ公務員ノ在職中ノ履歴書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十六條　恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十七條　恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二、請求者ノ戸籍謄本（死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十九條　恩給法第八十一條ニ規定スル一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十一條　經由廳カ廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十二條　經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作リ履歴書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條　裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十三條ノ二　裁定官廳ハ恩給請求書類ニ依リ證明セントスル事實ノ一部ニ付十分ナル心證ヲ得サル場合ニ於テ爭ナキ部分ノ事實ノミヲ以テスルモ尙恩給ヲ給與シ得ルコトヲ認メタルトキハ之ヲ他ノ部分ト切離シ先ツ其ノ事實ノミニ基キ恩給ノ裁定ヲ爲スコトヲ得但シ之ニ因リテ別種ノ恩給ヲ給與スルニ至ルヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ爭アル事實ニ付立證ヲ得タルトキハ前裁定ヲ訂正スヘシ

第二十四條　權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條　裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條　裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章　恩給ノ支給

第二十七條　恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條　年金タル恩給ハ每年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　支給廳ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第四章　異動通知

第三十條　普通恩給ヲ受クル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條　年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ（恩給法第九條第二項ニ規定スル犯罪以外ノ犯罪ニ付刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク）又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條　年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ緣故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十四條　第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ屆出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

第三十四條ノ二　恩給法施行令第一條ノ二第一項ノ規定ニ依リ提出スル戶籍謄本又ハ戶籍抄本及證明書ハ之ヲ提出スヘキ月又ハ其ノ前月現在ニ於ケル受恩給者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノタルコトヲ要ス

第五章　恩給證書ノ返還及再交付

第三十五條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十六條　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十七條　恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第三十八條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戶籍謄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ支給廳ヲ經由スヘシ

第六章　具申及裁決

第三十九條　恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條　具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一　具申者ノ氏名、年齡及住所
二　對手者タル行政廳
三　具申ノ趣旨及理由

第四十一條　具申カ內閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添ヘ內閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第四十二條　內閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條　裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和八年勅令第二百三十七號）

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條乃至第三條ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和八年勅令第三百十一號）

本令ハ昭和八年十月一日以後刑ニ處セラレタル場合ニ付之ヲ適用ス

●樺太廳長官ノ管掌ニ係ル恩給給與細則

昭和九年二月二十一日
廳令第二號

樺太廳長官ノ管掌ニ係ル恩給給與細則左ノ通定ム

恩給給與細則

第一條　敎育職員、準敎育職員及警察職員並其ノ遺族ニ係ル恩給請求書類ハ第一號乃至第十七號書式ニ準ジテ作成シ之ヲ樺太廳長官ニ差出スベシ但シ帝國外ニ居住スル者ニ於テ請求書類ヲ差出ス場合ニ於テハ所管領事官ノ現住證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出スベシ

第二條　樺太廳長官恩給給與ノ裁定ヲ爲ス場合ニ於テハ第十八號乃至第二十四號書式ニ依リ恩給金額計算書ヲ作成ス

恩給給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨通知ヲ爲スト共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作成シ請求者ニ之ヲ交付ス

第三條　恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ樺太廳長官ハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知ス

第四條　樺太廳長官恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經テ權利者ニ通知シ又ハ新證書ヲ交付ス

第五條　恩給給與規則第三十六條ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セントスル者ハ第二十五號書式ノ再交付申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ樺太廳長官ニ差出スベシ

一　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顚末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類並其ノ事實ヲ證スルニ足ルベキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明書ヲ要セズ
二　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顚末書及毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書

第六條　恩給給與規則ニ依リ支給廳ヲ經テ樺太廳長官ニ差出スベキ書類ハ支給郵便局ニ差出スベシ

第七條　恩給法施行令第一條ニ規定スル恩給受給權調査票ハ第二十六號書式ニ準ジ作成ス

第八條　恩給法施行令第一條ノ四ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ一時差止メタルトキハ其ノ旨ヲ貯金局ニ通知ス之ヲ解除シタルトキ亦同ジ

附　則

本命ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（美濃紙）

普通恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所
氏　名　印

年　月　日

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第二號書式（美濃紙）

普通恩給
增加恩給　請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所
氏　名　印

年　月　日

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第三號書式（美濃紙）

傷病年金請求書

年　月　日（官職）ヲ退職候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所
氏　名　印

年　月　日

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第四號書式（美濃紙）

增加恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候處在職中ノ傷痍（疾病）爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與（改定）相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現在所
氏　名　印

年　月　日

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第五號書式（美濃紙）

傷病年金請求書

年　月　日（官職）ヲ退職候處在職中ノ傷痍（疾病）爾後重症ニ赴キ候ニ付傷病年金ヲ給與（改定）相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所
氏　名　印

年　月　日

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第六號書式（美濃紙）

扶助料請求書

公務員又ハ
普通恩給權者　氏　名

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地
現住所
氏　名　印

年　月　日

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第七號書式（美濃紙）

扶助料請求書

前扶助料權者　氏　名

右者　年　月　日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所
氏　名　印

年　月　日

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第八號書式（美濃紙）

一時恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所
氏　名　印

年　月　日

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第九號書式（美濃紙）

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者ノ退職當時ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日　氏　名印

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第十號書式（美濃紙）

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日　氏　名印

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第十一號書式（美濃紙）

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者　氏　名

右者所在不明（犯罪）ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日　氏　名印

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第十二號書式（美濃紙）

扶助料停止請求書

停止セラルベキ扶助料權者　氏　名

右者　年　月　日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

年　月　日　申請者　氏　名印

樺太廳長官氏名殿

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第十三號書式（美濃紙）

再審査請求書

年　月　日退職ニ因リ普通恩給及增加恩給ヲ給セラレ候處未ダ傷痍（疾病）回復セザルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日　氏　名印

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第十四號書式（美濃紙）

再審査請求書

年　月　日退職ニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未ダ傷痍（疾病）回復セザルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日　氏　名印

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ

第十五號書式（美濃紙）

履歴書

退職當時ノ官職名
氏　名印
年　月　日生

年月日	記事	官公署名

備考

一　履歴書ハ二通提出スベシ
一　學歷、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セズ
一　官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ樣ニ詳記スベシ
一　退職ノ事由ヲ明記スベシ

第十六號書式（美濃紙）

現認證明書

公務員ノ官職名
氏　　名

右者　年　月　日午前（後）　時　地ニ於テ（何）ニ從事中（何）ニ因リ（何）ノ事情ノ下ニ負傷（罹病）シタルコト現認候也

年　月　日

住所又ハ官職名
現認者　氏　　名印

備考　本證明書ニハ本傷病當時ノ狀況ヲ成ルベク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スベシ

第十七號書式（美濃紙）

事實證明書

公務員ノ官職名
氏　　名

右者　年　月　日ヨリ（何）ニ從事中　年　月　日（何）ノ狀況ニ於テ（何）ニ從事シ　月　日頃ヨリ（何）ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後（何）ノ處置ヲ施シタリ

右證明ス

年　月　日

所屬長　氏　　名印

備考　本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スベシ

第十八號書式

前證書記號番號	前在職年	前職又ハ前階等	前恩給年額

普通恩給金額計算書

退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
在職年數	
退職前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職當時ノ階等	
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ

居住地地方廳名	
支給郵便局名	局

請求者ノ退職當時ノ官職名
氏　　名
年　月　日生

普通恩給年額	金　圓
每期給額	金　圓　錢
恩給法第五十八條第一項第三號ニ依ル普通恩給停止額	（イ）年　月迄　普通恩給六分ノ一 （ロ）年　月迄　普通恩給八分ノ一　圓　錢　圓　錢
每期停止額	（イ）金　圓　錢 （ロ）金　圓　錢
初期	年　月分ノ給額
支給額	金　圓　錢　箇月分

恩給法第四十六條ニ依ル控除

控除前ノ算出額	圓　錢
差月數	月
一時恩給基礎俸給月額	圓　錢
控除額	圓　錢

在職年內譯

	始終期	年月數
實在職年	自　年　月　日 至　年　月　日 自　年　月　日 至　年　月　日 自　年　月　日 至　年　月　日	
	合計　年　月	

	始終期	事由	年月數
加算年	自　年　月　日 至　年　月　日 自　年　月　日 至　年　月　日 自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		
除算年	自　年　月　日 至　年　月　日 自　年　月　日 至　年　月　日 自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		

總計　年　月

本俸

退職前一年ノ期間	月數	本俸月額	月數ト月額トノ積
自　年　月　日 至　年　月　日			
自　年　月　日 至　年　月　日			
自　年　月　日 至　年　月　日			

退職前ノ

俸給年額内訳		
退職前一年内ノ本俸總額		
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日	
退職前一年内ノ加俸總額		

第十九號書式

前證書記號番號	
前在職年	
前職又ハ前階等	
前恩給年額	

（普通增加）恩給金額計算書

居住地地方廳名		
支給郵便局名	局	
退職年月日	年　月　日	
退職ノ事由		
在職年數		
退職前ノ俸給年額	本俸	圓　錢
	加俸	圓　錢
	合計	圓　錢
退職當時ノ階等		
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ	
公務傷病ノ原因		
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日	

請求者ノ退職當時ノ官職名

氏　名

年　月　日生

恩給法第四十六條ニ依ル普通恩給算出ノ際ノ控除			
控除前ノ算出額	差月數	一時恩給基礎俸給月額	控除額
圓　錢	月	圓　錢	圓　錢

年額	
普通恩給金	圓
增加恩給金	圓

初期支給	
年　月分ノ	
給額	箇月分
金	圓　錢

〔樺法〕

〔樺法〕

症狀等差	第　項	
毎期給額	金　圓　錢	額

在職年内訳				
實在職年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日		合計
		自　年　月　日 至　年　月　日		年　月
		自　年　月　日 至　年　月　日		
	年月數			
加算年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日		合計
		自　年　月　日 至　年　月　日		年　月
		自　年　月　日 至　年　月　日		
	事由			
	年月數			
除算年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日		合計
		自　年　月　日 至　年　月　日		年　月
		自　年　月　日 至　年　月　日		
	事由			
	年月數			
總計	年　月			

退職前ノ俸給年額				
本俸	退職前一年ノ期間	月數	本俸月額	月數ト月額トノ積
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
退職前一年内ノ本俸總額				
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日			

內譯		
自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	退職前一年內ノ加俸總額

第二十號書式

前傷病年金證書記號番號	第　　號
年額	金　　圓

傷病年金金額計算書

退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
退職當時ノ階等	
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日
公務傷病ノ原因	
症狀等差	第　　款
傷病年金金額	金　　圓
居住地地方廳名	
支給郵便局名	局

退職當時ノ官職名

氏　　名

第二十一號書式

一時恩給金額計算書

退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
在職年數	
退職前ノ俸給月額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職當時ノ階等	
一時恩給金額	金　　圓
支給郵便局名	局

請求者ノ退職當時ノ官職名

氏　　名

在職年內譯	始終期			事由	年月數	合計
實在職年	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日			年　月
加算年	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日			年　月
除算年	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日			年　月
總計						年　月

退職			
本俸			
退職前一年ノ期間	月數	本俸月額	月數ト月額トノ積

前ノ俸給年額內譯	
自 年 月 日 至 年 月 日	
自 年 月 日 至 年 月 日	
自 年 月 日 至 年 月 日	
退職前一年內ノ本俸總額	
加俸	
自 年 月 日 至 年 月 日	
自 年 月 日 至 年 月 日	
自 年 月 日 至 年 月 日	
退職前一年內ノ加俸總額	

第二十二號書式

扶助料金額計算書

居住地地方廳名	
支給郵便局名	局

公務員ニ關スル事項	
退職（死亡）年月日	年 月 日
退職ノ事由又ハ死因	
在職年數	
退職（死亡）前ノ俸給年額	本俸 圓 錢 加俸 圓 錢 合計 圓 錢
退職（死亡）當時ノ階等	
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ
恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除	控除前ノ算出額 圓 錢 差月數 月 一時恩給基礎俸給月額 圓 錢 控除額 圓 錢
普通恩給年額	圓

改定前ノ恩給ニ關スル事項	
恩給證書記號番號	
在職年	
官職名又ハ階等	
普通恩給年額	金 圓

扶助料額	
年額	金 圓
普通恩給ノ分	
毎期給額	金 圓 錢
恩給法第七十五條第二項ニ依ル加給	年 月迄 金 圓
扶助料十分ノ三	
毎期給額	金 圓 錢

公務員トノ續柄

氏名

年月日生

年　月ヨリ　給與

〔棒法〕

〔棒法〕

初期支給額
年 月分ノ給額　箇月分　金 圓 錢

在職年內譯			
實在職年	始終期	年月數	合計
	自 年 月 日 至 年 月 日		年 月
	自 年 月 日 至 年 月 日		
	自 年 月 日 至 年 月 日		
加算年	始終期	事由	年月數
	自 年 月 日 至 年 月 日		
	自 年 月 日 至 年 月 日		
	自 年 月 日 至 年 月 日		
	合計 年 月		
除算年	始終期	事由	年月數
	自 年 月 日 至 年 月 日		
	自 年 月 日 至 年 月 日		
	自 年 月 日 至 年 月 日		
	合計 年 月		
總計	年 月		

退職前本俸				
	退職前一年ノ期間	月數	本俸月額	月數ト月額トノ積
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			

ノ俸給年額内譯

自　年　月　日 至　年　月　日		
退職前一年内ノ本俸總額		
加俸		
自　年　月　日 至　年　月　日		
自　年　月　日 至　年　月　日		
自　年　月　日 至　年　月　日		
退職前一年内ノ加俸總額		

第二十三號書式

恩給法第八十一條ノ一時扶助料金額計算書

支給郵便局名	局

公務員ニ關スル事項

退職（死亡）年月日	年　月　日
退職ノ事由又ハ死因	
在職年數	
退職（死亡）前ノ俸給額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職（死亡）當時ノ階等	
恩給證書記號番號	第　號
普通恩給年額	金　圓

公務員トノ續柄　氏名　年　月　日生

公務員トノ續柄　氏名　年　月　日生

一時扶助料金額	金　圓（扶助料年額　年分）

在職年內譯

實在職年	始終期	年月數	
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		
加算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		
除算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		
總計　年　月			

退職前ノ俸給年額內譯

本俸	退職前一年ノ期間	月數	本俸月額	月數ト月額トノ積
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年內ノ本俸總額			
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年內ノ加俸總額			

第二十四號書式

恩給法第八十二條ノ一時扶助料金額計算書

支給郵便局名	局
死亡年月日	年　月　日
死因	
在職年數	
死亡前ノ俸給月額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
死亡當時ノ階等	
公務員トノ續柄	
氏名	
一時扶助料金額	金　圓

在職年内譯

實在職年	始終期	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	合計　年　月	

加算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		

除算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		

總計　年　月

〔樺法〕

退職前ノ俸給年額内譯

	退職前一年ノ期間	月數	本俸月額	月數ト月額トノ積
本俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年内ノ本俸總額			
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年内ノ加俸總額			

〔樺法〕

第二十五號書式（美濃紙）

恩給證書（裁定通知書）再交付申請書

一　恩給證書ノ記號番號（裁定通知書ノ番號）
一　恩給證書ノ日附（裁定通知書ノ日附）
一　恩給金額

右恩給證書（裁定通知書）ヲ亡失（毀損）致候ニ付再交付相成度申請候

年　月　日

退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係
本籍地
現住所
氏　名　印

樺太廳長官氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

第二十六號書式

恩給受給權調査票

一、恩給證書記號番號
一、受給者住所氏名
一、受給權調査期月　昭和　年　月

●國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則

大正十二年十月一日
閣令第七號

改正　昭八年九月閣令二號

國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則左ノ通定ム

恩給給與細則

第一條　恩給請求書類ニシテ其ノ提出ニ付經由廳ノ定アルモノハ左ノ區分ニ從ヒ先ツ之ヲ經由廳ニ差出スヘシ

一　本屬廳ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノハ高等文官、同待遇、高等官試補、軍人及準軍人ニ在リテハ所管大臣ニ、判任文官、同待遇ニ在リテハ其ノ身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ニ之ヲ差出スヘシ

二　陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノ及本屬長官カ陸軍大臣又ハ海軍大臣ナルトキハ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ニ之ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ハ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ進達スヘシ

三　在外指定學校職員ノ差出スヘキモノハ所管領事官ニ之ヲ差出スヘシ

第二條　裁定官廳ニ直接ニ差出スヘキコトヲ定メタル書類ハ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第三條　恩給請求書類ハ概ネ別紙樣式（第一號乃至第十五號書式）ニ準シ作成スヘシ

第四條　恩給給與規則第六條ノ規定ニ依リ扶助料請求書ヲ直接ニ裁定官廳ニ差出ス場合ニ於テ帝國外ニ居住スル者ハ所管領事官ノ現住證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第五條　本屬廳其ノ他ノ經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書（第十六號乃至第二十一號書式）ヲ作リ證據書類ヲ添附シ內閣恩給局ニ送付スヘシ

但シ數個ノ經由廳アルトキハ最終ノ經由廳ニ於テ計算書ヲ作成スヘシ

第六條　內閣恩給局ニ於テ給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スト共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作リ請求者ニ之ヲ交付スヘシ

第七條　恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ內閣恩給局長ハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知スルト共ニ其ノ要旨ヲ關係廳ニ通知スヘシ

第八條　內閣恩給局ニ於テ恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經テ權利者ニ通知シ又ハ新證書ヲ交付スヘシ

第九條　恩給給與規則第三十一條ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ別紙樣式（第二十二號又ハ第二十三號ノ書式）ニ準シ貯金局ヲ經テ內閣恩給局ニ通知スヘシ

第十條　恩給給與規則第三十六條ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙樣式（第二十四號書式）ニ準シ再交付申請書ヲ作リ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

一　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顛末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類竝其ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明ヲ要セス

二　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顛末書及毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書

第十一條　恩給給與規則ニ依リ支給廳ヲ經テ內閣恩給局ニ差出スヘキ書類ハ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　恩給法施行令第一條ニ規定スル恩給受給權調査票ハ別紙樣式（第二十五號書式）ニ準シ作成スヘシ

第十二條ノ二　恩給法施行令第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作リ恩給請求ニ際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ閣令ハ之ヲ廢止ス

官吏恩給法施行規則
官吏遺族扶助法施行規則
軍人恩給法施行規則
明治二十四年閣令第二號
明治二十四年法律第四號施行規則
官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則
明治三十四年閣令第一號
明治三十五年法律第四十五號施行手續
明治三十九年法律第二十號施行手續
明治四十三年閣令第九號
明治四十四年法律第五十九號施行手續
公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則
明治二十九年法律第十三號施行規則
在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等支給規則
大正十一年閣令第五號

別　紙

第一號書式

普通恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　名　印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式

（普通恩給　增加恩給）請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給
與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日
氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式ノ二

傷病年金請求書

年　月　日（官職）ヲ退職シ（　年　月　日　役ヲ免セラレ）
候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日
氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

增加恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候處在職中ノ傷痍（疾病）爾後重
症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ（給與　改定）相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日
氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式ノ二

傷病年金請求書

年　月　日（官職）ヲ退職シ（　年　月　日　役ヲ免セラレ）
候處在職中ノ傷痍（疾病）爾後重症ニ赴キ候ニ付傷病年金（給與　改定）相
成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日
氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第四號書式

扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者　氏　　名

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添
ヘ請求候也

本籍地
現住所

年　月　日
氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式

扶助料請求書

前扶助料權者　氏　　名

右者　年　月　日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添
ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日
氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第六號書式

一時恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證
據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日
氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第七號書式

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權

者ノ退職當時ノ官職名　氏　　名

右者　年　月　日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一

時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者

トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名　氏　　名

右者　年　月　日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ

依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九號書式

傷病賜金請求書

年　月　日（官職）ヲ退職シ（　年　月　日　役ヲ免セラレ）

候ニ付傷病賜金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十號書式

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者　氏　　名

右者（犯罪　所在不明）ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據

書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

〔榫法〕

第十一號書式

扶助料停止請求書

停止セラルヘキ扶助料權者　氏　　名

右者　年　月　日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書

類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

年　月　日

申請者　氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式

再審査請求書

年　月　日退職ニ因リ普通恩給及增加恩給ヲ給セラレ候處

未タ傷痍（疾病）回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ

請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式ノ二

再審査請求書

年　月　日退職シ（　年　月　日　役ヲ免セラレタル）ニ依

リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍（疾病）回復セサルヲ以テ再

審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

〔榫法〕

第十三號書式

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

履歴書

退職當時ノ官職名

氏　名印

年月日生

年月日	記　事	官公署名

右相違ナキコトヲ證明ス

年　月　日（退職當時ノ所屬廳ノ長）

官職　氏　名印

備考
- 一 履歴書ハ二通提出スヘシ
- 一 學歴、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス
- 一 官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ様ニ詳記スヘシ
- 一 退職ノ事由ヲ明記スヘシ
- 一 退職當時ノ所屬廳ノ長ハ他廳ニ關スル事項ニ付テハ照會ノ上之ヲ詳記スヘシ

第十四號書式

現認證明書

公務員ノ官職名

氏　名

右者　年　月　日　午前（後）　時　地ニ於テ（何）ニ從事中（何）ニ因リ（何）ノ事情ノ下ニ負傷（罹病）シタルコトヲ現認候也

年　月　日

住所又ハ官職名

現認者　氏　名印

備考　本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十五號書式

事實證明書

公務員ノ官職名

氏　名

右者　年　月　日ヨリ（何）ニ從事中　年　月　日（何）ノ狀況ニ於テ（何）ニ從事シ　月　日頃ヨリ（何）ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後（何）ノ處置ヲ施シタリ

右證明ス

年　月　日

所屬長　氏　名印

備考　本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第十六號書式

前證書記號番號	前在職年	前職又ハ前階等	前恩給年額

普通恩給金額計算書

退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
在職年數	
退職前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓、錢
退職當時ノ階等	
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ
恩給法第十四條ニ依ル控除：控除前ノ算出額	圓　錢
恩給法第十四條ニ依ル控除：差月數	月
恩給法第十四條ニ依ル控除：一時恩給基礎俸給月額	圓　錢
恩給法第十四條ニ依ル控除：控除額	圓　錢

居住地地方廳名	
支給郵便局名	局
請求者ノ退職當時ノ官職名	氏　名 年月日生
普通恩給年額	金　圓
每期給額	金　圓　錢
恩給法第五十八條第一項第三號ニ依ル普通恩給停止額	（イ）年　月迄　普通恩給六分ノ一　圓　錢 （ロ）年　月迄　普通恩給八分ノ一　圓　錢
每期停止額	（イ）金　圓　錢 （ロ）金　圓　錢
初期支給額	年　月分ノ給額　箇月分　金　圓　錢

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職　氏　名印

內閣恩給局長氏名殿

在職年內譯

實在職年	始終期	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	合計　年　月	

加算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		

除算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		

總計　年　月

退職前ノ俸給年額內譯

	退職前一年ノ期間	月數	本俸年(月)額	月數ト月額トノ積
本俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
退職前一年內ノ本俸總額				
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
退職前一年內ノ加俸總額				

第十六號書式ノ二

前證書記號番號	前在職年	前職又ハ前階等	前恩給年額

普通
增加恩給金額計算書

退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
在職年數	
退職前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職當時ノ階等	
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ
公務傷病ノ原因	
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日
症狀等差	第　項

居住地地方廳名	
支給郵便局名	局

請求者ノ退職當時ノ官職名　氏名

年　月　日生

恩給法第六十四條ニ依ル普通恩給ノ算出額ノ控除	
控除前ノ算出額	圓　錢
差月數	月
一時恩給基礎俸給月額	圓　錢
控除額	圓　錢

年額	普通恩給金　圓 增加恩給金　圓
每期給額	金　圓　錢

初期支給額

年　月分ノ給額　箇月分　金　圓　錢

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職　氏　名　印

內閣恩給局長氏名殿

在職年內譯

實在職年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日
	年月數			
	合計　年　月			
加算年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日
	事由			
	年月數			
	合計　年　月			
除算年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日
	事由			
	年月數			
	合計　年　月			
總計　年　月				

退職前ノ俸給年額内譯

	退職前一年ノ期間	月數	本俸年(月)額	月數ト月額トノ積
本俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年内ノ本俸總額			
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年内ノ加俸總額			

〔棒法〕

第十六號書式ノ三

前傷病年金證書
記號番號　第　　號
年額　金　　圓

傷病年金金額計算書	
居住地地方廳名	
支給郵便局名	局
退職年月日	年　月　日
兵役免除年月日	年　月　日
退職（兵役免除）ノ事由	
退職當時ノ階等	
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日
公務傷病ノ原因	
症狀等差	第　　款
退職當時ノ官職名	氏名
傷病年金金額	金　　圓

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

〔棒法〕

第十七號書式

內閣恩給局長氏名殿

官職　氏　名　印

一時恩給金額計算書

支給郵便局名	局
退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
在職年數	
退職前ノ俸給月額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職當時ノ階等	

請求者ノ退職當時ノ官職名

氏　名

一時恩給金額	金　圓

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職　氏　名　印

內閣恩給局長氏名殿

第十八號書式

在職年內譯

實在職年	始終期		年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		
加算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		
除算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計　年　月		
總計　年　月			

退職前ノ俸給年額內譯

本俸	退職前一年ノ期間	月數	本俸年（月）額	月數ト月額トノ積
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年內ノ本俸總額			
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			

退職前一年内ノ加俸總額	自 年月日 至 年月日	

第十八號書式

扶助料金額計算書

公務員ニ關スル事項		
退職（死亡）年月日	年 月 日	
退職ノ事由又ハ死因		
在職年數		
退職（死亡）前ノ俸給年額	本俸	圓 錢
	加俸	圓 錢
	合計	圓 錢
退職（死亡）當時ノ階等		
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ	
恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除	控除前ノ算出額	圓 錢
	差月數	月
	一時恩給基礎俸給月額	圓 錢
	控除額	圓 錢
普通恩給年額		圓

居住地地方廳名	
支給郵便局名	局

改定前ノ恩給ニ關スル事項	
恩給證書記號番號	
在職年	
官職名又ハ階等	
普通恩給年額	金 圓

扶助料額		
年額	金 圓	普通恩給ノ 分
毎期給額	金 圓 錢	
恩給法第七十五條第二項ニ依ル給加	年 月迄 金 圓	普通恩給十分ノ三
毎期給額	金 圓 錢	

公務員トノ續柄 氏名

年 月 日生

年 月ヨリ給與

初期支給額
年 月分ノ給額 箇月分 金 圓 錢

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

〔棒法〕

〔棒法〕

年 月 日

官職 氏 名 印

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯				
實在職年	始終期	自 年月日 至 年月日	自 年月日 至 年月日	自 年月日 至 年月日
	年月數			
	合計 年 月			
加算年	始終期	自 年月日 至 年月日	自 年月日 至 年月日	自 年月日 至 年月日
	事由			
	年月數			
	合計 年 月			
除算年	始終期	自 年月日 至 年月日	自 年月日 至 年月日	自 年月日 至 年月日
	事由			
	年月數			
	合計 年 月			
總計 年 月				

退職前ノ俸給				
本俸	退職前一年ノ期間	自 年月日 至 年月日	自 年月日 至 年月日	自 年月日 至 年月日
	月數			
	本俸年（月）額			
	月數ト月額トノ積			
退職前一年内ノ本俸總額				

年額内譯	
加俸	
自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日	
自　年　月　日 至　年　月　日	
退職前一年内ノ加俸總額	

第十九號書式

恩給法第八十一條ノ一時扶助料金額計算書

支給郵便局名	局

公務員ニ關スル事項	
退職（死亡）年月日	年　月　日
退職ノ事由又ハ死因	
在職年數	
退職（死亡）前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職（死亡）當時ノ階等	
恩給證書記號番號	第　號

公務員トノ續柄　氏名　年月日生

公務員トノ續柄　氏名　年月日生

一時扶助料	金　圓

〔樺法〕

〔樺法〕

第二十號書式

普通恩給年額	金　圓
金額	扶助料年額　年分

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職　氏　名　印

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯					
實在職年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	合計　年　月
	年月數				
加算年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	合計　年　月
	事由				
	年月數				
除算年	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	合計　年　月
	事由				
	年月數				
總計　年　月					

退職前			
本俸	退職前一年ノ期間	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日
	月數		
	本俸年（月）額		
	月數ト月額トノ積		

ノ俸給年額内譯

自　年　月　日 至　年　月　日	
退職前一年内ノ本俸總額	
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日
	自　年　月　日 至　年　月　日
	自　年　月　日 至　年　月　日
退職前一年内ノ加俸總額	

第二十號書式

恩給法第八十二條ノ一時扶助料金額計算書

死亡年月日	年　月　日
死因	
在職年數	
死亡前ノ俸給月額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
死亡當時ノ階等	
公務員トノ續柄	氏　名
一時扶助料金額	金　圓
支給郵便局名	局

〔棒法〕

〔棒法〕

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職　氏　名印

内閣恩給局長氏名殿

在職年内譯

實在職年	始終期	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日	
	合計	年　月

加算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計		年　月

除算年	始終期	事由	年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	合計		年　月

總計　年　月

退職前ノ

本俸

退職前一年ノ期間	月數	本俸年（月）額	月數ト月額トノ積
自　年　月　日 至　年　月　日			
自　年　月　日 至　年　月　日			
自　年　月　日 至　年　月　日			

俸給年額內譯			
退職前一年內ノ本俸總額			
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
	自　年　月　日 至　年　月　日		
退職前一年內ノ加俸總額			

第二十一號書式

傷病賜金金額計算書	支給郵便局名	局
退職年月日	年　月　日	
兵役免除年月日	年　月　日	
退職（兵役免除）ノ事由		
退職當時ノ階等		
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日	
公務傷病ノ原因		
症狀等差	第　目	
退職當時ノ官職名	氏　名	
傷病賜金金額	金　錢	

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職　氏　名　印

內閣恩給局長　氏名殿

第二十二號書式

年　月　日	
內閣恩給局宛（貯金局經由）	裁判所
氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第　號

罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年　月　日
判決確定年月日	年　月　日
刑期起算年月日	年　月　日
刑期滿了年月日	年　月　日

第二十三號書式

年　月　日	
內閣恩給局宛（貯金局經由）	裁判所
氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第　號
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年　月　日
判決確定年月日	年　月　日
刑期起算年月日	年　月　日
刑期滿了年月日	年　月　日
執行猶豫期間	年
執行猶豫言渡取消年月日	年　月　日

第二十四號書式

恩給證書（裁定通知書）再交付申請書

一恩給證書ノ記號番號（裁定通知書ノ番號）

一恩給證書ノ日附（裁定通知書ノ日附）

一恩給金額

右恩給證書（裁定通知書）ヲ亡失（毀損）致候ニ付再交付相成度申請候

年　月　日

退職當時ノ官職名又ハ

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所
氏　　名　印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　○○郵便局

第二十五號書式

恩給受給權調査票

一、恩給證書記號番號
一、受給者住所氏名
一、受給權調査期月　昭和　年　月

備考
用紙ハ成ル可ク半紙四ツ切大又ハ半折大トスルコト

●恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更生手續

大正十二年八月二十二日
閣令第五號

恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條　恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票（第一號樣式）ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス

第二條　恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條　支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ俟タス内閣恩給局ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第四條　第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

〔捧法〕

第五條　第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ交付請求書（第二號樣式）ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局ニ差出スヘシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明ヲ受クヘシ

受給權者ハ内閣恩給局又ハ支給郵便局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第六條　前條ノ交付請求書提出後現住地ヲ變更シタルトキハ其ノ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第七條　第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得サル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ

第八條　支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ内閣恩給局ニ其ノ再交付ヲ請求スヘシ

第九條　大正九年七月三十一日以前ノ日附アル證書ハ大正十二年十月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十條　大正九年八月一日以後大正十二年九月三十日迄ノ間ニ於ケル日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ大正十四年三月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十一條　恩給法第百三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ恩給給與規則第一條及第二條又ハ第七條及第八條ノ規定ニ依ルノ外師第七師團長及陸軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第十二條　從前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ更正増額スル場合ニ於テハ第一條乃至第七條ノ規定ニ依リ先ツ同法第百一條又ハ第百一條及第百二條ノ規定ニ依ル更正増額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ツテ同法第百三條ノ規定ニ依ル更正増額ヲ爲ス

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ更正請求書（第三號樣式）ヲ第七師團長及陸軍大臣ヲ經テ内閣恩給局長ニ差出スヘシ

第十三條　陸軍大臣前條ノ更正請求書ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書ヲ添附シ其ノ他恩給給與規則ノ例ニ依リ之ヲ内閣恩給局長ニ進達スヘシ

第十四條　恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔捧法〕

第一號樣式

大正十三年壹月渡以降更正支給額表

更正證書記號番號	更正年額
	圓
現證書記號番號	更正一期額
	圓
肩書及氏名	

注意（一）本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スヘシ
（二）更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スヘキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スヘシ

（内閣恩給局）

第二號樣式（裏面）

交付請求書

證書記號番號	
受給者肩書	
氏名	
支給郵便局名	局
現住地府縣	

恩給法ニ依ル更正證書及請求候也

現住地

受給者氏名印

右現住者タルコトヲ證明ス

大正　年　月　日

警察（署長／分署長）

町村長

（表面）

郵便切手貼附ノコト

Carte Postale

郵便はかき

東京市丸之内

内閣恩給局

御中

（第三號樣式）

更正請求書

退職當時ノ官職　氏　名

年月日生

一退職年月日　年　月　日

一證書ノ記號番號　第　號

一證書ノ日附　年　月　日

一現恩給又ハ扶助料年額　金　圓

一支給郵便局名（又ハ新ニ支給ヲ受ケムトスル郵便局名）

恩給法第百三條ノ規定ニ依リ前記恩給扶助料年額更正相成度此段請求候

年　月　日

本籍地

現住地

請求者　氏　名　㊞

内閣恩給局長氏名殿

（注意）

一請求書ハ第七師團司令部ニ差出スヘシ

二請求書提出後本籍地又ハ現住地ヲ變更シタルトキハ速ニ内閣恩給局ニ屆出ツヘシ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

●恩給法第百一條及第百二條ノ規定ニ依リ增加恩給中樺太廳長官ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續

大正十二年十月四日
廳令第四十八號

第一條　恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票（第一號樣式）ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス

第二條　恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條　支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ俟タス樺太廳ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第四條　第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第五條　第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ交付請求書（第二號樣式）ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ樺太廳ニ差出スヘシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明ヲ受クヘシ

受給權者ハ樺太廳又ハ郵便官署ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第六條　前條ノ交付請求書提出後現住地ヲ變更シタルトキハ其ノ現住地ノ警察官署領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第七條　第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ樺太廳ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得サル事由ヲ詳記シタル書面ヲ樺太廳ニ差出スヘシ

第八條　支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ樺太廳ニ其ノ再交付ヲ請求スヘシ

第九條　大正九年七月三十一日以前ノ日附アル證書ハ大正十二年十月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十條　大正九年八月一日以後大正十二年九月三十日迄ノ間ニ於ケル日附アル證書及之ニ貼付シタル支給額票ハ大正十四年三月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十一條　恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

〔樺法〕

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

第一號樣式

大正十三年一月渡以降更正支給額表

更正證書番號	更正年額	
第　號	圓	(一)本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼付スヘシ (二)更正ニ對スル新證書ハ追テ交付ニ付其ノ際現證書ト引換ノコト
現證書番號	更正一期額	
第　號		
肩書及氏名		

（樺太廳）

第二號樣式（裏面）

交付請求書

證書番號	受給者肩書	氏名	支給郵便局名	現住地府縣
			局	

恩給法ニ依ル更生證書及請求候也

現住地
受給者　氏　　名印

右現住者タルコトヲ證明ス

大正　年　月　日

町村長
警察（署長
　　　分署長）

〔樺法〕

（表面）

郵便切手貼付ノコト

樺太廳
御中

恩給法附則ニ依ル增額恩給更正規則

大正十二年九月一日
遞信省令第五十七號

恩給法附則ニ依ル增額恩給更正規則左ノ通定ム

恩給法附則ニ依ル增額恩給更正規則

第一條　貯金局ニ於テ大正十二年閣令第五號其ノ他恩給法第百一條乃至第百三條ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ニ支給額票貼附ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條　受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ヲ支給郵便局ニ差出シ支給額票ノ貼附ヲ請求スヘシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該證書ノ表面上部欄外ニ支給額票ヲ貼附シ日附印ヲ以テ契印シタル上之ヲ受給者ニ返付スヘシ

第三條　受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準シ當該證書ニ對スル支給額票貼附ノ手續ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條　受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書ニ對スル受領證印ヲ爲シ之ヲ指定ノ郵便局ニ差出シ引換ニ新證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂スルモノナルトキハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屆ヲ作成シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條　第三條ノ支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ之ヲ引換ヘ保管ス

第六條　恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給支給規則ヲ準用ス

附　則

本規則ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

年金恩給支給規則

大正十二年十一月十日
遞信省令第九十二號

改正　昭三年二月遞信省令五號

年金恩給支給規則左ノ通改正ス

年金恩給支給規則

第一章　總則

第一條　國庫ノ支辨ニ屬スル左ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

一、明治二十七年勅令第百七十三號金鵄勳章年金令ニ依ル給與金
二、大正十二年法律第四十八號恩給法ニ依ル給與金
三、特ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金

第二條　前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス

〔樺法〕

第三條　繼續給與金ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス但シ恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合又ハ年金ノ支給ヲ廢止セラレタル場合ニ於ケル給與金ニ付テハ支給期月及期日ニ拘ハラス之ヲ支給ス

一時限ノ給與金ノ支給ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

第四條　受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ屆書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條　受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作成シ新支給郵便局又ハ舊支給郵便局ニ差出スヘシ

郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第六條　代人ニ於テ本規則ニ依リ各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作成スルコトヲ得

第二章　繼續支給

第七條　繼續支給セラルヘキ給與ニ關スル證書ヲ受領シタル者ハ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屆ヲ作成シ之ヲ差出スヘシ但シ年金タル恩給ヲ受クル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印屆ヲ作成シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第八條　受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ニ差出スヘシ

前項給與金受領證書ノ用紙ハ郵便局ノ交付スル用紙ト同一樣式ノモノニ限リ之ヲ私製シ使用スルコトヲ得

第九條　受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高竝支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ貯金局ニ差出スヘシ

受給者前項ノ請求ニ對シ貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

〔樺法〕

第十條　受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期每ニ自己ノ郵便貯金（月掛貯金ヲ除ク）ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ給與金ハ其ノ支給期每ニ貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入ノ手續ヲ爲ス

第十一條　受給者振替預入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯金通帳ノ記號番號、給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號竝請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス

第十三條　前條ニ依リ保管證書ノ交付ヲ受ケタル受給者ハ給與金ノ支給

期毎ニ郵便貯金通帳ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十四條　受給者第十條ニ依ル振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル屆書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金局ニ差出スヘシ

貯金局ニ於テ前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十五條　受給者保管證書ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ、之ヲ毀損シタルトキハ保管證書ヲ添ヘ貯金局ニ其ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得

保管證書ノ再交付ヲ爲シタルトキハ從前ノ保管證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三章　一時支給

第十六條　一時限ノ給與金ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第十七條　受給者前條ノ支給通知書ニ依リ給與金ヲ受領セムトスルトキハ裁定官廳ノ裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ支給郵便局ハ必要ニ依リ受給者ニ對シ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ作成シタル印鑑證明書ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●巡查看守療治料、給助料及弔祭料給與令

明治三十四年七月二十六日
勅令第百四十九號

改正　明三八年二月勅令三九號、大四年三月三五號、七年二月一九號、昭四年一二月三七二號

朕巡查看守療治料、給助料及弔祭料給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、海、陸、內、司、外、大臣副署）

巡查看守療治料、給助料及弔祭料給與令

第一條　巡查又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ本屬長官ニ於テ治療ヲ要スルモノト認ムルトキハ其ノ治療中療治料ヲ給ス

療治料ハ一日二圓以內トス但シ治療費一日平均二圓ヲ超過シタルトキハ適當ト認ムヘキ實費ヲ精算シテ之ヲ追給スルコトアルヘシ

第二條　療治料ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ給助料ヲ給ス

一　治療二十日以上ニ涉リ引續在職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

二　療治料給與ニ係ル傷痍疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

前項ノ給助料ハ第一號ニ當ル者ニ在リテハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分トシ第二號ニ當ル者ニ在リテハ退職當時ノ月俸三箇月分トス

療治料ヲ受クル者治療二十日以上ニ涉ラスト雖引續在職シ本屬長官必要ト認ムルトキハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分以內

ノ範圍ニ於テ給助料ヲ給スルコトアルヘシ但シ治療七日ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　巡查又ハ看守在職中死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ弔祭料ヲ給ス但シ同順位間ニ在リテハ其ノ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニシ同親等間ニ在リテハ男ハ女ニ先チ同性間ニ在リテハ長ハ幼ニ先ツ

一　配偶者

二　直系卑屬

三　直系尊屬

四　兄弟姉妹

前項親族ニシテ公權剝奪若ハ停止中ニ係リ又ハ行方不明ナルトキハ弔祭料ヲ給スル限ニ在ラス但シ次位者アルトキハ之ヲ轉給ス

弔祭料ハ死亡當時ニ於ケル月俸一箇月分トシ勤續一年以上九年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ死亡當時ニ於ケル月俸額三分二ヲ增加ス但シ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ因テ死亡シタル者ニハ更ニ死亡當時ニ於ケル月俸六箇月分ヲ增加ス

勤續年數ノ計算ニ關シテハ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ノ例ニ依ル

第四條　前條ニ依リ弔祭料ヲ受クヘキ者ナキトキハ死亡者ノ爲葬祭ヲ行フヘキ者ニ前條ニ定ムル金額ノ三分一以內ヲ給スルコトアルヘシ

第五條　休職者ハ在職者ニ準シ休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ニ依リ本令ニ依ル給與ヲ行フ

第六條　本令ニ依ル給與ハ之ヲ行フヘキ事由ノ生シタル當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス但シ休職者ニ在リテハ休職ヲ命セラレタル際俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第七條　本令ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守、海軍警查、貴族院守衞、衆議院守衞及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十八年勅令第三十九號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

女監取締ノ明治三十六年三月三十一日以前ニ於ケル勤續年數ハ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第三條ニ規定スル勤續年數ニ非サルモノト看做ス

●巡查看守療治料、給助料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用スルノ件

明治四十三年三月二十八日
勅令第百二十六號

朕巡查看守療治料、給助料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、內、大臣副署）

巡查看守療治料、給助料及弔祭料給與令ハ警部補ニ之ヲ準用ス但シ勤續年數ノ計算ニ關シテハ明治四十三年法律第三十號ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●雇員扶助令

昭和三年六月九日
勅令第百九號

朕雇員扶助令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、大、大臣副署）

雇員扶助令

第一條　政府ハ其ノ使用スル雇員ガ職務上傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス

扶助金ノ支給ヲ受クベキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

扶助金ノ支給ハ雇員ヲ解職スルモ變更スルコトナシ

第二條　扶助金ハ療治料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ五種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

一　療治料ハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケザルモノニ之ヲ支給ス

二　障害扶助料ハ傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス

三　打切扶助料ハ療養ノ期間一年六月ヲ經過スルモ傷痍又ハ疾病ノ治癒セザル者ニ之ヲ支給ス

四　遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ支給ス

五　葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

打切扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セズ

雇員重大ナル過失ニ因リ傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ障害扶助料又ハ遺族扶助料ヲ支給セザルコトヲ得

第三條　障害扶助料、打切扶助料又ハ遺族扶助料ノ額ハ別表金額ノ範圍內ニ於テ傷痍疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第四條　療治料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス

障害扶助料ハ雇員ノ傷痍又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ雇員ノ死亡後遲滯ナク之ヲ拂渡スモノトス

第五條　傷痍又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條　本令ニ於テ遺族トハ死亡者ノ配偶者、子、父、母、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ル者ヲ謂フ

第七條　遺族扶助料ハ前條ノ遺族ノ順位ニ依リ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ雇員ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準ジ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

兄弟姉妹ニ遺族扶助料ヲ支給スルハ其ノ者ガ未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限ル

〔樺法〕

遺族扶助料ヲ支給スヘキ順位ニ在ル者行衛不明ナルトキハ遺族扶助料ハ其ノ次順位ニ在ル者ニ之ヲ支給ス

第八條　雇員健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クベキトキハ其ノ期間療治料ヲ支給セズ

雇員ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルベキトキハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ但シ葬祭料ノ額ガ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

健康保險法第六十二條第一項（第二號ノ規定ヲ除ク）第二項又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ療治料又ハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ

第九條　解職後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ズ但シ解職前ニ又ハ解職後一年內ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル傷痍又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　扶助金算出ノ標準タル俸給月額ハ加俸ヲ含マザル基本給トシ日給者ニ在リテハ其ノ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島ニ在勤スル內地人又ハ外國ニ在勤スル者ニシテ別ニ在勤加俸ヲ受ケザル者ニ在リテハ其ノ在勤地ニ於ケル判任文官ノ月俸ト在勤加俸トノ割合ヲ斟酌シ大藏大臣ノ定ムル金額ヲ前項ノ金額ヨリ控除ス

第十一條　政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救濟ヲ目的トスル組合ノ組合員タル現業雇員ニハ本令ニ依ル障害扶助料及遺族扶助料ハ之ヲ支給セズ

組合員タル現業雇員組合ヨリ療治料及葬祭料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ第八條及第九條ノ規定ヲ準用シ打切扶助料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ本令ニ依ル打切扶助料ハ之ヲ支給セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當內規、臺灣總督府雇員傭員死沒傷痍疾病手當規則及朝鮮臺灣滿洲樺太竝在外陸海軍雇員傭人死傷手當金給與規則ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前給與原因ノ生ジタル手當金ノ支給ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

明治四十年勅令第百二十七號中第五條削除

明治四十二年勅令第百五十一號、大正八年勅令第八十號、同年勅令第三百六號、同年勅令第三百六十一號、大正九年勅令第五百十號、同年勅令第五百七十四號、大正十一年勅令第六十號及大正十四年勅令第二百十四號中各第五號ヲ削ル

他ノ法令ニ於テ各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當內規、臺灣總督府雇員傭員死沒傷痍疾病手當規則又ハ朝鮮臺灣滿洲樺太竝在外陸海軍雇員傭人死傷手當金給與規則トアルハ之ヲ本令トス

職務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹レル雇員ニシテ本令施行ノ際仍治癒セザル者ニ對スル本令施行後ノ扶助ハ本令ニ依ル

本令施行前治癒シタル職務上ノ傷痍又ハ疾病ガ本令施行前再發シ本令施行ノ際仍治癒セサルトキ又ハ本令施行後再發シタルトキハ本令ヲ適用ス

但シ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル扶助料及傷痍疾病手

〔樺法〕

當金ハ之ヲ本令ニ依ル障害扶助料ト看做ス

（別表）

種別		金額
療治料		實費
障害扶助料	終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ	俸給月額二十四月分以上三十月分以下
	終身業務ニ服スルコト能ハザルモノ	俸給月額十六月分以上二十二月分以下
	從來ノ業務ニ服スルコト能ハザルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハザルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ	俸給月額十月分以上十四月分以下
	身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ	俸給月額二月分以上八月分以下
打切扶助料		俸給月額十六月分以上三十月分以下
遺族扶助料		俸給月額十五月分以上二十月分以下
葬祭料		俸給月額二月分

●雇員扶助令第十條第二項ノ規定ニ依リ俸給中ヨリ控除スヘキ金額ノ件

昭和三年六月九日
大藏省告示第百十二號

雇員扶助令第十條第二項ノ規定ニ依リ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル内地人タル雇員及外國ニ在勤スル雇員ニ付同條第一項ニ規定スル俸給中ヨリ控除スベキ金額左ノ通之ヲ定ム

一	朝鮮在勤者	俸給ノ十六分ノ六
二	臺灣及樺太在勤者	同　十五分ノ五
三	關東州在勤者	同　十七分ノ七
四	南滿洲在勤者	同　十八分ノ八
五	南洋群島、支那及西伯利亞在勤者	同　二十分ノ十
六	歐羅巴、亞弗利加、大洋洲並支那及西伯利亞以外ノ亞細亞在勤者	同　二十五分ノ十五
七	南北亞米利加在勤者	同　三十分ノ二十

特殊ノ事情ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ定ム

●傭人扶助令

大正七年十一月二十一日
勅令第三百八十二號

改正　大一五年六月勅令二三九號、昭三年六月一二八號、四年七月二三七號

朕傭人扶助令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、大、農大臣副署）

傭人扶助令

第一條　政府ハ其ノ雇傭スル職工、鑛夫其ノ他ノ傭人業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス

扶助金ノ支給ヲ受クヘキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

扶助金ノ支給ハ傭人ヲ解雇スルモ變更スルコトナシ

第二條　扶助金ハ療治料、休業扶助料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

一　療治料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケサルモノニ之ヲ支給ス

二　休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサル者ニ之ヲ支給ス

三　障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス

四　打切扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病ノ治癒セサル者ニ之ヲ支給ス

五　遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族又ハ其ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

六　葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ傭人死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

打切扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セス

傭人重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セザルコトヲ得

第三條　障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料又ハ葬祭料ノ額ハ別表金額ノ範圍内ニ於テ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第四條　療治料又ハ休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス

障害扶助料ハ傭人ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ傭人ノ死亡後遲滯ナク之ヲ拂渡スモノトス

第五條　負傷又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條　遺族扶助料ノ支給ヲ受クヘキ者ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

第六條ノ二　傭人健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クベキトキハ其ノ期間療治料ハ之ヲ支給セズ、健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クベキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同ジ

傭人ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルベキトキハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ但シ葬祭料ノ額ガ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

健康保險法第六十二條第一項（第二號ヲ除ク）若ハ第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ療治料、休業扶助料又ハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ

第七條　負傷又ハ疾病カ傭人ノ解雇後ニ再發シタル場合ニ於テハ扶助金ハ之ヲ支給セス

第八條　解雇後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健

康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　扶助金算出ノ標準タル賃金ノ額ヲ定ムル方法ニ關シテハ工場法施行令第十六條第一項乃至第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ主務官廳之ヲ定ム

第十條　政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救濟ヲ目的トスル組合ノ組合員タル現業傭人ニハ本令ニ依ル障害扶助料及遺族扶助料ハ之ヲ支給セズ

組合員タル現業傭人組合ヨリ療治料、休業扶助料及葬祭料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ第六條ノ二及第八條ノ規定ヲ準用シ打切扶助料ニ相當スル給付ヲ受クベキトキハ本令ニ依ル打切扶助料ハ之ヲ支給セズ

附　則

本令ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際官役職工人夫扶助令ニ依リ療治料又ハ給助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本令施行ノ日ヨリ本令ニ依ル扶助金ヲ支給ス

官役職工人夫扶助令ハ之ヲ廢止ス

附　則　（大正十五年勅令第二百三十九號）

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ官費治療ヲ受クル者又ハ從前ノ規定ニ依リ扶助金ヲ受クル者ニシテ本令施行ノ際引續キ官費治療又ハ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ハ本令施行後ハ本令ニ依ル、本令施行前ニ官費治療又ハ扶助金ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ニ付亦同ジ

附　則　（昭和三年勅令第百二十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹レル傭人ニシテ本令施行ノ際仍治癒セザル者ニ對スル本令施行後ノ扶助ハ本令ニ依ル

本令施行前治癒シタル業務上ノ負傷又ハ疾病ガ本令施行前再發シ本令施行ノ際仍治癒セザルトキ又ハ本令施行後再發シタルトキハ再發ノ時迄引續キ雇傭スル傭人ニ限リ本令ヲ適用ス

（別表）

種別		金額
療治料		實費
休業扶助料	同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日以內ナルトキ	一日ニ付賃金日額百分ノ六十
	同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日ヲ超エタルトキ	一日ニ付賃金日額百分ノ四十
障害扶助料	終身自用ヲ辨ズルコト能ハザル者	賃金五百四十日分以上七百日分以下
	終身勞務ニ服スルコト能ハザル者	賃金三百六十日分以上五百日分以下
	從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザル者、健康舊ニ復スルコト能ハザル者又ハ女子ニシテ其外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者	賃金百八十日分以上三百日分以下
	身體ニ障害ヲ存スト雖モ引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者	賃金四十日分以上百五十日分以下
打切扶助料		賃金五百四十日分以上七百日分以下
遺族扶助料		賃金三百六十日分以上六百日分以下
葬祭料		賃金三十日分（但シ三十圓ニ滿チサルトキハ三十圓）以上四十日分以下

第五類　文書　統計　國勢調査

第五類　文書　統計　國勢調査

第一章　文書

○樺太廳處務規程〔昭七、訓令一八九〕……一
○樺太廳處務規程第二十六條ニ依ル記號及其ノ處理要領〔昭七、訓令一九一〕……一二
○文書番號其ノ他ニ關スル件〔昭七、文六九七通牒〕……一六
○各主務課ヲシテ直接掌理セシムヘキ文書指定ノ件〔大六、訓令一〇四〕……一六
○主務課直接掌理文書中ノ特殊文書ニ關スル件〔昭六、文二六通牒〕……二〇
○文例及用字例ニ關スル件〔昭七、文三一通牒〕……二三
○文書ノ發信名ニ關スル件〔昭六、文三二六通牒〕……三三
○警察機密文書取扱ニ關スル件〔昭五、訓令六一〕……三四
○諸願屆書等ノ提出方ニ關スル件〔大一二、廳令五五〕……三五
○文書經由ニ關スル件〔大一三、廳訓五八〕……三六
○法人設立許可申請書及屆書調査進達方竝ニ設立後ノ監督ニ關スル件〔昭八、拓訓一〕……三六
○文書編纂保存規程〔昭八、訓令一〕……三六
○文書編纂部目〔昭二、文二四五〕……四三
○特定郵便局文書取扱手續〔昭二、訓令三五〇〕……五二
○特定郵便局圖書、編纂文書及使用濟帳簿類整理竝處分手續〔昭二、訓令三四九〕……五八
○樺太廳圖書取扱規程〔大一〇、訓令一六〇〕……六一
○樺太廳公報及樺太廳報編纂規程〔昭五、訓令二八七〕……六二
○施政沿革ノ記錄ニ關スル件〔昭八、文七七八〕……六三
○通信公報規程〔大一〇、廳訓六八〕……二十類一章通信ニ輯ム

第二章　統計　報告

○樺太廳統計事務規程〔昭四、訓令五三五〕……六五
○通信統計報告規程〔大二、訓令八九〕……二十類一章通信ニ輯ム
○樺太廳報告例〔大一一、廳訓三一〕……六五
○樺太ノ町村長ノ統計事務處理ニ關スル件〔昭九、勅令一七〕……六六
○人口動態調査令〔大一一、勅令四七八〕……六六
○人口動態調査令施行細則〔大一一、閣令八〕……七二
○人口動態調査令施行細則取扱手續〔昭八、訓令一二〕……七六
○人口動態調査票及送致目錄作成心得〔大一一、閣訓一〕……七八
○人口動態調査ノ結果表章ニ用ウヘキ死因及疾病分類〔大一三、閣訓一〕……一一六
○統計製表ニ用フベキ支廳、支廳出張所、林務署竝警察署配列順序ニ關スル件〔昭八、調二六三通牒〕……一二六
○樺太廳官報報告規程〔大一四、訓令一五〇〕……一二七
○樺太廳官報報告規程第三條第七號ノ二ノ圖書ノ取扱ニ關スル件〔昭六、文一五九通牒〕……一二八
○司法事務ニ關係アル廳府縣令發布ノ都度報告ノ件〔大一

三、司訓四〕……一三〇

第三章　資源調査

○資源調査法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件〔昭四、勅三二七〕……一三一
○資源調査法〔昭四、法五三〕……一三一
○資源調査令〔昭四、勅三二九〕……一三二
○資源調査令別表ニ基ク指定（抄錄）〔昭四、閣告五〕……一六五
○樺太資源調査規則〔昭四、廳令四二〕……一七一
○資源調査事務規程〔昭四、訓令五九八〕……二〇八
○樺太資源調査規則第二條及第三十條ノ規定ニ依ル港灣、地方鐵道、軌道、鐵道又ハ軌道ノ線路區間及停車場ノ指定ニ關スル件〔昭四、告示二五〇〕……二二〇
○樺太資源調査規則第八條第二項ノ規定ニ依ル原料及材料、原動機竝作業機械及設備ノ種類ニ關スル件〔昭四、告示二五一〕……二二〇
○樺太資源調査規則第八條第三項ノ規定ニ依ル生産分類ニ關スル件〔昭四、告示二五二〕……二二二
○港灣資源調査規則（抄錄）〔昭四、内令四一〕……二三五
○海事資源調査規則（抄錄）〔昭四、遞令四八〕……二六〇
○工場調査規則（抄錄）〔昭四、商令一七〕……二七三

第四章　國勢調査

○國勢調査ニ關スル法律〔明三五、法四九〕……二七四
○昭和五年國勢調査施行令〔昭四、勅三九六〕……二七四

終

第五類　文書　統計　國勢調査

第一章　文書

●樺太廳處務規程

昭和七年八月二十七日
訓令第百八十九號

改正　昭八年一一月訓令五八號

廳中一般

樺太廳處務規程左ノ通定ム

樺太廳處務規程

第一條　文書ノ收受、處理及發送ハ特殊ノ取扱ヲ要スルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條　文書ノ收受及發送ハ機密ニ屬スルモノ及特ニ主務課ヲシテ直接掌理セシムルモノハ各主務課、其ノ他ノモノハ文書課（警察部ノ主管ニ屬スルモノハ警務課）ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

前項ノ規定ニ依リ各主務課ニ於テ取扱フヘキ文書ハ別ニ之ヲ指定ス其ノ取扱手續ニ付テハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外文書課ニ於ケル取扱ニ準スヘシ

第三條　各課ニ文書主任ヲ置キ文書取扱ノ事務ニ從事セシム

文書主任ハ當該課長之ヲ命シ其ノ官職氏名ヲ文書課長ニ通知スヘシ

文書主任又ハ立案者ハ必要ニ應シ文書處理簿ヲ設ケ文書處理ノ狀況ヲ明カニスヘシ

第四條　本廳ニ到達シタル文書ハ文書課（警察部ノ主管ニ屬スルモノハ警務課）ニ於テ左ノ各號ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

一　親展ヲ要スル文書ハ之ヲ親展文書收受簿ニ記入シ封皮ニ收受ノ年月日、番號ヲ記入シ封緘ノ儘各宛名（長官宛ノモノハ祕書課長）ニ配付スヘシ但シ長官宛親展文書ニシテ警察機密ノ標示アルモノハ警察部長ニ配付スヘシ

二　親展ヲ要セサル文書ハ之ヲ開披シ主務課直接掌理文書ヲ除クノ外其ノ件名、番號及年月日等ヲ文書收發簿ニ記入シ本書ニ收受番號及年月日ヲ記入シテ主務課長ニ配付スヘシ但シ閣、省等中央官廳ヨリノ文書ニシテ文書課長（又ハ警務課長）重要ト認ムルモノハ主務課長ニ配付前、長官、主務部長、關係部長ノ順序ニ持廻リ又ハ袋入リトシテ閲覽ニ供スヘシ第五號但書ノ規定ニ依リ主務課長ニ配付スヘキ電報ノ中重要ト認ムルモノニ付亦同シ

三　課宛ノ文書ハ封ノ儘主務課長ニ配付スヘシ但シ書留、配達證明、内容證明其ノ他特殊扱ニ係ルモノハ送付簿ニ記入シ受領ノ證印ヲ受クルコトヲ要ス

四　私信ト認ムヘキ文書ハ前各號ノ手續ヲ爲サス其ノ儘之ヲ宛名ニ配付スヘシ其ノ特殊扱ニ係リ受領ノ證憑ヲ要スルモノハ巡視ヲシテ之カ受領、配付ヲ爲サシムルコトヲ得

五　電報ハ電報配付簿ニ記入シ直ニ各宛名ニ配付スヘシ但シ親展ニ非サル電報ハ主務課長ニ配付スルモノトス

第五條　郵便料金ノ未納又ハ不足ノ文書ハ其ノ發信者官公署又ハ官吏吏員タル場合ノ外之ヲ收受スルコトヲ得ス

第六條　親展文書及課宛ノ文書ニシテ第二條ノ規定ニ依リ文書課（又ハ警務

課）ニ於テ收受スヘキモノナルトキハ開披後直ニ文書課（又ハ庶務課）ニ回付シ收發簿ニ記入セシムヘシ

第七條　各課ニ機密文書收發簿ヲ設ケ機密ノ處理ヲ要スル文書ノ收發及處理ノ要領ヲ記入スヘシ

第八條　主務課直接掌理文書ハ別ニ定ムル所ニ依リ收發簿ノ記入ヲ省略シ又ハ特殊ノ收發簿ヲ使用スルコトヲ得

第九條　現金、有價證券又ハ物品ヲ添附セル文書ニハ其ノ種類數量ヲ欄外ニ記入シ扱者之ニ捺印ノ上添附物ト共ニ主務課長ニ配付シ收發簿ノ該當記入箇所ニ領收ノ證印ヲ受クヘシ

第十條　左ニ掲クル文書ニハ其ノ欄外ニ特ニ收受ノ日時ヲ明記シ取扱者捺印ノ上其ノ封皮ヲ添附シテ之ヲ配付スヘシ

一　漁業權又ハ鑛業權ノ登錄ニ關スル書類

二　訴願、訴訟及請願ニ關スル書類

三　入札書其ノ他收受ノ日時カ權利ノ得喪ニ關スル書類但シ封皮ニ入札ノ表示アルモノハ開披セス封皮ニ收受ノ日時ヲ記入捺印シ親展文書ト同一ノ取扱ヲ爲スモノトス

第十一條　各課ニ關係アル文書ハ其ノ關係ノ重キニ從テ配付シ主管明カナラサルモノハ部長（官房ニ在リテハ長官）ノ意見ニ依リ部ヲ異ニスルモノハ長官（官房ニ關係スルモノ亦同シ）ノ決定ヲ經テ之ヲ配付スヘシ

第十二條　各課長ハ其ノ主管ニ屬セサル文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ直ニ文書課（又ハ庶務課）ニ返付スヘシ

一旦處理シタル一件文書ヲ他ノ課ノ所管ニ移付セムトスルトキハ其ノ課及文書課（又ハ庶務課）ニ合議シ決裁ヲ經テ文書課（又ハ庶務課）ニ回付スヘシ

各課間直接授受スヘカラス

第十三條　主務課長ハ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ自ラ調査立案シ又ハ處分ノ方針ヲ指示シ課員ヲシテ調査立案セシムヘシ但シ重要ト認ムル事項ニ付テハ豫メ上司ノ閲覽ニ供シ其ノ指揮ヲ承クヘシ

第十四條　文書ハ接受後直ニ之ヲ處理スヘシ特ニ調査ヲ要スル爲收受ノ日ヨリ七日（休暇日ヲ除ク）以內ニ處理シ難キモノハ其ノ理由ヲ具シ調査期限ヲ定メテ上司ノ承認ヲ承クヘシ

第十五條　立案ノ主任者ハ判任官以上トス主任者ニ代リテ立案シタル判任待遇以下ノ者ハ扱者トシテ捺印スヘシ

第十六條　立案ハ回議用紙ヲ用ウヘシ但シ定例アルモノ及輕易ナルモノハ帳簿ニ依リ又ハ其ノ文書ノ欄外若ハ餘白ニ朱記シテ決裁ヲ承クルコトヲ得

第十七條　文書ノ違式、誤謬、脫漏等ノ補正其ノ他輕易ナル事項ハ附箋ヲ以テ所屬官署ニ照會處理スルコトヲ得

第十八條　所屬官署ニ對スル照會ハ輕易ナルモノニ限リ往復用紙ヲ用ウルコトヲ得

所屬官署ニ對シ文書ノ提出ヲ督促スルニハ督促用紙ヲ用ヰ督促三回ニ及フモ仍提出セサルトキハ特ニ部長（官房ニ在リテハ課長）ノ決裁ヲ經テ其ノ事由ヲ推問スヘシ

第十九條　立案ハ例式ニ依リ意義簡明字體明確ナルコトヲ要ス特ニ必要ト認ムル場合ニ於テハ簡明ニ其ノ提案ノ理由ヲ記述スヘシ

立案ニ關シ參照スヘキ事項ハ其ノ要領ヲ摘記シ廳令、訓令等ノ改正ニシテ重要ト認ムルモノハ新舊條項ノ對照ヲ示スヘシ

第二十條　成案中加除訂正ヲ爲シタルトキハ其ノ加除訂正ヲ爲シタル者之ニ認印スヘシ

成案ノ加除訂正カ其ノ案ノ內容ヲ變更スルモノナルトキハ立案ノ主任者又ハ主務課長ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス合議スヘキ部課ニ變更ヲ加フルトキ亦同シ

第二十一條　成案ハ總テ其ノ事務ニ關係アル各部課長ニ合議スヘシ

他ノ部課長ニ合議ヲ要スル成案ハ主務部課長查閱後之ヲ回付スヘシ

第二十二條　左ニ掲クル成案ハ調査課長ニ合議スヘシ

一　廳令、訓令（支拂豫算及豫算ノ令達並部長以下ノ代決ニ屬スル訓令ヲ除ク）、告諭、告示其ノ他例規トナルヘキモノノ制定改廢ニ關スル事項

二　法規成例ノ解釋ニ關スル事項

三　閣省稟議ニ關スル重要ナル事項

第二十三條　合議ヲ受ケタル成案ハ直ニ之ヲ審理スヘシ其ノ回付ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ審理シ難キモノハ主務課長ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條　合議ヲ受ケタル成案ニ對シ意見ヲ異ニスルトキハ面議商量シ仍決セサルトキハ意見ヲ具シ上司ノ決裁ヲ承クヘシ附箋ヲ以テ相應答シ處分ヲ遲延セシムルコトヲ得ス

第二十五條　他ノ部課長ニ合議シタル成案ヲ改廢シタルトキハ其ノ改案ニ係ルモノハ更ニ合議シ其ノ廢案ニ係ルモノハ欄外ニ廢案ト記入シ捺印ノ上關係部課長ノ消印ヲ求ムヘシ

成案決裁ノ趣旨最初ノ立案ト異ナルトキハ關係部課長ニ其ノ成案ヲ回示スヘシ

第二十六條　回議案ニ標示スヘキ記號及其ノ處理要領ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第二十七條　長官、部長又ハ課長事故アル爲代理者ニ於テ決裁スル場合ニハ重要ト認ムルモノハ決裁ヲ保留シ又ハ上司ノ決裁ヲ承クヘシ

第二十八條　發議後相當日數ヲ經テ仍決裁ニ至ラサル成案アルトキハ主務者ハ該成案ノ所在ヲ調査シ稽留ノ事由ヲ確ムヘシ

第二十九條　廳中各部課間ノ照復ハ口頭ヲ以テ處辨シ書面ノ往復ヲ避クヘシ但シ金錢物品ノ授受其ノ他後日ノ徵證ト爲スヘキ必要アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　第二條ノ規定ニ依リ文書課（又ハ庶務課）ニ於テ取扱フヘキ書類ハ決裁又ハ閱了後之ヲ文書課（又ハ庶務課）ニ回付シ文書課（又ハ庶務課）ニ於テハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スヘシ

一　決裁又ハ閱覽濟ノ旨ヲ確認シタル上其ノ年月日ヲ記入シ當務者之ニ認印スヘシ

二　發送ヲ要スルモノハ直ニ淨書校合ノ上文書課長（又ハ庶務課長）ノ查閱ヲ經テ發送ノ手續ヲ爲スヘシ

三　發送ヲ要セサルモノハ簿冊ニ記入シ之ヲ主務課ニ返付スヘシ

四　廳令、訓令、告諭、告示其ノ他樺太廳公報ニ登載ヲ要スルモノハ文書課ニ於テ直ニ淨書校合ノ上文書課長ノ查閱ヲ經テ登載ノ手續ヲ爲スヘシ

五　施行濟ノ原議ニハ番號及施行ノ年月日ヲ記入シ之ヲ主務課ニ返付スヘシ但シ廳令、訓令、告諭、告示ノ原議ハ主務課ニ返付セス其ノ儘文書課ニ保留シ文書課ニ於テ引繼ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條　文書ノ發送ハ即日之ヲ施行スヘシ若文書輻輳シ即日發送シ難キトキハ其ノ緩急ヲ稽査シ二日以内（翌々日迄）ニ順次之ヲ施行スヘシ

第三十二條　發送ヲ要スル文書中各種ノ調書、計算書、説明書、審理書、下檢査書、認可狀、褒狀、免許狀、書式、雛形、圖面、計表、訴狀、登記囑託書、報告書、答辯書、申告書、推問書、公（廣）告書、各官衙ノ照會書、表式、人相書、其ノ他別紙別冊ノ類ニシテ本文ニ添附スル性質ノ書類（五行以上ノ表ヲ文書中ニ混書スルノ類亦同シ）、内容證明ニ付スヘキ書類、書簡ノ形式ニ依ルモノ及左記ニシテ二十行以上ニ亙ルモノ（指令ヲ除ク）ハ總テ主務課ニ於テ之ヲ調製シ原議ト共ニ文書課（又ハ警務課）ニ回付スヘシ

第三十三條　課名又ハ課長名ヲ以テ發スル文書ハ主務課ニ於テ淨書校合ノ上課長ノ檢印ヲ受ケ原議ト共ニ文書課（又ハ警務課）ニ回付スヘシ

第三十四條　第二條第二項ニ規定スル文書ニシテ文書課（又ハ警務課）ニ於テ郵便電信ニ付スヘキモノハ送付簿ニ月日、宛名、差出名、通數、種別等ヲ記入シ主務課長ノ認印ヲ受ケ是ト共ニ文書課（又ハ警務課）ニ回付スヘシ

第三十五條　退廳後發送ヲ要スル至急ノ文書ハ主務課ニ於テ淨書校合ノ上課長ノ檢印ヲ受ケ原議ト共ニ宿直員ニ交付シ之カ發送ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ原議ハ宿直員ニ於テ翌日文書課（又ハ警務課）ニ回付シ簿冊ニ之カ記入ヲ求ムヘシ

第三十六條　收發文書ニ附スヘキ番號ニハ左ノ各號ニ依リ記號ヲ冠スヘシ

一　冠スヘキ記號ハ主務課名ノ頭字トス但シ祕書課ノ主掌ニ屬スルモノニハ「官」、水産物檢査所ノ主掌ニ屬スルモノニハ「檢」、林業課ノ主掌ニ屬スルモノニハ「業」、警察官練習所ノ主掌ニ屬スルモノニハ「練」トス

二　機密ニ屬スル文書ニハ前號ニ依ルノ外尚「祕」ノ一字ヲ加フ

三　主務課直接掌理文書ニハ第一號ニ依ルノ外尚係名ノ頭字其ノ他識別シ得ヘキ記號ヲ加フ

第三十七條　文書ノ番號ハ毎年一月ニ起リ十二月ニ止ム

文書ノ番號ハ其ノ事件完結ニ至ル迄之ヲ襲用スヘシ但シ其ノ事件翌年ニ亙ルトキハ新ニ番號ヲ起シ簿冊ニ從前ノ番號ヲ記入スヘシ

廳令、訓令、告諭、告示、内訓、達ハ令達番號簿ニ依リ各別ニ番號ヲ起シ普通事務ニ牽連スルモノハ關係簿冊ニ交互其ノ番號ヲ記入スヘシ

第三十八條　本廳所在地内ニ送達スル文書及物品ハ送付簿ニ記入シ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ

小包郵便、第四種郵便又ハ通運便ニ付スルモノハ主務課ニ於テ封緘又ハ包裝シ、送付簿ニ依リ、通運便ニ付スルモノハ會計課ニ其ノ他ハ文書課（又ハ警務課）ニ回付スヘシ

第三十九條　處分完結シタル文書ノ引繼及編纂保存ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第四十條　各課ハ其ノ主管事務ニ關係アル例規ヲ謄寫編纂シ改廢ノ都度之ヲ加除スヘシ

第四十一條　文書課（又ハ警務課）ニ於テ毎月一回文書收發簿ニ依リ未處理

文書件名表、未完結文書件名表及引繼未濟文書件名表ヲ調製シ主務課長ニ回付シ未濟事由ノ記入ヲ受ケ其ノ官房ニ關スルモノハ長官、各部ニ關ルモノハ部長ノ査閲ニ供スヘシ

未處理文書件名表ハ最初收受ノ月ヨリ三月目（收受ノ月ノ翌々月）ニ、未完結文書件名表ハ最初收受ノ月（又ハ最初發送ノ月）ヨリ六月目ニ、引繼未濟文書件名表ハ處分完結ノ月ヨリ六月目ニ各第一回ノ調製ヲ爲シ爾後完了スル迄毎月引續調製スルモノトス

第四十二條　各部長及各課長ハ隨時所屬ノ各部課ニ就キ事務處理ノ狀況ヲ檢閲シ適當ナル措置ヲ爲スヘシ

第四十三條　第二條ノ規定ニ依リ主務課ニ於テ取扱ヒタル文書ノ通數ハ毎月分ヲ取纏メ翌月五日迄（一月ハ十日迄）ニ文書課（又ハ警務課）ニ通報スヘシ

警務課ニ於テハ毎月警察部ノ主管ニ屬スル文書ノ收發月表ヲ調製シ翌月十日迄（一月ハ十五日迄）ニ文書課ニ送付スヘシ

文書課ニ於テハ毎月文書收發月表ヲ調製シ翌月十五日迄（一月ハ二十日迄）ニ長官及部長ノ査閲ニ供スヘシ

第四十四條　本令ニ依ル用紙、帳簿及計表類ノ樣式左ノ如シ

一	文書收發簿（各課別）	第一號樣式
二	機密文書收發簿	第二號樣式
三	親展文書收受簿	第三號樣式
四	電報配付簿	第四號樣式
五	送付簿	第五號樣式
六	回議用紙	第六號樣式
七	附箋用紙	第七號樣式
八	往復用紙	第八號樣式
九	督促用紙	第九號樣式
十	令達番號簿（文書課ニ保管）	第十號樣式
十一	郵便發送簿（文書課及警務課ニ保管）	第十一號樣式
十二	未處理文書件名表	第十二號樣式
十三	未完結文書件名表	第十三號樣式
十四	引繼未濟文書件名表	第十四號樣式
十五	文書收發月表	第十五號樣式

第四十五條　本令中課又ハ課長ニ關スル規定ハ所又ハ所長ニ之ヲ準用ス

本令中決議書類ニ關スル規定ハ供閲書類ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和八年訓令第五十八號）

本令ハ昭和九年六月調製ノ分ヨリ之ヲ適用ス

第一號樣式　文書收發簿

月　日		
第　　號		
發信人	本書日付	本書番號
	月　日	第　號
受信人		
附記		
受領印		
摘要		
年第　號參照	年　月　日引繼	引繼文書目錄第　號

月　日	月　日
月　日	月　日
月　日	月　日
月　日	月　日

月　日		
第　　號		
發信人	本書日付	本書番號
	月　日	第　號
受信人		
附記		
受領印		
摘要		
年第　號參照	年　月　日引繼	引繼文書目錄第　號

月　日	月　日
月　日	月　日
月　日	月　日
月　日	月　日

〔標法〕

第二號樣式　機密文書收發簿

〔標法〕

親展文書收受番號第　號	月　日	
第　　號		
發信人	本書日付	本書番號
	月　日	第　號
受信人		
附記		
受領印		
摘要		
年第　號參照	年　月　日引繼	引繼文書目錄第　號

月　日	月　日
月　日	月　日
月　日	月　日
月　日	月　日

親展文書收受番號第　號	月　日	
第　　號		
發信人	本書日付	本書番號
	月　日	第　號
受信人		
附記		
受領印		
摘要		
年第　號參照	年　月　日引繼	引繼文書目錄第　號

月　日	月　日
月　日	月　日
月　日	月　日
月　日	月　日

第三號様式

親展文書收受簿

收受月日	收受番號	發信人	受信人	摘要	受領印	取扱者印
月　日						
月　日						
月　日						
月　日						
月　日						

（備考）摘要欄ニハ郵便物ノ種別、書留番號、親展ノ種類等ヲ記入スルコト

第四號様式

電報配付簿

配付日時 月　日 前後　時　分	受信人	電報番號	摘要	受領者印	取扱者印

（備考）摘要欄ニハ親展、返信料前納、氣象、警報等記入ノコト

第五號様式ノ一（第四條第三號、第三十八條第一項ニ依ルモノ）

逓付簿

月　日	發信人	受信人	通數	摘要	受領印	取扱者印
月　日						
月　日						
月　日						
月　日						
月　日						

第五號様式ノ二（第三十四條、第三十八條第二項ニ依ルモノ）

逓付簿

主務課長印	逓付月日	差出名	宛名	種別	員數	取扱者印	受領印

第六號様式

第　號	昭和　年　月　日決裁	浄書	整理
接受　昭和　年　月　日 發議　昭和　年　月　日	昭和　年　月　日施行	校正（原稿）（浄書）	
主任　課			
課長			

第七號様式

課長　主任

附箋

番號	施行年月日	件名	摘要
第　號	年　月　日		
發信人			
受信人			
本書日付 年　月　日	同番號 第　號		

樺太廳附箋用紙

第　號

昭和　年　月　日　差出名

宛名

第八號様式

●注意　附箋ハ取リ去ルベカラズ

樺太廳往復用紙

	照會			
課長　主任	廳廨名	年月日	番號	
		昭和　年　月　日	第　號	
	回答			
廳廨長　主任	廳廨名	年月日	番號	
		昭和　年　月　日	第　號	

注意　本書ヲ受領シタルトキハ直ニ下欄ニ回答文ヲ記シ廳廨長ノ決裁ヲ經發送スヘシ

第九號様式

樺太廳督促用紙

廳府名	件名	督促回數	第一回	第二回	第三回	
		督促月日	月　日	月　日	月　日	
		課長				
		主任				
		照會				

廳府名	提出期限	摘要	回答				
	昭和　年　月　日		回答月日	月　日	月　日	月　日	
			廳府長				
			主任				

注意　本書ヲ受領シタルトキハ直ニ下欄ニ回答文ヲ記シ廳府長ノ決裁ヲ經發送スヘシ

第十號様式

令達番號簿

令達番號	發令月日	件名	摘要	收發番號
	月　日			
	月　日			
	月　日			
	月　日			
	月　日			

第十一號様式

郵便發送簿

月日	發信人	受信人	種類	郵便切手												金額
				一圓	五十錢	二十錢	十三錢	十錢	五錢	四錢	三錢	二錢	一錢五厘	一錢	ハガキ	
																圓

第十二號様式

○　○

未處理文書件名表用紙

收受年月日	文書番號	件名	月　日	月　日	月　日	月　日
年　月　日	第　號		未處理事由			
			擔當主任			

第十三號様式

○　○

未完結文書件名表

文書番號	件名	月　日	月　日	月　日
第　號		未完結事由		
		擔當主任		

第十四號様式

○　○

用紙

月　日	月　日	月　日

第十五號様式

引繼未濟文書件名表用紙

文書番號	件名	月　日	月　日	月　日	月　日
第　號		引繼未濟事由			
		擔當主任			

昭和　年　月分文書收發月表　月　日調査

主管別／收發別	長官官房		
	祕書課	文書課	調査課
收受件數			
發送件數			
計			

供閲

主任　文書課

文書課長

内務部長
農林部長
警察部長
長官

	計	内務部 地方課	學務課	財務課	會計課	土木課	遞信課	度量衡所	計	農林部 殖民課	林務課	林業課	鑛務課

折目ノ處

主管別＼收發別	水産課	水産物検査所	計	警察部 警務課	保安課	刑事課	高等警察課	特別高等警察課	警察官練習所	計	總計	一日平均	累計（自一月至　月）	前年同期
收受件數														
發送件數														
計														

比較増減

●樺太廳處務規程第二十六條ニ依ル記號及其ノ處理要領

昭和七年八月二十七日
訓令第百九十一號

廳中一般

樺太廳處務規程（昭和七年八月樺太廳訓令第百八十九號）第二十六條ニ依リ回議案ニ標示スヘキ記號及其ノ處理要領左ノ通定ム

　回議案ニ標示スヘキ記號及其ノ處理要領

記號	標示箇所	處理要領
秘	欄外上部	機密文書ニ限リ標示シ持廻リ又ハ袋入トシテ回議スヘシ
直接掌理	欄外上部	主務課ニ於テ直接掌理スヘキ文書ニ標示スヘシ
代決事項	調印ノ上部	代決規程ニ依リ代決スヘキモノニ標示スヘシ
例規	欄外上部	廳令、訓令、告諭、告示以外ノモノニシテ例規トナルヘキモノニ標示シ發送文書ニモ之ヲ標示スヘシ
議會資料	欄外上部	議會ノ説明材料ト爲リ得ヘキ文書ニ標示シ其ノ寫ヲ長官及調査課長ニ回付スヘシ
急	欄外上部	急ヲ要スル成案ニ標示シ上部ニ赤色ノ紙片ヲ貼附シ可成持廻リ決裁ヲ承クヘシ
要再回	調印ノ下部	施行後主務課ニ於テ當該課ニ回付シ當該課ニ於テ使用濟ノ上ハ本記號ノ下部ニ「了」ト記入シ捺印ノ上主務課ニ返付スヘシ
文（例示）八、一六（文書課長八月十六日査閲ノ略）	部課長調印ノ下部	部課長ノ査閲月日ヲ表示スルモノニシテ課長ノ分ハ其ノ課ノ文書主任又ハ課長ニ於テ之ヲ押捺シ内務、農林各部長ノ分ハ文書課ニ於テ警察部長ノ分ハ警務課ニ於テ之ヲ押捺スヘシ
後閲	調印ノ上部	事故ノ爲代決シタル文書ニシテ事後閲覽ニ供スル必要アルモノニ標示シ主務課ニ於テ事後閲ノ手續ヲ爲スヘシ
口頭説明	調印ノ上部	口頭ニテ説明スルヲ要スル文書ニ標示スヘシ
長官提出	長官調印ノ下部	長官代理ニ於テ該標示ノ下ニ認印シ主務課ニ於テ長官ニ送付シ決裁ヲ承クヘシ
施行前主任戻	欄外右側	決裁後施行前主務課ニ返付スヘシ使用濟ノ上ハ本記號ノ下部ニ「了」ト記入シ捺印ノ上文書課（又ハ警務課）ニ回付スルモノトス
直送	宛名ノ下部	閣、省等中央官廳宛ノ文書ニシテ拓務省經由ヲ要セサルモノニ標示スヘシ
……經由	宛名ノ下部	經由スヘキ官公署ヲ標示シ發送文書ニモ標示スヘシ
至急、親展、書留、内容證明、配達證明等發送ノ際標示スヘキ記號	宛名ノ下部	發送文書及封皮ニ適宜記入スヘシ
添附物アリ	欄外上部	添附物ハ一括シテ書類ノ末尾ニ結附シ「以下第何案ニ添附」ト明記シタル附箋ヲ貼附スヘシ
公報登載	欄外上部	文書課ニ於テ公報登載ノ手續ヲ爲スヘシ
法規輯覽登載	欄外上部	調査課ニ於テ樺太廳法規輯覽ニ登載ノ手續ヲ爲スヘシ
完結	欄外上部	該案ノ閲了又ハ施行ニ依リ處分完了スル文書ニ標示シ文書課（又ハ警務課）ニ於テハ收發簿ニ之ヲ記入スヘシ
未完結	欄外上部	前記完結ニ該當セサルモノニ標示スヘシ

備考

一　本令ニ定ムルモノノ外『臺帳登載』、『圖面記入』等各課ノ事務上必要アルモノハ適宜ノ箇所ニ之ヲ標示スヘシ

二　標示スヘキ記號ハ凡テ一見明瞭ナル色彩ヲ用ウヘシ

三　記載例別記ノ通

附　則

本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（記載例ノ一）

秘

例規

議會資料

公報登載

法規輯覽登載

急

完結

第　號　昭和　年　月　日決裁㊞　浄書㊞　整理㊞　施行前主任戻　了㊞

接受昭和　年　月　日

發議昭和　年　月　日　昭和　年　月　日施行㊞　正校（原稿）㊞　（浄書）㊞

主任　地方課㊞　扱㊞

地方課長㊞地八、一二　係㊞

口頭説明　内務部長㊞／内八、一三

殖民課長㊞殖八、一四　要再回

後閲㊞　農林部長代㊞　農八、一五

調査課長㊞調八、一六

祕書課長㊞祕八、一六

長官㊞　長官提出　㊞

何々ノ件

何々（提案ノ事由ヲ記載）

第一案　何々經由

住所

氏　名

年　月　日願何々ノ件許可ス

年　月　日

長官

第二案

年　月　日　差出名

宛名　直送　内容證明　配達證明

何々ノ件

何々……………………

右通牒ス

了

（記載例ノ二）

直接掌理

添附物アリ

未完結

第　號　昭和　年　月　日決裁㊞　浄書㊞　整理㊞

接受昭和　年　月　日

發議昭和　年　月　日　昭和　年　月　日施行㊞　正校（原稿）㊞　（浄書）㊞

主任　殖民課㊞　扱㊞

代決事項　殖民課長㊞　殖八、一二　係㊞

案

年　月　日　差出名

宛名　何々經由　至急　親展　書留

何々ノ件

何々……………………

右照會ス

了

●文書番號其ノ他ニ關スル件

昭和七年九月二十八日
文第六九七號文書課長通牒

立案又ハ供閲等書類ノ處理ニ當リテハ關係書類ヲ添附スヘキハ勿論ノ義ニ候得共尙同一事件ニシテ數箇ノ番號ヲ附シタル書類ヲ一括處理スル場合ハ一箇ノ番號ニ統一スル必要有之候條統一スヘキ主番號ヲ回議用紙ノ當該欄ニ記入シ合併セラルヘキ他ノ番號ハ之ヲ其ノ右側ニ表示シテ回議（供閲書類ニ付テハ之ニ準シテ適當ニ表示スルコト）相成度

右依命通牒ス

●各主務課ヲシテ直接掌理セシムヘキ文書指定ノ件

大正六年十一月十日
訓令第百四號

改正　大八年九月訓令一一八號、一一年八月一二一號、一三年一二月一四九號、昭二年六月三一六號、四年一二月五九九號、六年一月一號、五月九〇號、七年十月二三二號、一二月三二八號

廳中一般

昭和七年八月樺太廳訓令第百八十九號樺太廳處務規程第二條ニ依リ各主務課ヲシテ直接掌理セシムヘキ文書左ノ通指定ス其ノ取扱手續ニ付テハ同令中文書ノ收受發送ニ關スル規定ヲ準用ス但シ特殊文書ニ付テハ簿冊ノ登錄ヲ省略シ又ハ特殊簿冊ヲ設定シ之ヲ登錄スルコトヲ得

第三十七號以下ノ文書ニ付テハ郵便電信ニ付スルノ手續ニ限リ長官官房文書課ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

〔地方課〕

一　氣象局報
二　各地氣象報告
三　命令航路船發送電報
四　（削除）
五　補助金請求書類

〔遞信課〕

六　通信夫命免及處分報告書
七　吏員擔當事務報告書
八　統計資料報告書
九　通信統計報告書
十　通信事務概要表
十一　受負集配線路狀況報告書
十二　不能還付郵便物送付書
十三　脫出品送付書
十四　郵便物誤送報告書
十五　郵便函場異動報告書
十六　郵便切手類賣捌人異動報告書
十七　第三種郵便物及約束郵便物見本
十八　郵便區內巡視報告書
十九　新開地調書
二十　地況調書

二十一　停車場間荷量報告書
二十二　電報傳送延滯事故報告書
二十三　電報經過時分報告書
二十四　市外電話局內經過時分報告書
二十五　市外通話度數報告書
二十六　電報書類原書ノ類
二十七　電話書類通話券ノ類
二十八　工手又ハ工夫ヨリ提出スル諸報告書
二十九　計劃資料報告書
三十　第一類證據書類
三十一　事故ニ依ル經由文書
三十二　經費請求書
三十三　毀損物品報告書
三十四　物品請求書及物品領收證
三十五　局報
三十六　管內通信官署ト往復スル輕易ナル文書

〔土木課〕

三十七　請負者ヨリ提出スル工事工程書著手屆、竣功屆、部分檢定願書
三十八　工事監督又ハ測量ノ爲出張中ノ吏員ヨリ提出スル諸報告書、屆書、請求書
三十九　同上ノ吏員ニ對スル出張日數又ハ用務變更ノ通知書
四十　同上ノ吏員ニ對スル圖面、設計書類、測量野帳類諸用紙類送付ニ關スル文書

〔財務課〕

四十一　歲入金受拂額報告表
四十二　（削除）
四十三　歲入金領收濟通知書
四十四　納稅告知書、納入告知書、督促狀
四十五　現金拂込書
四十六　保管金及政府保管有價證券ノ出納ニ關スル書類
四十七　（削除）

〔會計課〕

四十八　（削除）
四十九　恩給法納金受入領收濟通知書
五十　支出請求書類及其ノ不備、過誤拂等ニ關シ繰替拂官ト往復スル文書
五十一　歲出金繰替拂領收證
五十二　日本銀行豐原代理店宛小切手振出通知書及其ノ領收證
五十三　支出官ト豐原郵便局主任出納官吏ト往復スル文書
五十四　振替、繰替事務上輕易ナル事項ニ關シ各郵便局出納官吏ト往復スル文書
五十五　歲出金支拂通知書竝歲出金繰替拂通知書
五十六　各郵便局ニ送付スル歲出金繰替拂ノ證票
五十七　電信送金ニ關スル案內電報
五十八　恩給法納金繰替拂報告書
五十九　工事請負、勞力供給、物品購入、修繕、運搬等ニ關スル見積書、

契約書、延期願書、請負金及代金請求書類
六十　廳舍及官舍等ノ電話取付、移轉及撤去等ニ關スル書類
六十一　電話使用料金ニ關スル書類
六十二　電信誤拂料金ニ關スル書類
六十三　官舍貸付、返納並官舍備付物品出納ニ關スル書類

〔度量衡所〕

六十四　度量衡器檢定請求書
六十五乃至六十八（削除）

〔調査課〕

六十九　資源調査ニ關スル報告書類、調査票及圖面
七十　文書收發件數並通數表
七十一　出入船舶表
七十二　乘降船客表
七十三　貨物移出入表
七十四　人口靜態ニ關スル諸表
七十五　人口動態ニ關スル諸表
七十六　物價表
七十七　勞銀表
七十八　職工及人夫表
七十九　各種工產物表
八十　各種飲食物表
八十一　市場表
八十二　租稅滯納處分表
八十三　石炭消費高表
八十四　會社票
八十五　人口動態調査票
八十六　米ノ移出入調
八十七　外米輸入調
八十八　外國貿易狀況調

〔學務課〕

八十九　中等學校月末生徒數異動報告
九十　兒童身體檢査統計報告表
九十一　小學校兒童貯金一覽表
九十二　小學校兒童出席月末調査表
九十三　學級編制報告
九十四　青年訓練所生徒月末調査表
九十五　補習學校生徒出席月末調査表
九十六　青年訓練所主事指導員囑託報告
九十七　青年團狀況報告

〔水產物檢査所〕

九十八　水產物檢査員勤務日誌
九十九　水產物檢査所報告例ニ依ル報告
九十九ノ二　水產物檢査員ト往復スル輕易ナル文書

〔殖民課〕

百　工事請負者ヨリ提出スル著手屆、竣功屆、部分檢定願
百一　工事監督又ハ測量ノ爲出張中ノ職員ヨリ提出スル諸報告、屆書、請求書

〔樺法〕

百二　國有土地處分表
百三　收容移住農民府縣別表
百四　家畜移入購入補助表
百五　耕地面積表
百六　殖民地區劃地積表
百七　貸付地目別表
百八　貸付地異動表
百九　民有地表
百十　農作物作付面積收穫高價額表
百十一　共同放牧地表
百十二　民有牧場表
百十三　牛乳表
百十四　斃死屠殺表
百十五　種畜飼養費補助表
百十六　家畜ニ關スル諸表
百十七　家禽ニ關スル諸表
百十八　養狐表
百十九　農家戶口表
百二十　獸皮表
百二十一　農作物被害表
百二十二　移民收容餘地調表
百二十三　耕地移動表

〔樺法〕

百二十四　農事實行組合表
百二十五　肥料生產及消費表
百二十六　乳肉製品表
百二十七　獸鳥肉罐詰表
百二十八　農家移動表
百二十九　病蟲害發生表

〔林務課〕

百三十　回船報告
百三十一　樺太材積取回船日報
百三十二　木材積出調査日報
百三十三　島外移出丸太積出報告
百三十三ノ二　林產物島外移輸出月報
百三十三ノ三　木材移輸出許可處分報告
百三十三ノ四　林產物搬出延期許可報告
百三十三ノ五　賣拂代金未納者報告
百三十三ノ六　違約金並損害辨償金未納者報告
百三十四　森林原野被害報告
百三十五　被害總括表
百三十六　國有林野山火調
百三十七　跡地檢査成績報告
百三十八　伐採跡地檢査成績月報
百三十九　產物處分臺帳
百四十　用途變更處分票

百四十一　損害辨償處分臺帳
百四十二　違約處分臺帳
百四十三　產物處分票月報
百四十四　產物處分種類別月報
百四十五　賣拂主產物用途別調月報
百四十六　事業區別主產物處分月報
百四十七　損害辨償及違約處分月報

●主務課直接掌理文書中ノ特殊文書ニ關スル件

昭和六年六月三十日
文第二六號文書課長通牒

（調査課長　地方課長　學務課長　會計課長　土木課長　遞信課長　水產物檢査所長　度量衡所長　殖民課長　林務課長宛）

（改正　昭七年九月文六九三號、十月七二七號）

曩ニ御協議有之候主務課直接掌理文書中特殊取扱ヲ要スルモノ左記ノ通（御意見通）決定相成候條御了知相成度

右依命通牒ス

記

特殊ノ簿冊ニ登錄スヘキ文書左ノ如シ

	文書ノ種類	規定條項	簿冊樣式
一	統計資料報告書	大正六年訓令第百四號　第八號	第一號樣式
二	郵便函場異動報告書	同　第十五號	第一號樣式
三	電報書類原書ノ類	同　第二十六號	第一號樣式
四	電話書類通話券ノ類	同　第二十七號	第一號樣式
五	第一類證據書類	同　第三十號	第一號樣式
六	事故ニ依ル經由文書	同　第三十一號	第一號樣式
七	（削除）		
八	支出請求書類及其ノ不備、過誤拂等ニ關シ繰替拂官ト往復スル文書	同　第五十號	第二號樣式 第三號樣式
九	歳出金支拂通知書並歳出金繰替拂通知書	同　第五十五號	第四號樣式 第五號樣式
十	各郵便局ニ送付スル歳出金繰替拂ノ證票	同　第五十六號	第五號樣式
十一	電信送金ニ關スル案內電報	同　第五十七號	第六號樣式 第七號樣式
十二	度量衡器檢定請求書	同　第六十四號	第八號樣式

簿冊ノ登錄ヲ省略スヘキ文書左ノ如シ

	文書ノ種類	規定條項
一	氣象局報	大正六年訓令第百四號　第一號
二	各地氣象報告	同　第二號
三	命令航路船舶發送電報	同　第三號
四	補助金請求書類	同　第五號
五	請負者ヨリ提出スル工事工程書、著手屆、竣功屆、部分檢定願書	同　第三十七號
六	工事監督又ハ測量ノ爲出張中ノ吏員ヨリ提出スル諸報告書、屆書、請求書	同　第三十八號
七	歳出金繰替拂領收證	同　第五十一號
八	工事請負、勞力供給、物品購入、修繕、運搬等ニ關スル見積書、契約書、延期願書、請負金及代金請求書類	同　第五十九號
九	官舍貸付、返納並官舍備付物品出納ニ關スル書類	同　第六十三號
十	中等學校月末生徒數異動報告	同　第八十九號
十一	兒童身體檢査統計報告表	同　第九十號
十二	小學校兒童貯金一覽表	同　第九十一號
十三	小學校兒童出席月末調査表	同　第九十二號
十四	學級編制報告	同　第九十三號
十五	青年訓練所生徒月末調査表	同　第九十四號
十六	補習學校生徒出席月末調査表	同　第九十五號
十七	青年訓練所主事指導員囑託報告	同　第九十六號
十八	青年團狀況報告	同　第九十七號
十九	水產物檢査員勤務日誌	同　第九十八號
二十	水產物檢査所報告例ニ依ル報告	同　第九十九號
二十ノ二	水產物檢査員ト往復スル輕易ナル文書	同　第九十九ノ二號
二十一	工事監督又ハ測量ノ爲出張中ノ職員ヨリ提出スル請求書	同　第百一號
二十二	回船報告	同　第百三十號
二十三	樺太材積取回船日報	同　第百三十一號
二十四	木材積出調査日報	同　第百三十二號

第一號樣式（特殊文書件名簿）

月日	件名	件數					小計	合計
		一回	二回	三回	四回	五回		

備　考

一、本簿ニハ第一項中第一號乃至第七號ニ規定セル文書ヲ登錄ス

第二號樣式（支出請求書類收受簿「直轄」）

收受月日	要件	發信人	摘要

備　考

一、本簿ニハ第一項第八號ニ規定セル文書中直轄扱ノモノヲ登錄ス

第三號樣式（支出請求書類收受簿「繰替」）

收受月日	本書記號番號	要件	發信人	摘要

備　考

一、本簿ニハ第一項第八號ニ規定セル文書中繰替拂ニ關スルモノ及繰替拂官ト往復スル文書ヲ登錄ス

第四號樣式（小切手金券送付簿）

年月日	受信人（債主）	枚數	領收印	取扱者印

備　考

一、本簿ニハ第一項第九號ニ規定セル文書中歲出金支拂通知書ヲ登錄ス

第五號樣式（繰替拂金券送付簿）

年月日	受信人（債主又ハ郵便局）	枚數	領收印	取扱者印

備　考

一、本簿ニハ第一項第九號ニ規定セル文書中歲出金繰替拂通知書及第一項第十號ニ規定セル文書ヲ登錄ス

第六號樣式（小切手電信送金通知簿）

備　考

一、本簿ハ普通縱線罫紙ニ一件每ニ居所、宛名、電文、發信名等ヲ順次記入スルモノトス

二、本簿ニハ第一項第十一號ニ規定セル文書中小切手拂電信送金ニ關スルモノヲ登錄ス

第七號樣式（繰替拂電信送金通知簿）

發行年月日	拂受局	繰替記番號	金額	債主

備　考

一、本簿ニハ第一項第十一號ニ規定セル文書中繰替拂電信送金ニ關スルモノヲ登錄ス

第八號樣式（度量衡器檢定收受簿）

收受月日番號	製作修復輸入移入其他	請求者名	物質形狀種類	全長全量秤量	目盛感量	段數番號	箇數手數料	成績	不合格事由	檢定月日檢定主任印	收受主任印	請求者領收月日及印
月日								合格				
第　號								不合				
月日								合格				
第　號								不合				

備　考

一、本簿ニハ第一項第十二號ニ規定セル文書ヲ登錄ス

●文例及用字例ニ關スル件

昭和七年一月二十三日
文第三一號長官官房文書課長通牒

改正　昭七年八月文五六三號、八年八月七〇〇號

廳中課所長　所屬官署長宛

文例及用字例別册ノ通制定相成候ニ付爾今右ニ依リ處理相成度

右依命通牒ス

（別册）

文例及用字例

文例ノ一

用　例

法令制定及全部改正ノ場合

1 題名アルモノニシテ條ヲ置ク場合

何々法（何々令等）

第一條　、、、、、、、、、

第二條　、、、、、、、、、

、、、、、、、、、

備　考

全部改正ノ場合ニハ上諭文ニ「何々法（何々令）改正」ト書ス。廳令、訓令、告示等ノ全部改正ノ場合ニハ首文ニ「何々左ノ通改正ス（新規制定ト見ルヘキ場合ハ、何々左ノ通定ム）」ト書ス

(2)題名アルモノニシテ單行文ノ場合 何々法（何々令） 、、、、、、、、、、、、 、、、、	同前
(3)題名ナキモノニシテ條ヲ置ク場合（可成題名ヲ附ス） 第一條　、、、、、、、、、 第二條　、、、、、、、、、 、、、、 第三條　、、、、、、、、、	同前
(4)題名ナキモノニシテ單行文ノ場合 、、、、、、、、、、、、 、、、、、	同前

法令一部改正ノ場合

(1)題名アルモノ 何々法（何々令等）中左ノ通改正ス	
(2)題名ナキモノ 明治何年法律第何號（勅令第何號）中左ノ通改正ス	
(3)條文アルモ簡單ナルモノニ用ユ 何々法（何々令）中又ハ明治何年法律第何號（勅令第何號）中「、、、、」ヲ「、、、、、」ニ改ム	何々法及何々法令中「、、、、、」ヲ「、、、、、」ニ改ムトスルモ差支ナシ
條文ニ關スルモノ **(1)全條改正ノ場合** 第何條　、、、、、、、、、	左ノ用例ヲ廢ス

〔棒法〕

、、、（全條改正又ハ末尾ニ追加ノトキ）	「第何條ヲ左ノ如ク改ム」 「第何條ノ次ニ左ノ何條ヲ加フ」
○ 第何條ノ二　、、、、、、、、、 、、、、、、 （全條ヲ條ト條トノ間ニ追加スルトキ）	「第何條ヲ第何條ノ二トシ共ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ」
第何條ノ三　、、、、、、、（以下倣之）	「第何條ヲ第何條ニ改メ第何條以下順次繰下ク」等ノ類
(2)條中改正ノ場合 第何條中「、、、、」ヲ「、、、、、」ニ改ム 第何條中「、、、、」ノ（上）（下）（前）（次）ニ「、、、、」ヲ加フ 第何條中「、、、、、」ヲ削ル	
(3)全條削除ノ場合 第何條　削除 第何條ヲ削ル　｝兩用	條名共ニ消滅ス（削ルノ場合）
(4)項改正ノ場合 第何條第何項ヲ左ノ如ク改ム 、、、、、、、、、、 ○ 第何條第何項ノ次ニ左ノ一項（何項）ヲ加フ 、、、、、、、、、、 、、、、、、、、、、	
○項中一部改正ノ場合 第何條第何項中「、、、」ヲ「、、、、」ニ改ム	第何項ヲ言ハスシテ改正スル箇所明カナルトキハ單ニ第何條中ト書ス
第何條第何項中「、、、、」ノ（上）（下）（前）（次）ニ「、、、、」ヲ加	同前

〔棒法〕

フ

第何條第何項中「、、、、」ヲ削ル

○項削除ノ場合

第何條第何項ヲ削ル

(5) 號、但書、表ハ左ノ場合ノ外項改正文例ニ準ス

第何條(第何項)中但書ヲ削ル

第何條(第何項)ニ左ノ但書ヲ加フ

、、、、、、、、、、、、、、

別表ノ如ク定ム

別表ノ如ク改ム

(6) 條中改正ヲ連續シテ言フ場合

第何條中「、、、、」ヲ「、、、、、
、」ニ、「、、、、」ヲ「、、、、、
、」ニ改ム

○

同前

「、、、」ノ次「、、、、、」ヲ
「、、、、」ニ、「、、、、、」ノ次
「、、、、」ヲ「、、、、、、」ニ改
ム

(7) 號ノ書キ方

第何條　、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、、
一　、、、、、、、、、
　、、、
二　、、、、、、、、、、
　、、、

法令廢止ノ場合

(1) 題名アルモノ

附　則

本法(令)ハ大正　年　月　日ヨリ
之ヲ施行ス
何々法（何々令等）ハ之ヲ廢止ス

何々ハ本法(令)施行ノ日ヨリ之ヲ廢止スト云フヲ要セス

(2) 題名ナキモノ

附　則

明治何年法律第何號(勅令第何號)ハ之ヲ廢止ス

(3) 條項廢止

第何條(第何項)ハ之ヲ廢止ス

文例ノ二（上段ノ如ク定ム）

何年以上(月ノ場合亦同ジ)

在リタル者（在ル者ハ在リタル者ノ意味中ニ包含ス）

所長（長一人ノトキハ員數ヲ揭ケス）

何々法(令)ヲ準用ス

何々法(令)第何章ヲ準用ス

第何條ノ規定ヲ準用ス

本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ、、、、、、、ヲ以テ之ヲ定ム

滿何年以上
何箇年以上

在ル者又ハ在リタル者（二者連續ノ場合）

所長　一人

、、、必要ナル規定ハ、、、、、、
、、、、、、、

判任官ノ待遇トス

條項又ハ號ノ下ニ數文字ヲ加フルノ例

條項號ノ末尾ニ「、、、、、、」ヲ加フ

判任官ヲ以テ待遇ス

文例ニ關スル諸則

一、附則ハ多條項ノモノハ本文ノ條ヲ追フテ條ヲ附スルコト

一、一部改正ノ附則ニハ條ヲ設ケス

一、附則一箇條ノトキハ條ヲ揭ケス

一、特別ノ場合ノ外ハ法令中ニ左ノ條項ヲ揭ケス
本法(令)施行ニ關スル細則ハ命令ヲ以テ（主務大臣）之ヲ定ム

一、引用法令ノ年月番號ハ其ノ名稱ノミニテ明白ナル場合ニ於テハ之ヲ記セス

一、法(令)ノ一部ヲ改正追加スル場合ニ於テ舊文多キモノハ原法令ノ用字ヲ襲用ス

一、法律案理由書ハ左ノ形式ヲ用ウ

何々法案理由書(題名アルモノ)

、、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、

何々法律案理由書(題名ナキモノ)

、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、
何々法{廢止 改正 中改正}法律案理由書（題名アルモノ）
、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、
明治何年法律第何號{廢止 改正 中改正}法律案

理由書（題名ナキモノ）
、、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、

一、法律中既ニ改正セラレタル條項ヲ再ヒ改正スルニ際シ本文題名ノ上ニ年番號ヲ冠スル必要アルトキハ最初ノ年番號ヲ用ウルコト

用字例

上段ノ如ク用例ヲ定ム

あ	アル	
	充ツル	
	新ニ	新タニ
	豫メ	豫
	當ル	當タル
	預ラズ	預カラス
	改メザル	改タメサル
	非ザレバ	
	（出席スルニ非ザレバ）	

上段ノ如ク用例ヲ定ム

	在ラズ	
	（此ノ限ニ在ラズ）	
	在リテハ	
	（官吏ニ在リテハ 府縣ニ於テハ）	
い	至リ	
	謂フ	云フ
ゐ	雖	雖モ
	違反	違背、違犯

〔棒法〕

	以上、以下	
	（二圓以上以下ハ共ニ二圓ヲ含ム）	
う	受クル	
	承クル	承ル
	內	內チ
	賣拂フ	
お	置ク	
	終リ	終ハリ
	（名詞ノトキハ終）	
	及	及ヒ
	及ボサズ	及サス
	各	各ミ（々）
	同ク	同シク
	遅クトモ	遅クモ
	於テハ	
	（府縣ニ於テハ 官吏ニ在リテハ）	

	、、、ノ場合ニ於テハ	、、、ニ在テハ
	惟フニ	
	ー、ー、ー及（又ハ）ー	ーーー及（又ハ）
	（大體上ノ用例）	
	ー及ー竝ー及ー	ー竝ー及ー竝ー
か	關ル	
	係ル	
	被リ	
	掲グル	
	買入ルル	
	且	且ツ
	代ル	代ハル
	代フル	
	兼ネシム	兼子シム 兼シム
	拘ラズ	拘ハラス 關ハラス
	限リ（名詞ハ限）	
	限ニ在ラズ	限リニアラス 、、、、ニ非ス
	箇	ケ、个

〔棒法〕

	三箇月	三月
	三箇年	三年
	三年二箇月	三箇年二箇月
き	汽關	汽関
	行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得	行政訴訟ヲ提起ス
	訴訟及訴願ヲ提起シアル場合ニ於テハ	行政訴訟ヲ爲スコトヲ得
け	闕	欠
	檢	撿
こ	毎ニ	
	應ヘ	
	請ヒ	
	構	搆
	此ノ	此
	之ヲ	之レヲ
	超エザル	超ヘサル
	異リタル	異ナリタル

	コト（、、、、スルコト）	スル事（ヿ）
さ	定ムル	
	避クル	
	妨ゲズ	
	先チ	先タチ
	爲サザル	爲サヽル
	差出スベシ	
	先ニスベシ	
し	出願	願出
	屢	屢〻（々）
す	据置ク	
	乃チ	
	少クトモ	少クモ
	凡テ	
	總テ	総テ、都テ
せ	選擇	撰擇

そ	其ノ	其
	具フル	
	備置キ	
た	但シ	但
	直ニ	直チニ
	立會ハシム	
	爲ニ	爲メニ
	爲	爲メ
	、、、スル爲	、、、スルカ爲メ
	、、、補フ爲	、、、補フカ爲メ
つ	ヅツ	宛
	付テハ	付キテハ
	付	
	、、スルニ付	
	就キ	
	、、、本人ニ就キ	
と	閉ツル	

	停ムル	
	俱ニ	
	共ニ	
	トキ、トモ	片、𪜈
	屆出ヅベシ	屆出ヘシ
	屆出デズシテ	屆出スシテ
な	ナリ	
	ナシ	無シ
	爲ス	ナス
	仍	仍ホ
	倘	倘ホ
	竝	竝ニ、並ニ、幷ニ、
ね	願出デザルトキハ	願出サルトキハ
の	述ブル	
	ノノ	ノ、
	延バス	延ス
	、、、、スルノ權利	、、、、スル權利

	、、、、スルノ必要	、、、、スル必要
	、、、、ヲ除クノ外	、、、、ヲ除ク外
は	初	初メ
	始ニ	始メニ
	始リ（名詞ノトキハ始）	始マリ
ひ	均シク	均ク、等シク
	久シク	久キ
	引續キ	引續
ふ	再ビ	再タヒ
	何分ノ一	何分一
	附 寄附 理由ヲ附ス	寄付 理由ヲ付ス
	交付	交附
	讓ニ付ス	讓ニ附ス
へ	ベシ 「ベシ」ヲ主トス	可シ スヘシ スルコトヲ要ス（要件タル場合）
ほ	本法、本令	此ノ法律、此ノ勅令
ま	儘	マヽ
	迄	マテ、迠
	亦	モ亦、亦タ
	益	益々
	免ルル	免ル
み	認メラル	
	自ラ	自カラ
	看做ス	看做ス
む	、、、、セントスルトキ	、、、、セムトスルトキ
も	以テ	
	戻入ルル	
	求ムル	
	求ニ	
	モノ	
	者	
	申立ツル	
	最	最モ
	用ヰ	
	用ウ	用ユ
	基キ	基ツキ
	基ケル	基ツケル
	若	若シ
	若ハ	若クハ
	「又ハ」ヲ以テ連續シタルモノノ內譯ヲ要スルトキハ「若ハ」ヲ用ウ	
や	已ム	
ゆ	讓渡シ	
	讓受ケ	
	讓渡スル	
よ	依リ	
	由リ	
	因リ	
	因リテ	因テ
る	入ルル	入ル、
わ	分チテ	分テ
附記	一、二、三、十、萬、圓	壹、貳、參、拾、万、円

〔樺法〕

〔樺法〕

●文書ノ發信名ニ關スル件

昭和六年五月十五日
文第三二六號文書課長通牒

各課所長宛

文書ノ發信名ニ付テハ從來一般的ニ其ノ標準ヲ定メタルモノナク各課ノ取扱區々ニ亙リ居候ニ付之ヲ統一スル爲今回左記ノ通決定相成候條爾今右ニ準據相成候樣致度

依命此段及通牒候也

追テ右標準ハ樺太廳處務規程（第三十五條）ニ適合セサル點モ有之候得共處務規程ハ追テ全般ニ亙リ改正ノ見込ニ候條御了知相成度尙現ニ印刷ニ付シタル用紙等有之向ハ調製濟ノモノニ限リ其ノ儘使用差支無之候條爲念申添候

記

長官名ヲ用ウヘキモノ

一　令達（廳令、訓令、內訓、告諭、告示、達、指令）

二　中央官廳ニ差出ス文書ニシテ大臣、次官又ハ局長等宛ノモノ

三　命令書、契約等外部ニ對シ權利義務ノ關係ヲ定ムルモノニシテ別段ノ定メナキモノ

四　訴訟ノ提起、訴願ノ裁決、褒狀等法規其ノ他ニ於テ別段ノ定アルモノ

五　其ノ他特ニ重要ナルモノ

廳名ヲ用ウヘキモノ

一　文書ノ不受理及却下處分ニシテ指令ノ形式ヲ用ヰサルモノ

二　公告、廣告等一般ニ公示スルモノニシテ別段ノ定ナキモノ

三　中央官廳其ノ他管轄外ノ官公署ニ差出ス文書ニシテ他ノ名義ヲ用ヰサルモノ

四　辭令、免許狀、許可證、鑑札、證明書等略一定ノ形式ヲ備ヘ其ノ效力ヲ表示スル性質ノモノニシテ別段ノ定ナキモノ

五　人民ニ對スル通達書ニシテ別段ノ定ナキモノ

部長名又ハ官房各課長名ヲ用ウヘキモノ

一　中央官廳ニ差出ス輕易ナル往復文書ニシテ課長等宛ノモノ

二　他官公署ニ差出ス輕易ナル往復文書ニシテ部局長宛ノモノ

三　所屬官公署長ニ對スル通牒其ノ他ノ往復文書

四　廳中ニ發スル通達其ノ他ノ重要ナル文書

五　人民ニ對スル往復文書

部名又ハ官房名ヲ用ウヘキモノ

一　中央官廳ニ差出ス輕易ナル往復文書ニシテ課等宛ノモノ

二　他官公署ニ差出ス輕易ナル往復文書ニシテ部局宛ノモノ

三　所屬官公署ニ對スル往復文書

四　人民ニ對スル輕易ナル往復文書

課所長名又ハ課所名ヲ用ウヘキモノ

一　廳中ニ發スル往復文書

二　所屬官公署（長）ニ對スル輕易ナル往復文書

（注意）

宛名ニ對シ發信者ノ職權ニ屬セサル文書ヲ差出ストキハ依命ノ文字ヲ用ウルコト

●警察機密文書取扱ニ關スル件

昭和五年二月十八日
訓令第六十一號

長官々房（文書課）　警察部

改正　昭五年一〇月訓令三九六號

「大正六年十月訓令第百〇二號」警察機密文書取扱ニ關スル件左ノ通改正ス

第一條　警察部長ハ長官又ハ警察部長宛ノ警察機密ニ關スル文書ノ配布ヲ受ケタルトキハ閱覽ノ上當該課長ニ交付シ相當處理セシムヘシ

第二條　警察機密ニ關スル文書ノ收發件名簿ハ之ヲ特高祕、高祕、保祕、刑祕及警祕ニ區別シ特高祕ニハ特別高等警察ニ關スルモノ高祕ニハ高等警察ニ關スルモノ保祕ニハ保安警察ニ關シ祕密ノ取扱ヲ要スルモノ刑祕ニハ司法警察ニ關シ祕密ノ取扱ヲ要スルモノ警祕ニハ警察官吏ノ進退賞罰其ノ他祕密ノ取扱ヲ要スル文書ヲ登錄スヘシ

〔樺法〕

第三條　收發件名簿ハ別記樣式ニ依リ調製スヘシ

別記樣式

月日	（特高、高、保、刑、警）第　　號
差出署若ハ差出人又ハ宛名	處理要領
件名	
來書日付	
來書番號	
編纂類目	

●諸願届書等ノ提出方ニ關スル件

大正十二年十二月一日
廳令第五十五號

改正　大一三年一二月廳令四一號、昭三年五月二一號、四年三月四號、七月二九號

諸願届書等ノ提出方ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　樺太廳ニ提出スル諸願届書等ハ本令其ノ他別ニ規定アルモノノ外所轄町村役場及樺太廳支廳出張所ノ管轄區域ニ在リテハ樺太廳支廳出張所、其ノ他ニ在リテハ樺太廳支廳ヲ經由スヘシ

前項ノ規定ハ樺太廳支廳ニ提出スル諸願届書等ニ之ヲ準用ス

第二條　左ノ書類ハ所轄町村役場樺太廳支廳出張所及樺太廳支廳ヲ經由スルヲ要セス

一　恩給法ニ依ル請求書

二　家畜種付規則ニ依ル願届書

三　種卵配付ニ關スル願書

四　産業組合理事監事ニ關スル届書

五　産業組合原簿記載變更届書

六　銀行業者ヨリ提出スル願届書

七　漁業登錄ニ關スル申請及届書

八　免許漁業ニ關スル出願申請及届書但漁業組合ヨリ提出スルモノヲ除ク

九　集團殖民地貸付規則ニ依ル願届書

十　種子給與規則ニ依ル願届書

十一　（削除）

十二　移住奬勵補助規則ニ依ル願届書

第三條　左ノ書類ハ所轄町村役場ヲ經由スルヲ要セス

一　樺太廳支廳長ニ提出スル諸證明願書

二　小學校敎員試驗檢定願書

三　國稅ニ關スル申告及申請書類

四　樺太酒造稅規則第十六條但書ニ依ル證明書

五　保證擔保ニ關スル書類

六　地方資金借入申込書

七　林産物賣拂代金延納願書

八　國有未開地特別處分令ニ依ル願届書

九　土地臺帳規則ニ依ル請求及届書

十　獸醫及蹄鐵工ニ關スル届書

〔樺法〕

十一　家畜去勢願書
十二　家畜移入購入費補助願書
十三　家畜貸付願書
十四　移入鹽證明願書
十五　度量衡法ニ依ル願屆書
十六　會社屆出規則ニ依ル屆書
十七　產業組合及漁業組合ヨリ提出スル書類但產業組合設立認可申請書ヲ除ク
十八　競馬ニ關スル書類
十九　林產物賣拂ニ關スル願屆書
二十　木材ノ移輸出ニ關スル書類

附則

本令ハ大正十二年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス
大正十一年三月廳令第十七號ハ之ヲ廢止ス

●文書經由ニ關スル件

大正十三年十二月十五日
廳訓令第五十八號

町村役場　小學校

法令ノ規定ニ依リ監督官廳ニ提出スヘキ書類ハ支廳出張所ヲ經由スヘシ

●法人設立許可申請書及屆書調査進達方竝ニ設立後ノ監督ニ關スル件

昭和八年十月二十三日
拓務省訓令第一號

樺太廳長官　北海道廳長官　府縣知事

法人設立許可申請書及屆書調査進達方竝ニ設立後ノ監督ニ關スル件

民法第三十四條ニ依ル拓務大臣ニ對スル法人設立ノ許可申請書ノ經由方申出アリタルトキハ其ノ法人ノ設立目的及事業ノ順序、狀況竝ニ設立者ノ身元經歷等ヲ調査シ又法人ヨリ拓務大臣ニ差出スベキ書類ノ經由方申出アリタルトキハ其ノ事實等調査ノ上何レモ意見ヲ具シテ進達セラルベク且所管內ニ於ケル法人ノ業務ニ付テハ特ニ嚴重監督ヲ加ヘ仍民法第七十一條ニ該當スト認メラルルモノアルトキハ直ニ詳細具申セラルベシ

●文書編纂保存規程

昭和八年一月十二日
訓令第一號

廳中一般

文書編纂保存規程左ノ通改正ス

文書編纂保存規程

第一條　文書ノ編纂保存ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ處理スヘシ

第二條　第十七條及第十八條ノ場合ヲ除クノ外文書ハ總テ文書課ニ於テ編纂保存スヘシ

〔樺法〕

第三條　處分完結シタル文書ハ毎月分ヲ一回又ハ數回ニ取纏メ左ノ各號ニ依リ整理ノ上完結文書引繼簿（樣式第三號）ニ記入シ完結ノ月ノ翌々月中ニ文書課ニ引繼クヘシ

一　文書ノ餘白見易キ箇所ニ完結印（樣式第一號）ヲ押捺シ所定ノ事項ヲ記入スヘシ
二　引繼文書目錄（樣式第二號）ヲ作成シ之ヲ添附スヘシ

前項第二號ノ引繼文書目錄ハ二通ヲ作成シ一通ハ主務課ニ保管スヘシ

第四條　文書課ニ於テ完結文書ノ引繼ヲ受ケタルトキハ關係文書ノ整否、分類及保存種別ノ適否等ヲ調査シ引繼ヲ受ケタル月ノ翌々月中ニ文書收發簿整理（警察部ノ文書ニ在リテハ警務課ニ於テ文書收發簿ヲ整理）ノ上假綴ヲ爲スヘシ

前項ノ假綴文書ニシテ第一類乃至第三類（第十二條所定）ニ屬スルモノニハ樣式第四號ノ表紙及樣式第六號ノ目次ヲ、第四類及第五類ニ屬スルモノニハ樣式第四號ノ表紙ノミヲ附スヘシ

第一項ノ假綴文書ハ樣式第七號ニ準シ假綴文書目錄ヲ作成シ之ニ登錄スヘシ

第五條　文書ハ完結ノ日附ニ依リ曆年（金錢又ハ物品ノ出納ニ關スルモノハ會計年度）ヲ以テ區分シ文書編纂部目及保存種別ニ從ヒ完結ノ月ノ順序ニ依リ之ヲ編纂スヘシ

第六條　文書ニシテ二以上ノ編纂部目ニ關聯シ之ヲ分割シ難キトキハ其ノ關係ノ重キ部目ニ編纂シ他ノ部目ニハ目次ニ之ヲ朱書シ且其ノ事由ヲ明記スヘシ

第七條　附屬文書又ハ圖表等ニシテ本書ニ合纂シ難キモノハ特ニ別册トシテ編纂スルコトヲ得但シ別册トシタルトキハ其ノ旨双方ニ明記スヘシ

〔樺法〕

第八條　文書編纂部目ハ別ニ之ヲ定ム

特定ノ名稱ヲ附シタル帳簿ハ其ノ名稱ヲ以テ細目トス

文書編纂部目ノ改正ハ文書課ニ於テ關係部課長ニ合議ノ上長官ノ決裁ヲ經ヘシ

第九條　編纂文書ハ厚サ六糎乃至八糎ヲ以テ程度トシ之ヲ超ユルモノハ二册以上ニ分册スヘシ

前項ニ依リ二册以上ニ分册シタルモノニハ其ノ表紙ニ「二册ノ內一」、「二册ノ內二」等ト標記スヘシ

第十條　假綴文書一年ニシテ尙定厚ニ達セサルトキハ之ニ達スル迄順次次年（會計年度ニ屬スルモノニ付テハ次年度以下之ニ倣フ）ニ襲用シテ數年分ヲ合纂スルコトヲ得

第十一條　假綴文書ハ其ノ翌年（會計年度ニ屬スルモノニ付テハ翌年度以下之ニ倣フ）初ニ於テ左ノ各號ニ依リ整理スヘシ

一　次年ニ襲用スルモノハ之ヲ除外シ次年分假綴文書目錄（第四條第三項）ニ登錄スヘシ
二　第一類乃至第三類ニ屬スルモノハ樣式第五號ノ表紙及樣式第六號ノ目次ヲ附シ本製成册スヘシ
三　第四類ニ屬スルモノハ樣式第五號ノ表紙ノミヲ附シ本製成册スヘシ
四　第五類ニ屬スルモノハ假綴ノ儘保管スヘシ

前項第二號及第三號ノ文書ハ之ヲ公文錄ト稱シ樣式第七號ノ公文錄目

錄ニ登錄スヘシ

第十二條　文書ノ保存期間ハ左ノ五種ニ區分ス

第一類　永年保存

一　法律、勅令、閣令、省令ノ制定改廢ニ關スル書類
二　中央官廳ノ訓令、告示、通牒等ニシテ特ニ重要ナルモノ
三　廳令、訓令、內訓、告諭、告示
四　例規トナルヘキ書類
五　官吏ノ進退賞罰ニ關スル書類
六　恩給ニ關スル書類
七　重要ナル處分ニ關スル書類
八　基本統計書類
九　歷史ノ資料又ハ重要ナル徵證トナルヘキ書類
十　其ノ他永年保存ノ必要アリト認ムルモノ

第二類　二十年保存

一　歲入、歲出及物品等諸計算書類
二　處分ニ關スル書類ニシテ永年保存ノ必要ナキモノ
三　褒賞ニ關スル書類
四　其ノ他二十年保存ノ必要アリト認ムルモノ

第三類　十年保存

一　歲入、歲出及物品等諸計算書ノ證憑書類
二　輕易ナル處分ニ關スル書類
三　演習召集及簡閱點呼ニ關スル書類
四　統計材料書類
五　諸通牒其ノ他往復書類
六　諸報告書及屆書類
七　其ノ他十年保存ノ必要アリト認ムルモノ

第四類　五年保存

一　輕易ナル通牒其ノ他往復書類
二　輕易ナル報告書及屆書類
三　其ノ他五年保存ノ必要アリト認ムルモノ

第五類　一年保存

一　一時ノ處辨ニ係リ將來保存ノ必要ナシト認ムルモノ

保存期間ノ計算ハ完結ノ翌年ヨリ起算ス其ノ數年分ヲ合綴シタルモノニ付テハ最終ニ完結シタルモノヲ以テ基準トス

第十三條　保存文書ハ適當ノ時期ニ之ヲ曝晒シ公文錄目錄ト照合點檢スルノ外書庫內ノ雨雪濕氣及通風等ニ注意シ之カ保全ニ努ムヘシ

第十四條　保存期間ヲ經過シタル公文錄及第十一條第一項第四號ノ文書ハ文書課ニ於テ主務部課長ニ合議シ長官ノ決裁ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

公文錄及第十一條第一項第四號ノ文書ニシテ未タ保存期間ノ經過セサルモノト雖保存ノ必要ナキニ至リタルトキハ前項ニ準シ之ヲ廢棄スヘシ

第十七條又ハ第十八條ニ依リ主務課ニ於テ保管中ノ文書ニシテ文書課ニ引繼ク以前ニ於テ保存期間ヲ經過シ又ハ保存ノ必要ナキニ至リタルモノハ主務課ニ於テ前二項ニ準シ文書課長ニ合議ノ上廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ

前各項ニ依リ文書ヲ廢棄スル場合ハ廢棄目錄ヲ調製添附スヘシ

第十五條　前條第一項及第二項ニ依リ廢棄シタル文書ニシテ第一類乃至第三類ニ屬スルモノニ付テハ其ノ目次ヲ取外シ之ヲ廢棄目錄ニ記載ノ順序ニ依リ一括ノ上廢棄調書（廢棄目錄共）ト共ニ編纂シ永年保存スヘシ

前條第三項ニ依リ主務課ニ於テ文書ヲ廢棄シタルトキハ前項ニ準シ整理ノ上其ノ廢棄調書（廢棄目錄共）ニ取外シタル目次ヲ添ヘ文書課ニ引繼クヘシ

前項ノ引繼ヲ受ケタルトキハ文書課ニ於テ第一項ニ準シ整理保存スヘシ

第十六條　第十四條ニ依リ文書ヲ廢棄シタルトキハ前條ニ依リ整理シタル後公文錄目錄（第十一條第一項第四號ノ文書ニ在リテハ假綴文書目錄）其ノ他關係目錄ニ廢棄年月日ヲ朱記抹消ノ上物品會計官吏ニ引繼クヘシ

前項ニ依リ引繼キタル文書ハ物品會計官吏ニ於テ燒却處分スヘシ

第十七條　機密文書ニシテ處分完結シタルトキハ機密文書收發簿其ノ他關係簿册ヲ整理シタル後左ノ各號ニ依リ處理スヘシ

一　完結後尙秘密ヲ要スルモノ又ハ主務課ニ於テ保管ノ必要アルモノハ第四條乃至第十二條ニ準シ主務課ニ於テ假綴トシ整理ノ上保管スヘシ
二　前號以外ノモノハ第三條ニ依リ文書課ニ引繼クヘシ
三　第一號ノ文書ニシテ主務課ニ於テ保管スルノ必要ナキニ至リタルトキハ第三條ニ準シ文書課ニ引繼クヘシ但シ目次ヲ附シタル綴ニ付テハ引繼文書目錄ニハ綴ノ名稱ノミヲ記載シ每件ノ件名ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第十八條　樺太廳處務規程第二條ニ依リ主務課ニ於テ直接掌理スル文書ニシテ處分完結シタルトキハ前條ニ準シ處理スヘシ

第十九條　第十七條第一號及第十八條ニ依リ主務課ニ於テ保管スル文書ニ關シテハ保管課ニ於テ樣式第七號ニ準シ保管文書目錄ヲ備付之ヲ記載スヘシ

第二十條　文書ヲ借覽セムトスルトキハ其ノ部目、完結年次及保存種別ヲ擧示シ文書課ニ請求スヘシ

第二十一條　文書ノ借覽期間ハ十日以內トス

前項ノ期間內ニ返還スルコト能ハサルトキハ更ニ借覽ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條　文書課ニ於テ整理上必要アルトキハ一時借覽ヲ拒絕シ又ハ貸付期間內ト雖之ヲ返還セシムルコトヲ得

第二十三條　借覽文書ハ之ヲ轉貸シ又ハ廳外ニ携出スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ依リ廳外ニ携出ヲ要スルトキハ文書課長ノ承認ヲ受クヘシ

第二十四條　文書借覽中ノ者出張又ハ缺勤セムトスルトキハ借覽中ノ文書ハ之ヲ返還スヘシ

第二十五條　本令中課又ハ課長ニ關スル規定ハ所又ハ所長ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和八年（出納ニ關スルモノハ昭和八年度）完結ノ文書ヨリ之ヲ適用ス

樣式第一號（完結印）

完結	昭和　年　月　日
編纂部目	部 目 節 細目
保存期間	年

完結ノ日附ハ文書ノ内容ニ從ヒ施行、決議又ハ閲了ノ日附ニ依ルヘシ

樣式第二號（引繼文書目錄）

引繼文書目錄

第　　號

完結年月	昭和　年　月分ノ一
引繼年月日	昭和　年　月　日
主務課所	

文書番號	件名	紙數	保存期間	編纂部目				摘要
				部	目	節	細目	
第　年　號			年					
			年					
			年					
			年					
			年					
			年					
			年					
			年					

一　目錄番號ハ完結ノ年ニ依リ各課所一箇年每ニ進行番號ヲ附スヘシ

二　文書番號ハ完結ノ時ノ主番號ヲ何年何第何號ト記スヘシ

樣式第三號（完結文書引繼簿）

課、所長	目錄番號	引繼年月日	件數	摘要	引繼者	受領者
	第　號	昭和　年　月　日				
	第　號	昭和　年　月　日				
	第　號	昭和　年　月　日				
	第　號	昭和　年　月　日				
	第　號	昭和　年　月　日				
	第　號	昭和　年　月　日				
	第　號	昭和　年　月　日				
	第　號	昭和　年　月　日				
	第　號	昭和　年　月　日				

樣式第四號（假綴文書表紙）

番號	假第　號
年次	昭和　年
保存期間	年
部	
目	
節	
細目	

假綴文書

册ノ内

樣式第五號（公文錄表紙）

番號	第　號
年次	昭和　年
保存期間	年
部	
目	
節	
細目	

樺太廳公文錄

册ノ内

樣式第六號（文書目次）

昭和　年	保存期間　年
部	
目	
節	
細目	
册數	册ノ内

編次	文書番號	件名	備考
	第　年　號		

様式第七號（公文錄目錄）

番號	年次	編纂部目				保存期間	册數	架棚	備考
		部	目	節	細目				
	年					年		第　號架　棚	
	年					年		第　號架　棚	
	年					年		第　號架　棚	
	年					年		第　號架　棚	

一　本目錄ハ文書編纂部目ノ部毎ニ口座ヲ設ケ各別ニ進行番號ヲ附スヘシ

●文書編纂部目

昭和二年九月三十日
文第二四五號

改正（昭三年七月文四二九號、六年七月四九三號、一二月八三三號、六年一二月五六二號、八年一月五九號、五月二四一號、九年五月二八四號）

文書編纂部目改正ノ件

文書編纂部目節細目別紙ノ通改正相成候條御了知相成度

文書編纂部目

部目　節　細目

秘書課

- 秘書
  - 例規
  - 官吏
    - 人事
    - 專決
    - 請暇
    - 出張
  - 恩給
  - 褒賞
  - 儀式典禮
  - 雜件
    - 諸届
    - 雜

文書課

- 文書
  - 例規
  - 文書
    - 收發
      - 雜
    - 編纂
      - 引繼、雜
    - 出納證憑
    - 新聞雜誌
- 文書
  - 圖書
    - 寄贈
    - 官廳刊行圖書目錄
    - 雜件
  - 公文
    - 公文
    - 支廳公文
      - 廳令、訓令、訓、告示、告諭支廳令、支廳訓令、支廳告示、支廳告諭
    - 公報
    - 廳報
      - 彙報、地方行政、氣象、公告、廣告、雜報、雜
    - 雜件
  - 外國文書
  - 雜件
    - 豫算
    - 物品
    - 統計
    - 無主管
    - 雜

調査課

- 調査
  - 例規
  - 內外事情
    - 調査
      - 文書、資料、雜件
  - 統計
    - 文書
    - 諸表
    - 材料
  - 人口動態調査
  - 資源調査
    - 調査票
      - 產業、交通、港灣、工場、鑛山、發電、警察、職業紹介
    - 報告
    - 雜件
  - 總動員計畫
    - 調査
    - 雜件

- 國勢調査
  - 調査
    - 文書、調査區、調査員、申告書
  - 諸表
  - 物品
  - 豫算
  - 雜件
- 法令
  - 法令
  - 雜件
- 雜件

地方課

- 例規
- 地方
  - 例規
  - 地方行政
    - 地方廳
      - 監督
    - 町村
      - 監督、條例、規則、吏員、町村會議員、評議員、財務
    - 行政區劃
    - 訴願異議
    - 雜件
  - 戸籍
  - 土人
- 商工
  - 例規
  - 公共組合
    - 産業組合
    - 商工會議所
      - 定款、許可、認可、登記、報告、雜
      - 認可、報告、屆出、雜件
  - 商業
    - 商業
    - 外國貿易
    - 會社
      - 屆出、雜件
  - 工業

  - 博覽會共進會品評會
  - 物産陳列場
  - 雜件
- 船舶
  - 例規
  - 命令航路
    - 實踐表
    - 發著日時變更
    - 雜件
  - 不開港場寄港
  - 雜件
- 航路標識
  - 例規
  - 燈臺
  - 導燈
  - 雜件
- 氣象
  - 例規
  - 報告
    - 日報
    - 天氣豫報
    - 警報
    - 概報
    - 雜件
  - 雜件

學務課

- 例規
  - 敎育
  - 社會事業

  - 兵事
  - 社寺宗敎
- 學務
  - 學校敎育
    - 諸學校
    - 幼稚園
      - 設置廢止設備、豫算、決算、定員、身分賞罰、恩給諸給與、檢定、勅語謄本詔書、雜
  - 社會敎育
    - 社會敎育
      - 男女青年團、青年訓練、敎化、土人敎育、雜
  - 社會事業
    - 社會事業
    - 賑恤救濟
  - 兵事
    - 陸軍
    - 海軍
    - 雜件
  - 社寺宗敎
    - 社寺宗敎
      - 神社、寺院、布敎所、宗敎
    - 樺太神社
- 雜件

財務課

- 例規
  - 歳入
  - 歳出
  - 金融
- 歳入
  - 租稅
    - 雜
  - 徵收
    - 雜
  - 直轄徵收
    - 往復
  - 犯則者處分
- 豫算
- 決算
- 議會關係
- 豫備金及剩餘金

- 財務
  - 歳出
    - 渡切費
    - 一般會計
    - 海外拂關係
    - 往復
    - 雜件
  - 金融
    - 銀行
    - 地方資金
      - 雜件
    - 無盡
      - 雜件
    - 外國爲替管理
    - 雜件
  - 檢査院關係
    - 計算證明
    - 審理
    - 照復
  - 樺太神社會計
  - 貸付金
  - 庶務
    - 庶務
      - 雜件

會計課

- 例規
  - 歳出
  - 調度
  - 官有財産
- 歳出
  - 支拂
  - 決算
  - 雜件
- 購入
- 賣却

- 會計
  - 調度
    - 運搬
    - 物品出納
    - 物件貸付
    - 雜件
  - 官有財産
    - 取得變更
    - 證明報告
    - 貸付使用
    - 借入保管
    - 官舍
    - 雜件
  - 廳中取締
    - 巡視
    - 警防
  - 傭人
    - 採用
    - 賞罰
    - 扶助料
    - 雜件

土木課

- 例規
- 土木
  - 道路　開鑿、修繕
  - 治水
  - 水道
  - 港灣船澗　修築、復舊
  - 委任工事
  - 建築
    - 新營　廳舍、學校、警察廳舍、官舍、各所新營
    - 增築　神社、學校、郵便局、中央試驗所、觀測所、增築
    - 修繕
    - 委任工事
  - 事務費　各所修繕
  - 民願工事
    - 私費工事
    - 補助工事
  - 交通
    - 驛遞補助
    - 運輸補助
    - 渡船補助
  - 木材流送
  - 經理
    - 工事承認（各支廳別）
    - 豫算
    - 物品
    - 雇傭
  - 報告復命
  - 雜件
    - 諸願
    - 資格證明
    - 用地補償、雜

遞信課

- 例規
- 庶務
  - 人事
  - 共濟
  - 統計
  - 通信生養成
  - 雜件

- 遞信
  - 業務　郵便、電信、電話、爲替、貯金
  - 監督
    - 事故　郵便、電信、電話、爲替、貯金、雜
    - 調査　爲替貯金、振替繰替
    - 雜件
  - 規畫
    - 遞送集配
    - 電信電話
    - 局所
    - 雜件
  - 工務
    - 工事
    - 雜件
  - 保險
    - 事故
    - 雜件
  - 會計
    - 物品
    - 印紙切手
    - 購買
    - 雜件
  - 電氣
    - 電氣事業　供給用、自家用（各事業別）、雜

鑛務課

- 例規
- 處分
  - 許可　試掘、採掘（砂鑛ヲ含ム）
  - 不許可共他
- 原簿
  - 登錄
  - 閲覽共他
- 鑛務
  - 復命書
  - 鑛業簿復本
  - 監督
    - 坑內實測圖復本
    - 鑛業明細表
    - 施業案
    - 諸規則
    - 雜件
  - 鑛業用地
  - 鑛物地質
    - 地質
    - 分析
  - 鑛業警察
    - 工作物
    - 諸屆
  - 庶務
    - 庶務　訴訟、裁決其他重用ナルモノ
    - 經理
    - 統計
  - 雜件

水産課

- 例規
- 漁業
  - 免許漁業
  - 許可漁業
  - 土人漁業
  - 製造
  - 蕃殖保護
  - 補助
  - 漁業權變更

- 水産
  - 登録
    - 登録申請
    - 代表者屆
    - 申請却下
    - 異議關係
    - 閲覽
    - 其ノ他
  - 膃肭獸
  - 水産會
  - 組合
    - 漁業組合
    - 水産組合（管轄支廳別）
  - 報告
    - 復命
    - 統計（即報、期報、年報）
  - 豫算
  - 雜件

水産物檢査所

- 水産物檢査
  - 例規
  - 檢査
  - 報告
    - 統計
    - 檢査臺帳
    - 諸報告
  - 豫算會計
    - 檢査員採用配置
  - 雜件
    - 勤務日誌
    - 雜

度量衡所

- 度量衡
  - 例規
  - 營業
    - 免許
    - 許可認可屆出
  - 檢定
    - 檢定請求書
  - 取締
    - 第一種
    - 第二種
    - 商品量目
  - 報告
    - 統計
    - 警察報告
    - 營業者報告
  - 雜

殖民課

- 移民
  - 例規
  - 移住申込
  - 移住費補助
  - 移住者報告
    - 即報
    - 月報
  - 移住照會
  - 雜件

- 土地
  - 例規
  - 選定、區劃
  - 賣拂、讓與、交換、契約解除、返還
  - 貸付
    - 甲
    - 乙（甲以外ノモノ）
      - 牧場
      - 農産工藝
  - 地種地目
  - 地積更正
  - 指令書更正
  - 土地整理
    - 委任狀
    - 立會通知
    - 雜件
  - 陸地測標
  - 統計
  - 雜件
- 土地改良
  - 例規
  - 工事
  - 補助
  - 土壤改良
  - 雜件
- 農事
  - 例規
  - 補助
  - 指導
  - 興農會
  - 統計
  - 雜件
- 畜産
  - 例規
  - 種畜
  - 家畜貸付
  - 家畜衞生
  - 獸醫蹄鐵工
  - 毛皮動物
  - 競馬會
  - 組合
  - 補助
  - 指導
  - 統計
  - 雜件
- 殖民廳務
  - 例規
  - 經理
  - 物件
  - 人事
  - 雜件

林務課

- 林務
  - 例規
  - 林野
    - 第二種林
    - 被害林
    - 大學演習林
  - 林産
    - 一時處分　特賣、公賣、讓與、雜
    - 年期處分　賣拂、箇所通知、雜
    - 處分期限往復
    - 搬出期限延期
    - 違約償辨
    - 豫定案
    - 島外移出
  - 製品
    - 賣拂　研伐
    - 雜
  - 報告
    - 統計　踏地檢查、雜
    - 林務監査
    - 復命書
  - 雜件
    - 森林主事
    - 林野火防組合
    - 豫算
    - 森林警察
    - 檢査院關係
    - 訴訟關係
    - 雜

林業課

- 林業
  - 例規
  - 經營調査
  - 造林
  - 官行斫伐
  - 保安林

- 庶務
  - 統計
  - 復命書
  - 豫算
  - 物品
  - 雜件

警務課

- 警務
  - 例規
  - 請願配置
  - 巡査身分
    - 身分屆
    - 勤務配置
    - 採用
    - 不採用
    - 兵籍
  - 召集
  - 警務雜件
  - 恩給
  - 會計
    - 豫算
    - 他府縣警察豫算
    - 給貸與品
    - 證券證票
    - 經費調
    - 治療料弔祭料給
    - 助料
    - 雜件
  - 統計
    - 警察月報
    - 統計諸表
    - 醫事統計
- 例規
- 保健
  - 衞生營業
  - 飲食物
  - 墓地火葬場
  - 屠獸場
  - 精神病

- 衞生
  - 醫藥
    - 醫師　醫師、雜
    - 齒科醫師
    - 公醫　公醫、六ヶ月報
    - 醫院　助産婦、看護婦、雜
    - 産婆看護婦
    - 鍼灸術
    - 藥劑師
    - 藥種商
    - 製藥者
    - 賣藥業
    - 藥品、藥品巡視
  - 防疫
    - 檢疫
    - 傳染病　名簿、通報、雜
    - 防疫補助
    - 衞生組合　衞生組合、補助
  - 雜件

保安課

- 保安
  - 例規
  - 行政手配
  - 消防
    - 消防組　消防組、補助、雜件
    - 山火警防
  - 保安
    - 火災　建物、林野
    - 風水害其他
    - 原動機
    - 工場　工場、災害
    - 銃砲火藥
    - 狩獵取締
    - 水産取締
    - 雜件

- 交通
  - 交通警察
- 營業
  - 營業
  - 交通營業
  - 請負營業
- 風俗
  - 寄附射倖
- 形像
- 勞働者
  - 募集
  - 雜件
- 統計
  - 勞働
  - 消防
  - 工場
  - 雜件

刑事課

- 刑事
  - 例規
  - 變死傷
  - 雜件

高等警察課

- 高等警察
  - 例規
    - 高等警察
    - 外國旅券
  - 外事警察
  - 外國旅券
  - 統計
  - 雜件

警察官練習所

- 練習
  - 例規
  - 巡査練習
  - 雜件

特定郵便局文書取扱手續

昭和二年七月二十一日
訓令第三百五十號　内務部　特定郵便局

特定郵便局文書取扱手續左ノ通定ム

特定郵便局文書取扱手續

第一章　總則

第一條　特定郵便局（以下單ニ特定局ト稱ス）ニ於ケル文書ノ取扱ハ別ニ規定アルモノノ外本手續ニ依ルヘシ

第二條　文書ハ局長自ラ之ヲ取扱フヘシ但シ親展以外ノ文書ハ特ニ局員ヲ指定シテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第三條　局長事故ノ爲親展文書ヲ自ラ取扱フコト能ハサルトキハ局長代理者ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第四條　局長ニ於テ文書ヲ檢閲シタルトキハ決判ヲ要スルモノノ外其ノ餘白ニ認印ヲ爲スヘシ

第二章　受收

第五條　文書ヲ受收シタルトキハ機密ニ屬スルモノヲ除キ一件毎ニ文書受發簿（附錄第一號樣式）受收ノ部ニ相當登記ノ上當該文書ノ餘白ニ受收印（附錄第二號樣式）雛形ヲ押捺シテ受收年月日及番號等ヲ轉記スヘシ但シ通信公報、爲替振出請求書、物品送付書其ノ他之ニ類スルモノハ此ノ限ニアラス

通信公報ニ依リ照會ヲ受ケ又ハ之ニ揭載ノ訓令通牒ノ類ニシテ回答、報告等ヲ要スルモノハ前項ニ準シ其ノ事項ヲ文書受發簿ニ登記スヘシ

第六條　機密ニ屬スル文書ハ機密文書件名簿（附錄第三號樣式）ニ登記シ別ニ受收番號ヲ附シ第五條ト同樣ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　電報ニ依リタル文書ハ電報送達紙ノ餘白又ハ其ノ裏面ニ發信年月日、宛名、差出元及本文ノ譯文ヲ記載スヘシ

第八條　受收文書ハ先ツ局長檢閲ノ上自ラ處理スルモノヲ除クノ外處理方法ヲ示シテ取扱者ニ交付スヘシ

局長事故ノ爲前項ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキハ事後速ニ之ヲ檢閲スヘシ

第九條　受收文書ハ速ニ相當處理ヲ爲シ其ノ回答報告又ハ通牒等ヲ要スルモノハ特ニ期日ノ指定アルモノノ外受收當日ヨリ三日以内ニ之ヲ處理スヘシ

取調上日數ヲ要シ前項ニ依リ難キモノ又ハ指定期日内ニ處理シ難キモノアルトキハ一應其ノ事由及處理見込月日ヲ關係ノ向ヘ通知スヘシ

第十條　遞信公報、通信公報其ノ他局員ニ周知セシムルノ要アル文書ハ直ニ關係者ニ閲讀セシメタル上餘白ニ認印セシムヘシ

第三章　發送

第十一條　發送スヘキ文書ハ草案（附錄第四號樣式）ヲ作リ局長自ラ起案スルモノヲ除クノ外局長之ニ檢印ヲ押捺シ文書式（大正十五年六月遞應第二三號）ニ依リ淨書發送スヘシ但シ局長事故ノ爲代決セシメタルモノハ事後速ニ之ヲ檢閲スヘシ

第十二條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ前條ニ依ル草案ヲ省略スルコトヲ得

一、例文ニ依ルモノ
二、輕易簡單ナル受收文書ニ對スル起案ニシテ其ノ文書ノ餘白ヲ利用シテ起案シ得ルモノ
三、輕易事項ニシテ保存ヲ要セサル一時限ノ回答文ノ如キ其ノ照會書ニ附箋ヲ爲シ又ハ其ノ餘白ニ記入シテ返送シ得ルモノ

前項草案ヲ省略シタルトキハ文書受發簿備考欄ニ其ノ要領ヲ記入シ置クヘシ

第十三條　文書ヲ發送スルトキハ文書受發簿發送ノ部ニ相當登記ノ上發送スヘキ文書及草案ニ其ノ年月日番號ヲ轉記シ尙該文書ト草案トヲ契印ヲ以テ割印スヘシ

發送文書ニ添付物アルトキハ當該文書表面上部餘白ニ「有添付物」又ハ「添付物別途小包」等朱記シ置クヘシ

第四章　經由

第十四條　自局經由ノ文書ヲ受收シタルトキハ文書受發簿經由ノ部ニ相當登記ノ上當該文書ノ餘白ニ「何局（自局名）經由」ノ文字及受發簿ノ經由年月日及番號ヲ轉記ノ上發送スヘシ

第十五條　他ヲ經由到著ノ文書受發簿受收ノ部備考欄ニ經由廳廨名ヲ記入シ該文書ニ對スル照會又ハ回答書ハ其ノ餘白ニ經由廳廨名ヲ附記シ當該經由廳廨宛送付スヘシ

第五章　編纂及保存

第十六條　文書ハ一事件毎ニ區別シ受發ノ順序ニ依リ新ラシキヲ上部ニ假綴シ其ノ處理完了シタルモノ又ハ一般的通達書類ニシテ閲覽ニ止メタルモノハ第十九條ノ區分ニ隨ヒ處理完了又ハ閲覽終了ノ日順ニ依リ上部左方欄外ニ番號ヲ附シ編纂スヘシ文書ニシテ一事件ノ處理完了シタルトキハ其ノ上部餘白ニ「完了」ト朱記シ且ツ文書受發簿ニ完了年月日ヲ記入スヘシ

第十七條　文書ノ編纂ハ暦年毎ニ別冊ト爲スヘシ但シ文書ノ多寡ニ依リ便宜一年分ヲ別冊トシ又ハ數年分ヲ併セテ一冊ト爲スコトヲ得

第十八條　編纂シタル文書ニハ卷頭ニ索引（附錄第五號樣式）ヲ附シ尙强靭ナル表紙ヲ附シタル上特定局圖書編纂文書及使用濟帳簿類整理竝處分手續ニ依リ整理スヘシ

第十九條　文書ノ編纂種別及保存年限左ノ如シ

號數	文書種別	保存年限	備考
一	遞信公報	三年	
二	通信公報	同	
三	令達及例規書類	永久	訓令通牒及回答等ニシテ例規トナルモノハ事務ノ種別ヲ問ハス總テ此ノ部數ニ入ル
四	機密書類	同	軍事其ノ他ノ機密ニ渉ルモノ
五	身分進退賞罰書類	十年	局長以下身分進退異動及賞罰ニ關スルモノ

六	郵便關係書類	三年	三、四號ニ屬スルモノヲ除ク
七	爲替貯金書類	同	同
八	年金恩給書類	同	三、四號ニ屬スルモノヲ除ク 件數僅少ナル向ニ於テハ七號ニ併合スルコトヲ得
九	國庫金受拂書類	同	同 同
一〇	簡易生命保險書類	同	三、四號ニ屬スルモノヲ除ク
一一	電信關係書類	同	同
一二	電話關係書類	同	同 件數僅少ナル向ニ於テハ一一號ニ併合シ「電信電話關係書類」ト稱スルコトヲ得
一三	統計書類	永久	同
一四	會計書類	三年	
一五	庶務書類	同	前各號以外ノモノ

第二十條　保存年限ヲ經過シタル文書ハ特定郵便局圖書編纂文書及使用濟帳簿類整理竝處分手續ニ依リ處分スヘシ

附則

本令ハ昭和二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ抵觸スル從前ノ通牒ハ總テ之ヲ廢止ス

從來ノ帳簿用紙及受付印ハ當分ノ内其ノ儘使用スルコトヲ得

（附錄第一號樣式）

文書受發簿

（甲）受收ノ部

受收年月日	受收番號	差出元	文書日附	文書記番號	件名	處理年月日	備考

（乙）發送ノ部

發送番號	發送年月日	宛先	件名	關聯事項	備考

（丙）經由ノ部

經由		文書		差出元	宛先	件名及其要旨	備考
年月日	番號	日付	番號				

調製及記入心得

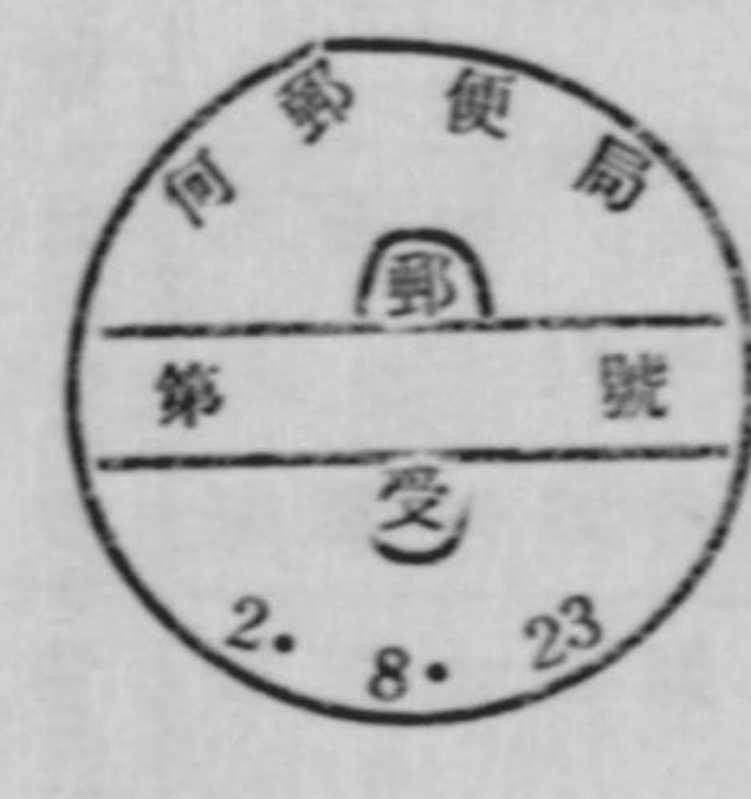
一、本簿ハ一冊トシ各部毎ニ口座ヲ設クヘシ但シ件數多キ向ニ於テハ各部毎ニ別册トシ又ハ郵便、電信、電話等ノ事務別ニ調製スルコトヲ得

二、文書番號ニハ受發共事務ノ種別ニ從ヒ適宜ノ記號ヲ附スルコトヲ得（例、郵第何號、電第何號等ノ如シ）

三、發送ノ部關聯事項欄ニハ發送文書カ受收文書又ハ曩ニ發送セル文書ニ關聯スルモノナルトキ其ノ關係文書ノ記番號件名等ヲ記入スヘシ

（附録第二號雛形）

受收印



上部月形内ニハ郵、電、爲、貯等事務ノ種別ニ依リ相當記入スヘシ

（附録第三號様式）

機密文書件名簿

受發年月日	受收記番號	發送番號	差出元宛先	件名	處理年月日	備考

〔樺法〕

（附録第四號様式）

文書草案書式

發送文書番號	起案	年　月　日	主任
第　號	發送	年　月　日	主任

局長㊞

案

局　回答（又ハ上申、照會通牒、報告等）

名宛　局（又ハ局長）

何々ノ件　何第何號（年月日）（照會書等ノ記番號年月日ヲ記ス）

本文

（附録第五號様式）

索引

編纂番號	關係局所	件名	備考

〔樺法〕

●特定郵便局圖書、編纂文書及使用濟帳簿類整理竝處分手續

昭和二年七月二十一日
訓令第三百四十九號

内務部　特定郵便局

特定郵便局圖書、編纂文書及使用濟帳簿類整理竝處分手續左ノ通定ム

特定郵便局圖書、編纂文書及使用濟帳簿類整理竝處分手續

第一章　通則

第一條　特定郵便局ニ於ケル圖書、編纂文書及使用濟帳簿類ノ整理竝處分ハ別ニ規定スルモノノ外本令ニ依ルヘシ

第二條　本令ニ於テ圖書ト稱スルハ事業ニ關スル一切ノ圖表冊子ノ類ニシテ交付ヲ受ケ又ハ自局經費ヲ以テ購入シタルモノヲ謂ヒ編纂文書ト稱スルハ特定局文書取扱手續（以下單ニ文書取扱手續ト稱ス）第十七條ニ依リ編纂シタル文書ヲ謂ヒ帳簿類ト稱スルハ規定上使用スル帳簿及之ニ準スヘキ書類ヲ謂フ

第二章　整理

第三條　圖書類ハ圖書保管簿（附錄第一號樣式）ニ登記シ且其ノ表紙裏面ニ左記事項ヲ記載シ置クヘシ但シ一時限ノ圖表等ハ此ノ限ニ在ラス

一、交付又ハ購入ノ年月日
二、保管簿登記番號

第四條　編纂文書及使用濟帳簿類ハ編纂文書整理簿（附錄第二號樣式）又ハ使用濟帳簿類整理簿（附錄第三號樣式）ニ夫々登記シ且其ノ表紙ニ左記事項ヲ記載シ置クヘシ

一、文書ノ種別（文書取扱手續第十九條ノ種別）又ハ帳簿名稱
二、綴込期間（文書）又ハ使用終始年月日（帳簿）
三、保存年限
四、保存期間終了年月日
五、整理簿登記番號

第五條　左ノ使用濟書類ハ一ヶ月分整理シ厚表紙ヲ附シ相當編綴ノ上帳簿ニ準シ處理スヘシ但シ數量ノ多寡ニ依リ適當ニ分割シ又ハ一年分ヲ一冊ト爲スコトヲ得

一、郵便送記類
一、内容證明郵便物保證謄本
一、資金及過超金受領證
一、計算規程第二十二條ノ郵便物受領證
一、電報配達成績表又ハ電報配達番號表
一、電報受取紙
一、電報返信料前納證受領證
一、各種原符
一、其ノ他文書取扱手續ニ依リ處理スル以外ノ種類

第六條　圖書編纂文書及使用濟帳簿類ハ一定ノ場所ニ保管シ常ニ其ノ所在ヲ明カナラシメ置クヘシ

第三章　處分

第七條　交付ヲ受ケタル圖ニシテ不用トナリタルモノ及渡切經費支辨ニアラザル文書竝帳簿類ニシテ保存期限經過ノモノハ毎年六月末日ニ區切リ附錄第五號樣式ニ依リ處分方稟申シ指揮ヲ俟テ處理スヘシ

第八條　渡切經費支辨ニ屬スル文書及帳簿類ニシテ保存期限經過ノモノハ左記各號ニ依リ處理スヘシ

一、毎年一月及七月ニ於テ渡切經費支辨文書及帳簿類處分報告（附錄第四號樣式）ヲ提出スヘシ
二、前號ノ報告提出後一月ヲ經過スルモ何等ノ指示ナキトキハ適宜之ヲ處分スヘシ但シ受發人宿所名等ノ記載アルモノ及切手類ノ貼付シアルモノハ再貼用ノ虞ナキ樣之ヲ燒却スヘシ

第九條　前二條以外ノモノニシテ不用トナリタルモノ又ハ保存期限經過ノモノハ適宜之ヲ處分スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（附錄第一號樣式）

圖書保管簿

交付ヲ受ケタル年月日 購入年月日	番號	名稱	處分年月日	備考

記入心得　處分ヲ爲シタルモノハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記入スヘシ

（附錄第二號樣式）

編纂文書整理簿

番號	文書種別	綴込期間	保存年限	保存期間終了年月日	處分年月日	備考

（附錄第三號樣式）

使用濟帳簿類整理簿

番號	名稱	使用始終年月日	保存年限	保存期間終了年月日	處分年月日	備考

調製心得　本簿ハ郵便、爲替貯金、電信、電話、庶務、會計等ニ口座ヲ區別スヘシ

（附錄第四號樣式）

何第何號

年　月　日

遞信課長宛

何局所長

渡切經費支辨文書及帳簿類處分報告

左記文書及帳簿類保存期限經過ニ付處分可致候

記

名稱	數量	使用又ハ綴込期間	保存期限終了年月日	備考

（附錄第五號樣式）

保存期限經過書類帳簿處分稟申

名稱	數量	終始年月日	保存期限	備考

右保存期限經過ノモノニ付處分方法指揮相成度

年　月　日

何局長

遞信課長宛

（備考）反古ハ現品所在局ニ於テ賣却處分ニ附スヘクニ付相當數量アルトキハ稟申備考欄ニ凡テ和紙、洋紙、和洋紙混淆ニ區別量目ヲ記入シ且買受希望者ヨリ見積ヲ徵シ添付スヘシ

樺太廳圖書取扱規程

大正十年十月十四日
訓令第百六十號

廳中一般

樺太廳圖書取扱規程

第一條　長官官房文書係主掌ニ屬スル圖書中ニハ新聞及雜誌ヲ包含ス

第二條　圖書ハ廳職員ノ請求ニ依リ之ヲ貸付ス

第三條　圖書ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ圖書借覽證（別記樣式）ニ所定ノ事項ヲ具シ長官官房文書係ニ提出スヘシ

第四條　圖書ノ貸付期間ハ十五日以內トス但シ必要アルトキハ貸付期間內ト雖返還セシムルコトアルヘシ

第五條　圖書ノ貸付ヲ受ケタル者其ノ圖書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ之ヲ辨償セシム

第六條　長官官房文書係ニ於テハ毎月一回圖書月報ヲ發行シ新ニ購入又ハ寄贈ニ係ル圖書ノ狀況ヲ廳中一般ニ周知セシムヘシ

第七條　本規程ニ定ムルモノヲ除クノ外樺太廳物品取扱細則ヲ準用ス但シ新聞雜誌類ハ適宜ノ方法ニ依リ保管スヘシ

附　則

本令ハ大正十年十月十四日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年五月訓令第七十一號樺太廳文庫規程ハ之ヲ廢止ス

（別記）

圖書借覽證

書名	著者	番號	册數	備考

大正　年　月　日

課　勤務

注意

一、貸付期間ハ十五日以内トス但シ必要アル場合ハ期間内ト雖返還セシムルコトアルヘシ

二、出張賜暇旅行ノ場合ハ一時返納スルコト

三、借覽中亡失又ハ毀損シタルトキハ辨償セシム

●樺太廳公報及樺太廳報編纂規程

昭和五年八月一日
訓令第二百八十七號

廳中及所屬官署一般

樺太廳公報及樺太廳報編纂規程左ノ通定ム

第一條　樺太廳公報（以下單ニ公報ト稱ス）ニハ左ノ事項ヲ登載ス

一　廳令
二　訓令
三　告示
四　告諭
五　通牒
六　支廳公文
七　敍任及辭令
八　彙報
九　地方行政
十　氣象
十一　公告
十二　廣告
十三　官報抄錄
十四　雜報

第二條　通牒欄ニハ多數ノ所屬官署又ハ其ノ職員ニ對シ發スル例規ノ性質ヲ有スル通牒ニシテ公報登載ノ指定アルモノヲ登載ス

第三條　支廳公文欄ニハ支廳令、告示、告諭其ノ他支廳長ノ發スル公文ニシテ必要ト認ムルモノヲ登載ス

第四條　敍任及辭令欄ニハ左ノ事項ヲ登載ス

一　判任官及判任官待遇者以上ノ職員ノ身分、進退及賞罰
二　前號ノ外必要ト認メタル事項

第五條　彙報欄ニハ左ノ事項中必要ト認ムルモノヲ登載ス

一　宮廷事項
二　官廳事項
（一）開廳、廢廳及廳舍移轉
（二）判任官及判任官待遇者以上ノ職員ノ死亡、休職滿期、失官及氏名變更
（三）司法及警察ニ關スル事項
（四）褒賞及表彰
（五）其ノ他必要ト認ムル事項
三　統計ニ關スル事項

〔樺法〕

四　軍事ニ關スル事項
五　日本赤十字社樺太委員部錄事
六　愛國婦人會樺太支部錄事
七　學事ニ關スル事項
八　社寺及宗敎ニ關スル事項
九　財政及金融ニ關スル事項
十　産業ニ關スル事項
十一　交通、通信及運輸ニ關スル事項
十二　衞生ニ關スル事項
十三　救恤ニ關スル事項

第六條　地方行政欄ニハ町村長、町村會議員ノ當選其ノ他地方行政上必要ト認ムル事項ヲ登載ス

第七條　氣象欄ニハ樺太廳觀測所ニ於テ觀測シタル氣象ノ概要ヲ登載ス

第八條　公告欄ニハ鑛業權、漁業權其ノ他法令ノ規定ニ依リ公告スヘキ事項ヲ登載ス

第九條　廣告欄ニハ官廳關係ノ事項ニシテ廣告ノ必要アリト認ムルモノヲ登載ス

第十條　官報抄錄欄ニハ官報登載事項ニシテ特ニ必要ト認ムルモノヲ登載ス

第十一條　雜報欄ニハ以上各欄ニ屬スルモノノ外必要ト認ムル事項ヲ登載ス

第十二條　公報ニ登載シタル事項ヲ集錄シ毎月一回樺太廳報（以下單ニ廳報ト稱ス）ヲ發行ス

第十三條　公報及廳報ハ長官官房文書課ニ於テ之ヲ編纂ス

第十四條　廳中課、所及所屬官署ニ於テ第一條乃至第十一條規定ノ登載事項ニ該當スルモノアルトキハ原稿三通ヲ添附シ遲滯ナク長官官房文書課長ニ通報スヘシ但シ長官官房文書課ヲ經由スル廳令、訓令、告示其ノ他ノ決裁文書ニシテ「公報登載」ノ記號ヲ附シタルモノハ別ニ通報スルヲ要セス

第十五條　公報ニ登載シタルモノハ特ニ必要アル場合ヲ除クノ外別ニ文書ヲ差出スコトヲ要セス

附則

本令ハ昭和五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

樺太廳報編纂規程ハ之ヲ廢止ス

〔樺法〕

●施政沿革ノ記錄ニ關スル件

昭和八年九月十九日
文第七七八號文書課長依命通牒

廳中各課所長　鐵道事務所長

施政沿革ノ記錄ニ關スル件

施政ノ沿革ヲ知ルハ爲政者ノ有益ナル參考トナルコト論ヲ俟タザル所ニシテ樺太廳設置以後ノ施政ノ變遷ニ就キ未ダ之ヲ取纒メタルモノナキハ遺憾トスル所ニ有之候

今各課所ニ於テ主管事項ノ狀況ヲ記錄シ置クコトトセバ將來ノ歷史編纂ノ基礎トナルノミナラズ一面ニハ毎年ノ業績回顧ノ一助トナリ或ハ議會

其ノ他ノ說明ノ資料トナル等裨益スル所尠ナカラズト被存候就テハ貴課所主管ニ關スル事項ニ關シ當局ノ施政ノ概要、其ノ結果トシテ現ハレ來リタル效果、關係事業ノ狀態、其ノ他行政ノ沿革トシテ擧グベキ事項及主ナル出來事等凡ソ前記ノ趣旨ニ於テ記錄シ置クベキ事項ヲ一箇月分宛取纏メ其ノ翌月中ニ記錄シテ主務部長及長官ノ査閲ニ供スルコトトシ昭和八年九月分（十月記載）ヨリ之ヲ實施相成度

依命此段及通牒候也

追テ右供閲ノ際ハ記錄事項ノ目錄ヲ總括作製可致候條文書課ニモ回議相成度申添候

第二章　統計　報告

●樺太廳統計事務規程

昭和四年十一月六日
訓令第五百三十五號

廳中及所屬官署一般

樺太廳統計事務規程左ノ通定ム

樺太廳統計事務規程

第一條　樺太廳ニ統計主任ヲ置キ統計ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理セシム

統計主任ハ長官官房調査課長ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　長官官房調査課ニ統計主査ヲ置キ上官ノ指揮ヲ承ケ統計材料ノ檢査及統計書ノ編纂其他統計ニ關スル事務整理ノ責ニ任セシム

統計主査ハ奏任官又ハ判任官ノ中ヨリ長官之ヲ命免ス

第三條　樺太廳各課所（長官官房調査課ヲ除ク以下單ニ各課所ト稱ス）及所屬官署ニ統計主務ヲ置キ統計ノ統一並統計材料調査ノ責ニ任セシム

統計主務ハ判任官又ハ判任待遇ノ中ヨリ本廳ニ在リテハ長官、所屬官署ニ在リテハ其ノ長之ヲ命免ス

所屬官署長前項ノ命免ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之カ官氏名ヲ統計主任ニ通知スヘシ

第四條　統計主務ハ樺太廳報告例（以下單ニ報告例ト稱ス）中統計ニ關スル報告其ノ他統計材料ヲ調製スヘシ

前項ニ依リ蒐集シタル原材料ハ其ノ種類別ニ編纂保存スヘシ

第五條　各課所ニ於テ報告例ニ依リ各所屬官署ヨリ報告ヲ受ケタル統計材料ハ整理製表ノ上其ノ曆年調ニ係ルモノハ毎年五月末日迄ニ、會計年度調ニ係ルモノハ毎年八月末日迄ニ之ヲ統計主任ニ差出スヘシ

前項報告例ニ依ルモノノ外各主管ノ調査ニ係ルモノ亦同シ

第六條　各課所ニ於テ統計ニ關スル調査事項並其ノ樣式ヲ定メ若ハ變更セントスルトキ又ハ統計ニ關スル調査ヲ公ニセントスルトキ若ハ統計事項ニ關シ廳外ト照復ヲ要スルトキハ之ヲ統計主任合議スヘシ

第七條　各課所ニ於テ統計ニ關スル文書及圖書等ヲ受領シタルトキハ之ヲ統計主任ニ回覽スヘシ

第八條　所屬官署ニ於テ統計事務ニ關スル規程又ハ統計材料蒐集上ニ關スル手續並其ノ樣式ヲ定メタルトキ若ハ之ヲ變更シタルトキ及統計調査ノ結果ヲ公ニシタルトキハ直ニ其ノ寫ヲ統計主任ニ回付スヘシ

第九條　統計主任ハ統計事務ニ關シ統計主務ニ直接交渉ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年一月樺太廳訓令第三號統計文書取扱手續ハ之ヲ廢止ス

●樺太廳報告例

大正十一年三月十五日
廳訓令第三十一號

廳中及所屬官衙一般

改正　大一二年一二月廳訓令四一號、一三年四月二三號、二六號、一五年一二月三三二號、昭五年一二月訓令四六七號、七年一二月三一一號

樺太廳報告例左ノ通改正ス

樺太廳報告例

第一條　樺太廳所屬各官衙ハ本例ノ定ムル所ニ依リ其ノ所管事項ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第二條　報告ヲ別チテ即報、日報、月報、期報、半年報、年報、臨時報トシ其ノ報告期限ハ別册ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第三條　報告スヘキ事項ニシテ特ニ至急ヲ要スト認ムルモノハ電信、電話其ノ他迅速ノ方法ヲ以テ其ノ概要ヲ報告シ尙遲滯ナク其ノ詳細ヲ報告スヘシ

第四條　報告スヘキ事項ナキトキ又ハ報告期ニ報告シ難キモノアルトキハ報告期ニ於テ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第五條　報告用紙ハ美濃紙ヲ用ヰ別册ノ雛形ニ依リ所定ノ記入ヲ爲シ捺印ノ上提出スヘシ

第六條　計數ヲ示スモノハ必ス其ノ單位ヲ明記スヘシ

數位ハ三位毎ニ「、」ヲ附シ且單位以下ヲ記入スル場合ハ單位「・」ヲ附スヘシ

計數未詳ノモノハ「?」ヲ記シ計數ナキモノハ「—」ヲ記スヘシ

第七條　計數ニシテ前回ノ報告ニ比較シ著シキ增減アリタルトキハ其ノ理由ヲ備考トシテ附記スルヲ要ス

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年三月樺太廳訓令第一號樺太廳報告例ハ之ヲ廢止ス

別册ハ省略ス

●樺太ノ町村長ノ統計事務處理ニ關スル件

昭和九年二月六日
勅令第十七號

朕樺太ノ町村長ノ統計事務處理ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、拓、大臣副署）

樺太ノ町村長ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ統計ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●人口動態調査令

大正十一年十一月一日
勅令第四百七十八號

改正　大一五年六月勅令第二四五號

朕人口動態調査令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

人口動態調査令

第一條　人口ノ動態ヲ調査スル爲必要ナル資料ハ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵集ス

第二條　人口動態調査資料ハ婚姻、離婚、出生、死亡及死產ニ付人口動態調査票ヲ用ヰ市町村長之ヲ提出スヘシ

棄見發見ニ因ル就籍ハ出生ニ準シ失踪及死亡確認ニ因ル除籍ハ死亡ニ準シ調査スヘシ

〔樺法〕

第三條　人口動態調査票ハ婚姻票、離婚票、出生票、死亡票及死產票ノ五種トシ其ノ様式ハ別表第一號様式乃至第五號様式ニ依ル

人口動態調査票ハ本籍アル者ニ付テハ本籍地ノ市町村長、本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ付テハ届出地ノ市町村長之ヲ作成スヘシ但シ死產票ハ埋火葬認許證ヲ付與シタル市町村長之ヲ作成スヘシ

第四條　人口動態調査票ノ用紙ハ之ヲ市町村長ニ交付ス

第五條　市町村長人口動態調査票ヲ作成スル場合ニ於テハ戸籍法又ハ墓地及埋葬取締規則ニ依ル届書其ノ他ノ關係書類ニ基キ内閣總理大臣ノ定ムル人口動態調査票及送致目錄作成心得ニ依リ記入スヘシ

第六條　人口動態調査票ハ毎月市町村長ハ（府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長ヲ經テ）府縣知事ニ、府縣知事ハ内閣總理大臣ニ之ヲ提出スヘシ

〔樺法〕

第七條　本令中府縣支廳長町村長ニ關スル規定ハ市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市長區長ニ之ヲ適用シ府縣知事トアルハ北海道廳長官及樺太廳長官ヲ、府縣支廳長トアルハ北海道廳支廳長及樺太廳支廳長ヲ、町村長トアルハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

第一號様式

㊛婚

種類番號第　　號

（府縣）　（郡市）　（町村）　（役所役場）

婚姻

大正　　年

(一)種別	(二)本籍地		(三)婚姻當時ノ所在地	
	夫	妻	夫	妻
普通 入夫 婿養子	（府縣） （郡市） （町村）	（府縣） （郡市） （町村）	（府縣） （郡市） （町村）	（府縣） （郡市） （町村）

作成心得ニ照シテ記入

㊛婚

票
月

婚

(四)屆出ノ年月日	大正　年　月　日	
(五)氏名	夫	妻
(六)出生ノ年月日	年　月　日	年　月　日
(七)配偶ノ關係	初婚）死別）離別）不詳）	初婚）死別）離別）不詳）
(八)職業		

婚

スヘシ

第二號樣式

離婚票

大正　年　月

離

種類番號第　　號

（府縣）　（郡市）　）（町村）　）（役所役場）　）

(一)種別	妻カ籍ヲ去ルモノ）夫カ籍ヲ去ルモノ）同籍內	
(二)本籍地	夫	（府縣）　（郡市）　（町村）
	妻	（府縣）　（郡市）　（町村）
(三)離婚當時ノ所在地	夫	（府縣）　（郡市）　（町村）
	妻	（府縣）　（郡市）　（町村）
(四)協議離婚	屆出ノ年月日	大正　年　月　日
(五)裁判離婚	確定ノ年月日）大正　年　月　日 訴ヘタル者　夫）妻） 原因　民法第八百十三條第　號	
(六)婚姻ノ年月日	年　月　日	
(七)氏名	夫	妻
(八)出生ノ年月日	年　月　日	年　月　日
(九)職業		

離

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

〔棒法〕

〔棒法〕

第三號樣式

出生票

大正　年　月

生

種類番號第　　號（　）

（府縣）　郡市　）（町村）　）（役所役場）

(一)氏名及男女ノ別	男）女）（氏名）	
(二)出生ノ場所	（府縣）　（郡市）　（町村）	
(三)出生ノ年月日	大正　年　月　日	
(四)嫡庶私ノ別	嫡出子）庶子）私生子	
(五)父母ノ職業	父	母

生

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

(六)父母ノ出生ノ年月日	父	年　月　日
	母	年　月　日

第四號様式

種類番號第　　號（　　）

死　亡　票

大正　　年　　月

（縣府）　（市郡）　（村町）　（役場所）

(一)氏名及男女ノ別	男）　女）　（名氏）
(二)死亡ノ場所	（縣府）　（市郡）　（村町）
(三)死亡ノ年月日	大正　年　月　日
(四)出生ノ年月日	年　月　日
(五)六歳未滿者ノ身分	嫡出子）　庶子）　私生子）
(六)配偶ノ關係	未婚　有配偶　死別　離別）
(七)職業	(甲)死亡者ノ職業 (乙)家計ノ主ナル職業
(八)死亡ノ原因	病）死―病名 自）殺―手段 其ノ他ノ變死―種類

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

〔樺法〕

〔樺法〕

第五號様式

埋火葬認許證番號　第　　號

死　産　票

大正　　年　　月

（縣府）　（市郡）　（役場所）

(一)分娩ノ場所		（縣府）　（市郡）　（村町）
(二)男女ノ別		男　女）
(三)分娩ノ年月日		大正　年　月　日
(四)姙娠ノ月數		箇月
(五)嫡庶私ノ別		嫡出子）　庶子）　私生子）
(六)父母ノ職業	父	
	母	
(七)父母ノ出生ノ年月日	父	年　月　日
	母	年　月　日

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

●人口動態調査令施行細則

大正十一年十一月二日
閣令第八號

改正　大一五年七月閣令第四號

人口動態調査令施行細則左ノ通相定ム

人口動態調査令施行細則

第一條　人口動態調査票ノ用紙ハ別表第一號樣式及第二號樣式ノ送致目錄用紙ト共ニ翌年中ノ需用枚數ヲ見積リ内閣總理大臣之ヲ毎年十月末日迄ニ府縣知事ニ交付ス

第二條　府縣知事ハ前條ノ用紙ヲ受領シタルトキハ府縣送致目錄用紙及豫備ノ爲保留スヘキ分ヲ除キ其ノ他ハ之ヲ其ノ年十一月三十日迄ニ市町村長ニ交付スヘシ

第三條　（削除）

第四條　府縣知事及市町村長ハ交付ヲ受ケタル用紙ニ不足ヲ生スル虞アリト認メタルトキ又ハ第一條及第二條ノ期限迄ニ之ヲ受領セサルトキハ府縣知事ハ内閣總理大臣ニ、市町村長ハ府縣知事ニ其ノ旨申出テ之カ交付ヲ受クヘシ

第五條　年末ニ於テ使用殘ノ用紙アリタルトキハ各種毎ニ其ノ枚數ヲ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ市町村長ハ府縣知事ニ、府縣知事ハ翌年二月二十日迄ニ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

前項ノ用紙ハ之ヲ翌年ニ繰越シ使用スヘシ

第六條　市町村長ハ内閣總理大臣ノ定ムル人口動態調査票及送致目錄作成心得ニ基キ左ノ各號ニ依リ人口動態調査票ヲ作成スヘシ

一　婚姻、離婚、出生及死亡ニ付テハ一事件毎ニ一枚ノ婚姻票、離婚票、出生票及死亡票用紙ヲ用ヰ婚姻票、離婚票及出生票ハ戸籍法ニ依ル屆書、戸籍簿及民法第七百七十六條ノ規定ニ基ク調査ニ依リ、死亡票ハ戸籍法ニ依ル屆書、戸籍簿、醫師ノ死亡診斷書又ハ檢案書、警察官ノ檢視調書、官公署ノ報告等ニ依リ、航海中ノ出生及死亡ニ關シテハ航海日誌ノ謄本ニ依リ、外國ニ在ル日本人カ其ノ國ノ方式ニ從ヒ屆出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ證書ノ謄本ニ依リ本籍地ノ市町村長之ヲ作成スヘシ但シ本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ關シテハ屆出地ノ市町村長之ヲ作成スヘシ

二　死産ニ付テハ一事件毎ニ一枚ノ死産票用紙ヲ用ヰ墓地及埋葬取締規則ニ依リ認許證ヲ請フ爲ノ屆書及之ニ添附シタル醫師又ハ産婆ノ死産證書又ハ死胎檢案書ニ依リ埋火葬認許證ヲ付與シタル市町村長作成スヘシ

三　棄兒ニ付テハ一事件毎ニ一枚ノ出生票用紙ヲ用ヰ戸籍法第七十八條第二項ノ調書ニ依リ其ノ就籍シタル地ノ市町村長作成スヘシ

四　失踪ニ付テハ一事件毎ニ一枚ノ死亡票用紙ヲ用ヰ戸籍法ニ依ル屆書及戸籍簿ニ依リ本籍地ノ市町村長作成スヘシ

五　監督區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡確認ニ因ル除籍ノ手續ヲ爲シタル場合ニハ一事件毎ニ一枚ノ死亡票用紙ヲ用ヰ關係書類ニ依リ本籍地ノ市町村長作成スヘシ

第七條　市町村長ハ一月分ノ人口動態調査票ヲ作成シタルトキハ其ノ記入事項ヲ檢査シ誤謬ハ直ニ之ヲ訂正シ婚姻票、離婚票、出生票及死亡票ニ付テハ種類番號順ニ、死産票ニ付テハ埋火葬認許證番號順ニ之ヲ

整ヘ各其ノ枚數ヲ檢査シ帶紙ヲ以テ一括ト爲スヘシ但シ本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻票、離婚票、出生票及死亡票ハ記入順ニ重ネ其ノ枚數ヲ檢査シ帶紙ヲ以テ一括ト爲スヘシ

前項ノ手續ヲ終ヘタルトキハ市町村送致目錄用紙ヲ用ヰ各種毎ニ其ノ枚數及番號、各票ノ屬スル年月及役所役場名ヲ記入シ捺印シ番號ニ同號又ハ缺號アルトキハ其ノ番號及理由ヲ備考欄ニ記入シテ市町村送致目錄ヲ作成シ其ノ記載順ニ各種ノ人口動態調査票ヲ總括スヘシ

組合市町村ニ在リテハ一市町村毎ニ市町村送致目錄ヲ別ニシ人口動態調査票ヲ別括ニスヘシ但シ組合市町村ヲ通シテ種類番號一貫スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　市町村長ハ前條ノ手續ヲ終ヘタルトキハ市町村送致目錄ニ進達ノ年月日ヲ記入シ人口動態調査票ニ之ヲ添附シ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ（府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長ヲ經テ）府縣知事ニ之ヲ提出スヘシ

市町村長ハ進達スヘキ人口動態調査票ナキトキハ市町村送致目錄枚數欄ヘ夫々斜線ヲ畫シ前項ノ規定ニ準シ同目錄ノミヲ提出スヘシ

第九條　市町村ノ廢置分合、境界變更又ハ名稱變更アリタル場合ニ於テハ府縣知事ハ内閣總理大臣ニ其ノ旨直ニ報告スヘシ

第十條　府縣知事ハ市町村長ヨリ人口動態調査票ノ送付ヲ受ケタルトキハ市町村送致目錄ニ照シテ枚數及番號ヲ檢査シタル後更ニ各票ニ付記入事項ヲ檢査シ訂正ノ必要アルトキハ直ニ町村長ニ通知シ之カ訂正ヲ爲サシムヘシ

第十一條　府縣知事ハ前條ノ手續ヲ終ヘタルトキハ一市町村毎ニ再ヒ帶紙ヲ以テ人口動態調査票ヲ各種別ニ一括シ更ニ之ヲ總括シテ市町村括ト爲シ町村送致目錄ハ別ニ一括ト爲スヘシ

郡長ハ前項ノ手續ヲ終ヘタルトキハ市町村送致目錄ニ依リ府縣送致目錄ヲ作成スヘシ

第十二條　府縣知事ハ府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村ノ人口動態調査票ニ關シテハ當該支廳長ヲシテ第十條及前條第一項ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十三條　（削除）

第十四條　（削除）

第十五條　（削除）

第十六條　府縣知事ハ第十一條ノ手續ヲ終ヘタルトキハ府縣送致目錄ニ進達ノ年月日ヲ記入シ府縣送致目錄ハ郵便ニ依リ、各市町村ノ人口動態調査票及市町村送致目錄ハ適當ノ方法ニ依リ毎月十五日迄ニ前々月分ヲ内閣總理大臣ニ進達スヘシ

第十七條　府縣知事及市町村長ハ人口動態調査票及送致目錄ノ紛失毀損ヲ防ク爲保管及進達ニ付十分ナル注意ヲ爲スヘシ

第十八條　府縣知事ハ天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲所定ノ期限迄ニ人口動態調査票ノ全部又ハ一部ヲ送致スルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ニ其ノ旨直ニ報告スヘシ

第十九條　内閣總理大臣ハ市町村長ノ作成シタル人口動態調査票ニ關シ照會ヲ要スル場合ニ於テハ内閣統計局長ヲシテ直接市町村長ト照復セシムルコトアルヘシ

第二十條　本令中府縣支廳長町村町村長ニ關スル規定ハ市制第六條及第

八十二條ノ市ニ在リテハ市長區區長ニ之ヲ適用シ府縣トアルハ北海道及樺太ヲ、府縣知事トアルハ北海道廳長官及樺太廳長官ヲ、府縣支廳長トアルハ北海道廳支廳長及樺太廳支廳長ヲ、町村町村長トアルハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

別　表

第一號樣式

府縣送致目録（大正　年　月）

郡名又ハ支廳名	町村數	町村括數	町村送致目録數	備考
計				

市名	區數	括數	送致目録數	備考
計				

大正　年　月　日

內閣總理大臣　殿

府　縣　知　事

第二號樣式

市町村送致目録（大正　年　月）

		枚數	番號	備考	訂正枚數（內閣ニテ記入）	訂正番號（內閣ニテ記入）
本籍アル者	婚姻		自第　號 至第　號			
	離婚		自第　號 至第　號			
	出生		自第　號 至第　號			
	死亡		自第　號 至第　號			
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡						
死產			自第　號 至第　號			

大正　年　月　日

（府縣）

（市郡）

（役所
役場）

●人口動態調査令施行細則取扱手續

昭和八年二月十九日
訓令第十二號

長官々房　支廳　町村役場

人口動態調査令施行細則取扱手續左ノ通定ム

人口動態調査令施行細則取扱手續

第一條　町村長ハ別記第一號樣式ニ依ル人口動態調査票及市町村送致目錄ノ受拂簿ヲ備ヘ用紙ノ受拂ヲ明ニ爲シ置クヘシ

第二條　人口動態調査令施行細則第五條ニ規定スル使用殘枚數ハ別記第二號樣式ニ依リ町村長ハ翌年一月二十日迄ニ支廳長又ハ支廳出張所長ニ、支廳長又ハ支廳出張所長ハ翌年一月末日迄ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第三條　人口動態調査票及市町村送致目錄ハ其ノ前月分ヲ町村長ハ毎月二十日迄ニ支廳長又ハ支廳出張所長ニ提出シ、支廳長又ハ支廳出張所長ハ毎月末日迄ニ之ヲ樺太廳長官ニ進達スヘシ

第四條　支廳長又ハ支廳出張所長ハ町村長ヨリ前條ノ人口動態調査票ノ送付ヲ受ケタルトキハ市町村送致目錄ニ照シテ枚數及番號ノ檢査ヲ爲シタル後更ニ各票ニ付記入事項ヲ檢査シ訂正ノ必要アルトキハ直ニ町村長ニ通知シ之カ訂正ヲ爲サシムヘシ

第五條　支廳長又ハ支廳出張所長ハ前條ノ手續ヲ了ヘタルトキハ一町村毎ニ再ヒ帶紙ヲ以テ人口動態調査票ヲ各種別ニ一括シ更ニ之ヲ總括シテ町村括ト爲シ市町村送致目錄ハ別ニ一括ノ上別記第三號樣式ニ依ル支廳（又ハ支廳出張所）送致目錄ヲ添附シ進達スヘシ

第六條　支廳長、支廳出張所長及町村長ハ別記第四號樣式ニ依ル人口動態調査票整理簿ヲ備ヘ前條ノ進達ニ先チ市町村送致目錄ニ記入セラレタル事項ヲ記入スヘシ

第七條　支廳長、支廳出張所長及町村長ハ天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リ所定期限迄ニ人口動態調査票ノ全部又ハ一部ヲ送致スルコト能ハサルトキハ町村長ハ支廳長又ハ支廳出張所長ニ、支廳長又ハ支廳出張所長ハ樺太廳長官ニ其ノ旨直ニ報告スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號樣式

人口動態調査票用紙受拂簿

婚姻票

年月日	前年ヨリ繰越枚數	本年分受拂枚數	本年中		殘枚數	備考
			使用枚數	亡損枚數		
計						

各種別毎ニ調製シ毎月ノ人口動態調査票作成ト同時ニ差引ヲ記入スベシ

第二號樣式

人口動態調査票使用殘數（昭和　年末現在）

婚姻票	離婚票	出生票	死亡票	死產票	市町村送致目錄

支廳又ハ支廳出張所ニアリテハ各町村別ニ列記ノ上集計スベシ

第三號樣式

支廳（支廳出張所）送致目錄（昭和　年　月）

町村名	本籍アル者				本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ枚數				枚數
	婚姻枚數	離婚枚數	出生枚數	死亡枚數	婚姻	離婚	出生	死亡	
計									

昭和　年　月　日

樺太廳長官　殿

支廳長（支廳出張所長）

支廳（支廳出張所）送致目錄ノ下ノ括弧內ニハ人口動態調査票ノ屬スル年月ヲ記入シ其ノ下ニ取扱者捺印スベシ

第四號樣式

人口動態調査票整理簿

支廳（支廳出張所、町村）長認印	月	本籍アル者				本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡	死產
		婚姻	離婚	出生	死亡		
	枚數						
取扱者認印	番號	自 至	自 至	自 至	自 至		自 至
	備考						
支廳（支廳出張所、町村）長認印	月	本籍アル者				本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡	死產
		婚姻	離婚	出生	死亡		
	枚數						
取扱者認印	番號	自 至	自 至	自 至	自 至		自 至
	備考						

本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ハ番號欄ニ其ノ種別ヲ記載シ置クヘシ

●人口動態調査票及送致目錄作成心得

大正十一年十一月二日
内閣訓令第一號

改正　大一五年七月閣訓第一號

人口動態調査票及送致目錄作成心得左ノ通定ム

人口動態調査票及送致目錄作成心得

第一章　一般ノ記入心得

第一　人口動態調査票ハ戸籍法ニ基ク屆書ノ記載事項ヲ戸籍簿ニ記載ノ際又ハ墓地及埋葬取締規則ニ依ル死産ニ關スル埋火葬認許證付與ノ際直ニ之ヲ記入シ屆書其ノ他ノ關係書類ト校合スヘシ但シ本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ付テハ屆書受理ノ際之ヲ爲スヘシ

第二　婚姻票離婚票出生票及死亡票中「種類番號第　號」ト印刷シアル場所ニハ戸籍法施行細則第八條ノ規定ニ依リ屆書其ノ他ノ書類ニ記載シタル種類番號ヲ記入シ、死産票中「埋火葬認許證番號第　號」ト印刷シアル場所ニハ明治三十三年內務省訓令第二十一號ニ依ル死産埋火葬認許證ノ番號ヲ記入スヘシ

第三　人口動態調査票ノ右欄「府縣郡市町村及役所役場」ト印刷シアル場所ニハ本籍アル者ノ婚姻離婚出生及死亡ニ在リテハ本籍地タル府縣郡市町村名及市役所又ハ町村役場名ヲ、本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻離婚出生及死亡ニ在リテハ屆出地タル府縣郡市町村名及市役所又ハ町村役場名ヲ、死産ニ在リテハ本籍アル者タルト否トヲ問ハス死産ニ關スル埋火葬認許證ヲ付與シタル市役所又ハ町村役場名ヲ其ノ府縣又ハ府縣郡名ト共ニ記入スヘシ

第四　人口動態調査票上部ノ「大正　年　月」ト印刷シアル場所ニハ人口動態調査票ヲ作成シタル年月ヲ記入スヘシ

第五　人口動態調査票ノ記入事項中分明ナラサルモノハ推定記入ヲ爲シ推定記入モ爲シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記入スヘシ但シ年月日場所其ノ他ノ記入事項中一部分明ナラサル場合ニ於テハ全部不詳トセス其ノ分明ナラサル部分ノミヲ不詳ト記入スヘシ

第六　朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島、外國及航海中ニ於ケル婚姻、離婚、出生、死亡及死産ニ付婚姻及離婚當事者ノ本籍地、出生及死亡ノ場所並死胎分娩ノ場所ヲ記入スル場合ニハ人口動態調査票中「府縣郡市町村」ト印刷シアル場所ニ府縣郡市町村ノ區別ニ拘ラス屆書記載ノ儘ヲ記入スヘシ

第七　人口動態調査票ノ記入文字ハ墨又ハ黒インキニテ明瞭ニ書スヘシ

第八　外國文字及日本ノ年號以外ノ年號ハ成ルヘク之ヲ避ケ假名及日本ノ年號ニ依リ記入スヘシ

第二章　各票ノ記入心得

第一節　婚姻票

第九　夫妻ノ本籍市町村ヲ異ニスル婚姻ニ付テハ其ノ雙方ノ本籍市町村ニ於テ各別ニ婚姻票ヲ作成スヘシ

第十　婚姻票ノ記入事項(一)乃至(八)ハ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ

一　種別欄ニハ妻カ夫ノ籍ニ入ル普通ノ婚姻ノ場合ニハ婚姻屆書ニ別段ノ記載ナキモ夫カ妻ノ籍ニ入ル入夫婚姻及壻養子婚姻ノ場合ニハ婚姻屆書ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「普通」「入夫」又ハ「壻養子」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ

同一戸籍内ニ在ル者ノ婚姻ニ付テハ前同樣ニ處理スヘシ

二　本籍地欄ニハ夫妻共ニ婚姻前ノ本籍地ヲ記入スヘシ本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ付テハ無籍又ハ本籍不明ト記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ記入スヘシ

三　婚姻當時ノ所在地欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル所在地ヲ記入スヘシ但シ其ノ記載ナキ場合ニハ本籍地ヲ記入スヘシ

四　屆出ノ年月日欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル屆出ノ年月日ヲ記入スヘシ

五　氏名欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル夫妻ノ氏名ヲ記入スヘシ

六　出生ノ年月日欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル夫妻ノ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

七　配偶ノ關係欄ニハ初メテ婚姻シタル者ニ付テハ戸籍簿ニ別段ノ記載ナキモ嘗テ婚姻シタルコトアリテ前配偶者ニ死別レタル者又ハ前配偶者ト離婚シタル者ハ戸籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「初婚」「死別」又ハ「離別」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ但シ三婚以上ノ者ニ付テハ直前ノ配偶關係ニ依ルヘシ他市町村ノ者ニ付テハ戸籍簿ニ依リ難キモ民法第七百七十六條ノ規定ニ依ル調査又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ前配偶關係判明シタルトキハ前同樣ニ處理シ前配偶關係判明セサルトキハ「不詳」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ

八　職業欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル夫妻ノ職業ヲ記入スヘシ

第二節　離婚票

第十一　夫妻ノ本籍市町村ヲ異ニスル離婚ニ付テハ其ノ雙方ノ本籍市町村ニ於テ各別ニ離婚票ヲ作成スヘシ

第十二　離婚票ノ記入事項(一)乃至(九)ハ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ

一　種別欄ニハ離婚屆書ニ依リ妻カ夫ノ籍ヲ去ル離婚、夫カ妻ノ籍ヲ去ル離婚及同一戸籍内ニ留ル離婚ノ別ヲ知リ得ヘキヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「妻カ籍ヲ去ルモノ」「夫カ籍ヲ去ルモノ」又ハ「同籍内」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ

二　本籍地欄ニハ離婚後ノ本籍地ヲ記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ記入スヘシ

三　離婚當時ノ所在地欄ニハ離婚屆書ニ記入シアル所在地ヲ記入スヘシ但シ其ノ記載ナキ場合ニハ本籍地ヲ記入スヘシ

四　協議離婚欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル屆出ノ年月日ヲ記入スヘシ

五　裁判離婚欄ニハ戸籍法第百五條ノ規定ニ依リ離婚屆書ニ添附ノ裁判ノ謄本ニ記載シアル裁判確定ノ年月日ヲ記入シ訴ヘタル者夫ナルカ妻ナルカノ區別ニ從ヒ「夫」又ハ「妻」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附シ更ニ「原因（民法第八百十三條）第　號」ト印刷シアル場所ニ其ノ號數ヲ記入スヘシ

六　婚姻ノ年月日欄ニハ戸籍簿ニ記載シアル婚姻ノ年月日ヲ記入スヘシ

七　氏名欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル夫妻ノ氏名ヲ記入スヘシ

八　出生ノ年月日欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル夫妻ノ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

九　職業欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル夫妻ノ職業ヲ記入スヘシ

第三節　出生票

第十三　複產ノ場合ニ於テハ一出生兒每ニ一枚ノ出生票ヲ作成シ且「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧內ニ雙兒、三兒等ノ區別ヲ記入スヘシ

第十四　出生票ノ記入事項（一）乃至（六）ハ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ「種類番號第　號（　）」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ出生屆書ニ依リ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附シ氏名ノ下ニ出生兒ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　出生ノ場所欄ニハ出生屆書ニ記載シアル出生ノ場所ヲ記入スヘシ

三　出生ノ年月日欄ニハ出生屆書ニ記載シアル出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　嫡庶私ノ別欄ニハ嫡出子ノ場合ニハ出生屆書ニ別段ノ記載ナキモ庶子及私生子ノ場合ニハ出生屆書ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「嫡出子」「庶子」又ハ「私生子」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ

五　父母ノ職業欄ニハ出生屆書ニ依リ嫡出子ニ在リテハ父母ノ、庶子ニ在リテハ父ノ、私生子ニ在リテハ母ノ職業ヲ記入スヘシ

六　父母ノ出生ノ年月日欄ニハ戶籍簿ニ依リ嫡出子ニ在リテハ父母ノ、庶子ニ在リテハ父ノ、私生子ニ在リテハ母ノ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

第十五　棄兒ニ付テハ戶籍法第七十八條ノ規定ニ依ル棄兒ノ調書ニ基キ左ノ各號ニ依リ記入ヲ爲スノ外「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧內ニ棄兒ト記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附シ氏名ノ下ニ棄兒ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　出生ノ場所欄ニハ棄兒發見ノ場所ヲ記入スヘシ

三　出生ノ年月日欄ニハ出生ノ推定年月日ヲ記入シ其ノ下ニ棄兒發見ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　嫡庶私ノ別、父母ノ職業及父母ノ出生ノ年月日ノ三欄ニハ記入スルコトヲ要セス

第四節　死亡票

第十六　死亡票ノ記入事項（一）乃至（八）ハ死亡屆書、診斷書、檢案書、檢視調書、官公署ノ報告、航海日誌ノ謄本、外國ノ方式ニ從ヒ作ラシメタル證書ノ謄本及戶籍簿ニ基キ左ノ各號ニ依リ記入ヲ爲スノ外本籍ナキ者又ハ本籍分明ナラサル者ニ付テハ「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧內ニ無籍又ハ本籍不明ト記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ「種類番號第　號（　）」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ死亡屆書其ノ他ノ關係書類ニ依リ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附シ氏名ノ下ニ死亡者ノ氏名ヲ記入スヘシ

〔棒法〕

二　死亡ノ場所欄ニハ死亡屆書其ノ他ノ關係書類ニ記載シアル死亡ノ場所ヲ記入スヘシ

三　死亡ノ年月日欄ニハ死亡屆書其ノ他ノ關係書類ニ記載シアル死亡ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　出生ノ年月日欄ニハ本籍アル者ニ在リテハ戶籍簿ニ記載シアル出生ノ年月日ヲ、其ノ他ノ者ニアリテハ關係書類ニ記載シアル出生ノ年月日又ハ推定年齡ヲ記入スヘシ

五　六歲未滿者ノ身分欄ニハ嫡出子ノ場合ニハ戶籍簿ニ別段ノ記載ナキモ庶子及私生子ノ場合ニハ戶籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「嫡出子」「庶子」又ハ「私生子」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ

六　配偶ノ關係欄ニハ未タ婚姻セサル者ニ付テハ戶籍簿ニ別段ノ記載ナキモ現ニ配偶者アル者及現ニ配偶者ナキモ曾テ婚姻シタルコトアリテ其ノ配偶者ニ死別レタル者又ハ配偶者ト離婚シタル者ハ戶籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「未婚」「有配偶」「死別」又ハ「離別」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ但シ再婚以上ノ者ニ付テハ直前ノ配偶關係ニ依ルヘシ夫妻同時ニ死亡シタル場合ニハ「有配偶」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ

七　職業欄ニハ死亡診斷書、檢案書其ノ他ノ關係書類ニ記載シアル死亡者ノ職業及家計ノ主ナル職業ヲ「（甲）死亡者ノ職業（乙）家計ノ主ナル職業」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ但シ家計ノ主ナル者ノ死亡シタル場合ニハ「（甲）死亡者ノ職業」ト印刷シアル下ニ其ノ職業ヲ記入シ「（乙）家計ノ主ナル職業」ト印刷シアル下ニ斜線ヲ畫スヘシ

八　死亡ノ原因欄ニハ死亡診斷書、檢案書其ノ他ノ關係書類ニ依リ病死シタル者、自殺シタル者其ノ他變死シタル者ノ區別ニ從ヒ「病死」「自殺」又ハ「其ノ他ノ變死」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附シ更ニ病死ノ場合ニハ腸加答兒流行性感冒等其ノ病名ヲ、自殺ノ場合ニハ入水縊死等其ノ手段ヲ、其ノ他ノ變死ノ場合ニハ溺死凍死等其ノ種類ヲ相當欄ニ成ルヘク詳細ニ記入スヘシ

第十七　失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ記入ヲ爲スノ外「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧內ニ失踪ト記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ戶籍簿ニ依リ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附シ氏名ノ下ニ失踪者ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　死亡ノ年月日欄ニハ失踪宣告ノ屆書ニ記載シアル民法第三十條ニ規定スル期間滿了ノ年月日ヲ記入スヘシ

三　出生ノ年月日欄ニハ戶籍簿ニ記載シアル出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　配偶ノ關係欄ニハ未タ婚姻セサル者ニ付テハ戶籍簿ニ別段ノ記載ナキモ現ニ配偶者アル者及現ニ配偶者ナキモ曾テ婚姻シタルコトアリテ其ノ配偶者ニ死別レタル者又ハ配偶者ト離婚シタル者ハ戶籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「未婚」「有配偶」「死別」又ハ「離別」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ但シ再婚以上ノ者ニ付テハ直前ノ配偶關係ニ依ルヘシ

五　死亡ノ場所、六歲未滿者ノ身分、職業及死亡ノ原因ノ四欄ニハ記入スルコトヲ要セス

〔棒法〕

第十八　戸籍法第六十四條第三項及第三十九條第二項ノ規定ニ依リ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡確認ニ因ル除籍ノ手續ヲ爲シタル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ記入ヲ爲スノ外「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧內ニ戸籍抹消ト記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ戸籍簿ニ依リ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附シ氏名ノ下ニ戸籍ヲ抹消セラレタル者ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　死亡ノ年月日欄ニハ戸籍簿ニ依リ死亡確認ノ年月日ヲ記入スヘシ

三　出生ノ年月日欄ニハ戸籍簿ニ記載シアル出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　配偶ノ關係欄ニハ未タ婚姻セサル者ニ付テハ戸籍簿ニ別段ノ記載ナキモ現ニ配偶者アル者及現ニ配偶者ナキモ嘗テ婚姻シタルコトアリテ其ノ配偶者ニ死別レタル者又ハ配偶者ト離婚シタル者ハ戸籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「未婚」「有配偶」「死別」又ハ「離別」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ但シ再婚以上ノ者ニ付テハ直前ノ配偶關係ニ依ルヘシ

五　死亡ノ場所、六歳未滿者ノ身分、職業及死亡ノ原因ノ四欄ニハ記入スルコトヲ要セス

第五節　死產票

第十九　複死產ノ場合ニ於テハ一死產兒每ニ一枚ノ死產票ヲ作成シ且「埋火葬認許證番號第　號」ト印刷シアル下ニ雙胎兒、三胎兒等ノ區別ヲ記入スヘシ

第二十　死產票ノ記入事項(一)乃至(七)ハ死產證書又ハ死胎檢案書ニ基キ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ「埋火葬認許證番號第　號」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

一　分娩ノ場所欄ニハ死胎分娩ノ場所ヲ記入スヘシ

二　男女ノ別欄ニハ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ

三　分娩ノ年月日欄ニハ死胎分娩ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　姙娠ノ月數欄ニハ姙娠ノ月數ヲ記入スヘシ

五　嫡庶私ノ別欄ニハ嫡出子、庶子及私生子ノ區別ニ從ヒ「嫡出子」「庶子」又ハ「私生子」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圈點ヲ附スヘシ

六　父母ノ職業欄ニハ嫡出子及庶子ニ在リテハ父ノ、私生子ニ在リテハ母ノ職業ヲ記入スヘシ

七　父母ノ出生ノ年月日欄ニハ嫡出子ニ在リテハ父母ノ、庶子ニ在リテハ父ノ、私生子ニ在リテハ母ノ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

第三章　送致目錄ノ作成心得

第二十一　市町村送致目錄ハ人口動態調査令施行細則第七條及第八條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ニ依リ之ヲ作成スヘシ

一　人口動態調査票中或種ニ限リ提出スヘキモノナキトキハ市町村送致目錄中當該種類ノ下枚數欄ニ斜線ヲ畫シ備考欄ニナシト記入スヘシ

二　市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ人口動態調査事務ノ引繼ヲ受ケタル市町村ハ引繼ヲ受ケタル人口動態調査票ニ付別ニ市町村送致目錄ヲ作成シ「市町村送致目錄（大正　年　月）」ト印刷シアル下ニ廢合ノ年月日及廢合セラレタル市町村名ヲ記入シ「役所役場」ト印刷シアル下ニ引繼ヲ受ケタル役所役場名ヲ記入スヘシ

三　市町村カ單ニ其ノ名稱ヲ變更シタル場合又ハ村カ町ト爲リ町カ村ト爲リ若ハ町カ市ト爲リタル等ノ場合ニハ前市町村名及其ノ變更アリタル年月日ヲ「市町村送致目錄（大正　年　月）」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

四　市町村ノ一部カ分離シテ新ナル市町村創設セラレ又ハ他市町村ニ合併セラレタル場合ニハ分離前ノ市町村ニ於テハ「市町村送致目錄（大正　年　月）」ト印刷シアル下ニ分離ノ年月日、一部分離何市町村創設又ハ何市町村ヘ合併ト記入シ一部分離シ創設セラレタル市町村ニ於テハ創設ノ年月日、何市町村ヨリ分離創設ト記入シ一部ヲ合併シタル市町村ニ於テハ合併ノ年月日、何市町村ノ一部本市町村ヘ合併ト記入スヘシ

五　組合市町村ノ場合ニ一市町村每ニ市町村送致目錄ヲ作成シタルトキハ「役所役場」ト印刷シアル下ニ組合市町村ノ役所又ハ役場名ヲ記入シ尙各其ノ市町村名ヲ「市町村送致目錄（大正　年　月）」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

第二十二　府縣送致目錄ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作成スヘシ

一　慣用ノ順序ニ郡名又ハ支廳名ヲ記入シ各郡又ハ支廳每ニ其ノ町村數、人口動態調査票ノ町村括數及町村送致目錄ノ枚數並各其ノ合計ヲ相當欄ニ記入スヘシ但シ各種ヲ通シ人口動態調査票全部ノ提出ナキ町村アリタル場合ニ於テハ其ノ郡又ハ支廳備考欄ニ「何町村提出ナシ」ト記入スヘシ

二　慣用ノ順序ニ市名ヲ記入シ區アル市ハ區數欄ニ其ノ區數ヲ記入シ區ナキ市ハ斜線ヲ畫シ尙人口動態調査票ノ括數、送致目錄ノ枚數及各其ノ合計ヲ相當欄ニ記入スヘシ

三　「府縣送致目錄」ト印刷シアル下ノ括弧內ニハ人口動態調査票ノ屬スル年月ヲ記入スヘシ

四　前各號ノ手續ヲ終ヘタルトキハ提出ノ年月日及府縣名ヲ記入シ府縣知事其ノ下ニ捺印スヘシ

第四章　記入例

第一節　婚姻票ノ記入例

第一例　夫妻本籍地ヲ異ニスル爲一婚姻ニ對シ二枚ノ婚姻票ヲ要スル普通婚姻ノ例